

## 5 日華基本条約の締結

557

昭和15年4月5日

有田外務大臣より  
在仏国沢田大使、在米国堀内大使他宛  
(電報)

### 南京国民政府の成立につき報告

別電 昭和十五年四月五日発有田外務大臣より在仏

国沢田大使、在米国堀内大使他宛合第六六四号

南京国民政府発表の十大政綱および財政政策

本省 4月5日後11時発

合第六六三號

一、汪兆銘ヲ首班トスル中央政府ハ三月三十日南京ニ成立シタルカ五院十四部(工商、農鑛、宣傳、社會、警政部等ヲ増設セリ)及中央政治委員會中心ノ組織トシ國民黨改組派、CC團ノ外臨時及維新政府要人ノ一部ヲ之ニ配シ(次長以上ニテ國民黨員約六割ヲ占ム)成立當時十大政綱ヲ又卅一日財政部長周佛海ノ名ヲ以テ財政政策ヲ發表セ

リ(別電合第六六四號參照)

二、同政府成立ト共ニ維新政府ハ解消シ臨時政府ハ華北政務委員會(河北、山西、山東省及特別市ヲ管轄シ主トシテ北支ニ於ケル日本トノ協力業務ヲ取扱フ)ニ改組セラレタルカ同委員會及新政府ハ夫々臨時政府及維新政府ノ辦シタル諸事項ヲ其ノ儘繼承シ事態平靜ニ赴クニ從ヒ必要アラハ互惠平等ノ原則ニ依リ逐次之ヲ調整スルコトナリ尙蒙疆自治政府ハ中央政府ヨリ高度ノ自治ヲ認メラレテ從前通り存續シ居レリ漢口廣東等ノ政治組織ニハ未タ變更ナシ

三、新政府ノ地盤ハ北支蒙疆河南省(北半)江蘇安徽浙江(錢塘江以北)湖北(岳州迄)江西(南昌迄)及廈門汕頭廣東地方竝ニ海南島ニ及ヒ海岸線ハ(福州寧波ヲ除ク)殆ト其ノ手ニアリテ新政府ノ範圍ニ屬スル外國貿易及關稅ハ全支收入ノ八割三分ニ達シ(一九三九年全支貿易額約二十三億六千萬圓關稅約三億三千萬圓)今後物資ノ移動制限緩

和セラルルニ從ヒ右外國貿易ノ増加ト共ニ關稅統稅及鹽稅收入ハ増加スルモノト豫想セラル尙北支ノ交通ハ何レモ回復セラレ上海南京ト漢口ノ間ニハ營業用航空路(及定期軍用船就航ス)アリ北支間ニモ飛行便ノ他津浦線ノ連絡アリ京滬線ハ一日二回急行車ヲ出シ五時間半ニテ運轉シツツアリ又軍事的ニハ河南省開封ニ歸順兵ヲ收編セル綏靖部隊アリテ次第二増加シ居レリ又新政府ニ於テハ民心獲得ノ爲宣傳ニ意ヲ用ヒ其ノ機關紙中華日報ハ毎日八萬部(支那大新聞ノ發行部數ナリ)ヲ發行スル外中支ニ於ケル教育界勞働界ニ對スル噶込ニモ既ニ相當ノ成果ヲ收メツツアリ旁々今後治安恢復セララルニ伴ヒ新政府ノ實力ハ次第二増進シ行クモノト豫想セラル

四、新政府ハ中華民國國民政府ノ名稱及青天白日滿地紅旗ヲ襲用シ又從來ノ政府ノ法統ヲ繼承シ南京ニ還都スルモノナリトノ立前ヲ執リ居ル處右ハ對内關係上人心把握ニ資セントスルモノニシテ國際法上ハ明カニ新政府ノ樹立ナルニ付帝國トシテハ右立前ヲ以テ問題ノ處理ニ當ル方針ニシテ之カ正式承認ノ前提トシテ阿部前總理ヲ特派大使ニ任シ新政府トノ修交ニ當ラシムル筈ニテ同大使ハ四月

下旬着任二十六七日頃慶祝ノ行事ニ參列ノ豫定ナリ尙我國ノ新政府ニ對スル正式承認ハ列國ニ先ンシテ之ヲ行ヒ右八目下ノ處日支關係ヲ律スヘキ基本條約調印ノ方法ニ依リ度考ナルカ其ノ時期ハ未定ナリ

五、政府ハ先ツ南京、上海方面ノ地盤ヲ固ムル方針ニシテ右達成ノ上ハ重慶ニ對スル切崩シ、財界金融界要人ノ參加及軍隊ノ寢返リ等モ可能ナルヘク我方トシテハアラユル方面ニ於テ新政府ニ對スル全幅ノ支援ヲ吝マサルモノナルカ差當リノ措置トシテハ新政府カ各般ノ善政ヲ布クコトニ因リ外支人ノ同政府ニ對スル信賴ヲ高ムルカ如キ施策ヲナスコト肝要ナルヲ以テ我方トシテモ右ニ呼應シ支那人ハ勿論第三國側ニ對シテモ力メテ其ノ關係ヲ調整スル日途ノ下ニ差當リ支那ニ於ケル排外運動ノ禁遏、天津租界問題ノ調整、揚子江及珠江開放ノ急速實行、旅行及物資移動制限ノ緩和、第三國權益ノ制限乃至毀損ニ對スル調整ノ促進等ニ付交渉又ハ準備進行中ナリ

本電及別電宛先 佛、壽、米、伯、新嘉坡(以上ヲシテ歐米、南洋亞細亞、亞弗利加主要公館へ轉電セシム)、馬尼刺、北京、上海、南京、滿

(別電)

合第六六四號

本省 4月5日午後11時30分發

一、新政府ノ十大政綱左ノ通

1、善隣友好ノ方針ニ基キ和平外交ヲ以テ中國ノ主權、行政ノ獨立完整ヲ求メ以テ東亞永遠ノ平和及新秩序建設ノ責任ヲ分擔ス

2、友邦各國ノ正當ナル權益ヲ尊重シ且其ノ關係ヲ調整シ以テ友誼ヲ増進ス

3、友邦各國ト連結、共ニ國際共產主義ノ陰謀及其ノ他總テ平和攪亂ノ活動ヲ防遏ス

4、和平建國ヲ擁護スル軍隊及各地遊擊隊ハ之ヲ收容安定セシメ且ツ國防軍ヲ建設シ軍政、軍令兩大權ヲ明確ニ區分シ以テ軍事獨裁制ヲ打破ス

5、各級民意機關ヲ設立シ各界ノ人材ヲ網羅シテ全國ノ公意ヲ集中セシメ以テ民主政治ヲ助成ス

6、國民大會ヲ招集シ憲法ヲ定メ憲政ヲ實施ス

7、友邦各國ノ資本及ビ技術的合作ヲ以テ戰後經濟ノ回復ト産業ノ發展ヲ圖ル

8、對外貿易ヲ振興シ國際收支ノ均衡ヲ計リ竝ニ中央銀行ヲ再建シ幣制ヲ統一セシメ以テ社會金融ノ基礎ヲ確立ス

9、稅制ヲ整理シ人民ノ負擔ヲ輕減シ農村ヲ復興シ難民ヲ救濟シテ各其ノ生業ニ安ンゼシム

10、反共和平建國ヲ以テ教育ノ方針トナシ且科學教育ノ向上ヲ圖リ浮華妄動ノ學校ヲ一掃ス

二、財政政策左ノ通り

1、金融ノ安定 現在通用ノ各種通貨ハ差當リ之ヲ認め漸進的ニ其ノ改革統一ト金融安定ヲ期ス

2、國債ノ信用維持 政府成立前ノ外債ヲ一應承認シ其ノ關係性質ヲ調査シ適當ニ償還標準ヲ類別ス、内債ハ全面的和平成立ノ後適當ナル措置ニ依リ償還ス

3、國稅ノ整理

4、苛稅雜捐ノ撤廢

5、事變發生以來上海ニ流入シ居ル遊資ニ適切ナル投資方法ヲ與ヘ産業ノ發展ト民生ノ安定ヲ期ス

6、貿易調整

7、民衆生活ノ調節 事變以來物資ノ交流阻碍サレ各地

物價ノ平衡ヲ失シ居ルモノヲ調整シ人民ノ生活ヲ保證ス

8、農民ニ對シ資金貸付、農村設備ノ改良等ヲ爲シ民衆生活ノ幸福ヲ圖ル



558 昭和十五年四月五日 興亜院會議決定

「阿部特命全權大使ニ與フル訓令」

特訓第一號

昭和十五年四月五日

興亞院會議決定

阿部特命全權大使ニ與フル訓令

一、貴官ハ主トシテ南京ニ駐在シ別紙<sup>(省略)</sup>帝國ノ方針ニ基キ左記

任務ニ服スベシ

記

(一)中央政府ニ對スル協力業務、但シ軍事協力事項ヲ除ク

(二)支那ニ於ケル帝國ノ第三國關係外交竝ニ日支新關係條

約締結ニ關スル事務

三、前項(一)ニ關シテハ興亞院官制第六條ノ内閣總理大臣ノ命

ヲ受ケ又同(二)ニ關シテハ外務大臣ノ命ヲ受ケベシ

三、任務遂行ノ爲ノ所要ノ隨員ヲ附シ業務ノ處理ニ關シ貴官ノ指揮ヲ受ケシメラル

四、重要政策ノ處理竝ニ治安ニ關連スル事項ニ付テハ關係ノ陸海軍最高指揮官ト協議スベシ

五、前各項ノ外必要ナル事項ハ別ニ指示ス

昭和十五年四月五日

内閣總理大臣 米内 光政

外務大臣 有田 八郎

別紙トシテ附スルモノ左ノ如シ

第一、支那事變處理根本方針 昭和十三年一月十一日 御前會議 決定

第二、日支新關係調整方針 昭和十三年十一月三十日 御前會議 決定



559 昭和十五年四月五日 在独国外務大臣宛(電報)

南京政府承認問題に対するドイツの態度について

ベルリン 4月5日後発  
本 省 4月6日後着

第三二一號(極秘)

貴電合第五九四號ニ關シ(新中央政府樹立ノ件)

支那新政府ニ對スル獨逸ノ態度ニ付テハ當方ニ於テモ絶ヘ  
ス注意シ來レル所ナルカ往電第二七五號及第二八〇號ニ依  
リテモ察セラルル通り獨逸トシテハ此ノ際早急ニ新政府承  
認ノ措置ニ出ツル模様無ク右ハ(一)支那ノ現狀及日本内地一  
部ノ懷疑の言論等ヨリ見テ新政府ノ基礎及今後ノ發展ニ對  
シ獨逸トシテ未タ確信ヲ有セス當分事態ノ推移ヲ見ル必要  
アリト考ヘ居ルコト(二)獨逸トシテハ戰時ニ必要ナル物資補  
給ノ點ヨリ見テ蔣介石側トノ關係ニモ尙幾分ノ希望ヲ囑シ  
居リ此ノ間日本側ヨリスル對獨物資供給力獨ノ希望スル程  
ニ至ラサル實情ニ乘シ從來ノ支那負擔ノ連中ハ蔣政權トノ  
關係維持ノ必要ヲ強調シ居ルコト等ニ依ルモノト認メラル  
他方若シ獨逸政府ニ新政府承認ノ意動キ居ルトスルモ我方  
カ正面ヨリ之ヲ勧誘スルノ態度ヲ執ルトキハ獨逸ニテハ交  
換條件トシテ曾テ問題トナリタル支那ニ於ケル經濟待遇問  
題等ヲ持出シ來ルコト無キヲ保セサルニ依リ帝國政府トシ

テ他國ニ對スル關係ヲモ考慮セラレ果シテ早急ニ獨逸ノ承  
認ヲ希望セラルルヤ否ヤモ明カナラサルヲ以テ當方ニ於テ  
ハ單ニ獨逸ノ意嚮ヲ探ルニ止メ居タル次第ナリ冒頭貴電ニ  
依レハ現在未タ第三國ニ依ル承認促進ニ付我方ヨリ進ンテ  
申入レヲ爲ス迄ニ至リ居ラストノ御意嚮ナルカ對獨關係ニ  
於テ何等特ニ御考慮ノ點モアラハ本使含ミ迄ニ御回示願度  
シ



560 昭和15年4月5日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

南京政府成立に對する日本側態度を英国外務

次官へ説示について

ロンドン 4月5日後発  
本 省 4月6日後着

第五二〇號

支那問題ニ付テハ往電第五一九號説明ノ續キトシテ四日  
「バ」次官ニ面會ノ際新中央政府成立及四月中旬日本ハ大  
使ヲ特派シテ接觸ヲ保チ政府ノ基礎ノ固マルト共ニ徐々ニ  
交渉ニ入ル豫定ニシテ要スルニ新政府カ支那及支那人ノ爲

ノ政府トシテ發達シ列國トノ關係モ事實上順調ニ進ミ總ル方面ニ秩序ト友好ノ空氣ヲ醸成センコトカ日本ノ方針態度ニシテ右ハ日本カ今日東亞ニ於テ強キ立場ニ在ル爲實行シ得ル政策ナリト説明シ日本ノ希望スル所ハ支那問題ニ對シテハ英國ニ對シテハ勿論米國ニ對シテモ亦佛國ニ對シテモ右ノ如キ大局ニ立チテ進ミ居ルモノニシテ又重慶政府カ新中央政府ト(不明)ニ立チ或妥協ヲ爲スコトハ素ヨリ異存ナキ所ニシテ重慶政府カ昨今憲法運動ノ名ニ隠レタル赤化ノ傾向ヲ迪ルハ甚タ喜ハサル所ナリト述ヘタル處

「バ」ハ屢次ノ非公式説明ハ常ニ多トシ居ル所ニシテ意思疏通ニ大ナル效果アリ是ニ依リテ自分等モ機會アル毎ニ米國方面ニ適當ニ説明シ居レリ結局ハ「ブロードヴェー」ニ依リテ行フコト肝要ナリト思ハルト述ヘタリ

本使ハ日本カ素ヨリ各國ニ對シ前記ノ如キ態度ニテ出來得ル丈意思疏通ヲ計リタキ次第ナリ日本ノ對支政策ハ貴下ニ於テ了解セラルル通りニ付機會アラハ佛國首腦部ニモ大局ヲ過マラサル様説明アリテハ如何ト述ヘタルニ

「バ」次官ハ好ク了承セリト答ヘタリ

米へ轉電シ佛へ暗送セリ

561

昭和15年4月8日 興亜院會議決定

「特命全權大使ニ與フル内閣總理大臣及外務大臣合同指示」

大臣合同指示

付記 昭和十五年四月八日、堀内東亜局長作成

右決定に至る審議の際の諒解

昭和十五年四月八日

興亞院會議決定

特命全權大使ニ與フル内閣總理大臣及外務大臣

合同指示

一、今次事變處理ノ爲メ從來帝國政府ニ於テ決定セラレタル事項ニシテ貴官ノ任務遂行上準據スヘキモノ概ネ別冊ノ

如シ

二、前號ノ外任務遂行上特ニ留意セラルヘキ事項概ネ左ノ如

シ

(一)支那事變解決ノ原動力ハ皇軍就中其ノ活潑ナル作戦行

動ニ在ルヲ以テ貴官ノ任務遂行ニ當リテハ特ニ此點ニ

留意シ關係陸海軍最高指揮官ト緊密ナル連繫ヲ保持シ

其ノ協力ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

(二) 中央政府ヲシテ名實共ニ日支新關係調整ノ對象タラシムルト共ニ之ヲ以テ事變解決ノ促進ニ資セントスルハ帝國政府ノ方針ナリ之カ爲メ中央政府指導ノ重點ハ該政府ヲシテ其ノ力ヲ日支間ノ國交調整ノミニ用ヒシムルコトナク努メテ其ノ實力ノ保有發展ニ致サシムルコトニ置クヲ要ス

(三) 日支新關係調整ニ關スル帝國ノ方針ト現狀並梅機關汪側間協議內約トノ調整ニ當リテハ主トシテ作戰上ノ要求ト新中央政府育成トノ關係ヲ考慮シ日支新關係調整ニ關スル帝國ノ方針所期ノ狀態ニ誘導スルヲ主眼トシテ之ヲ行フヲ要シ特ニ既成事實ノ調整ニヨリ日支双方ニ不安動搖ヲ生セシムル惧アルモノニ付テハ漸ヲ追ツテ之ヲ進メ以テ戰爭遂行ヲ困難ナラシムルカ如キコト無キ様期スルヲ要ス

而シテ我カ戰時經濟確立ノ爲メ必要ナル經濟建設ハ溢滯齟齬ヲ來ササル様措置スルヲ要ス

(四) 帝國ノ中央政府ニ對スル正式承認ノ時機ハ内外ノ情勢ヲ考慮シ自主的ニ決定セラルヘク政府トシテハ目下ノ情勢ニ於テハ日支新關係調整ニ關スル基本條約締結時

ト豫定シアリ

(五) 日支新關係調整ニ關スル基本條約案及之ニ關スル交渉要領等ニ付テハ追ツテ訓令ス

(六) 第三國就中英、米、佛、獨、伊、蘇等ノ動向ハ事變ノ處理ニ至大ノ關聯ヲ有スルヲ以テ之等第三國ヲシテ事變處理ニ關スル帝國ノ眞意ヲ理解シ速ニ東亞新秩序建設ニ協力セシムル如ク努ムルモノトス  
之カ爲メ差當リ之等諸國カ極東ノ利害ヲ以テ合流シ帝國所期ノ方針遂行ヲ阻止スルカ如キ態度ニ出テシメサル様施策スルヲ要ス  
支那側ノ對第三國外交ハ帝國ノ夫ト相呼應シ施策ヲ活潑ナラシムル如ク指導スルヲ要ス

(七) 前項ニ關連シ特ニ第三國ヲシテ事變遂行中ノ特殊事態、就中作戰軍ノ生存上ノ必要ニ基キ我方トシテ特殊ノ措置ヲ採ルノ止ムヲ得サル場合多キモ其ノ眞意ハ新事態ニ即スル彼等ノ平和的經濟活動ヲ阻止セントスルモノニ非ルコトヲ理解セシムルト共ニ諸懸案ノ解決ヲ促進シ要スレハ我方ノ戰時經濟確立ニ緊切ナラサル經濟的部面ノ進出ヲ調整シ第三國ノ經濟合作ヲ誘致スル等

必要ナル手段ヲ講スルヲ要ス

(八) 將來帝國ノ在支政務關係機關ハ之カ一元的運用ニ關シ調整セラルヘキモ差當リ左ニ依リ相互ニ緊密ナル連絡ヲ遂ケ相扶ケ事變ノ處理ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

甲、興亞院現地機關トノ關係

貴官ト既設興亞院連絡部長官トノ關係ハ差當リ原則トシテ協議連絡ノミトシ直接指揮ノ連關ヲ有セサルモノトス

イ、中央政府ニ對スル協力業務中興亞院連絡部ノ事務ニ關係アル事項ニ關シテハ關係連絡部長官ト協議連絡スルモノトス

特ニ華中連絡部長官トハ充分密接ナル協議連絡ヲ保持スルモノトス

ロ、各連絡部長官ノ支那側ニ對スル協力事項中、中央政府ニ關係アル事項ハ各連絡部長官ヲシテ貴官ニ協議連絡セシメ其ノ他ノ重要事項ハ貴官ニ通報セシム但シ中央政府ニ對スル交渉事務ハ貴官ヲ通シテ行ハシム

乙、外務機關トノ關係

支那ニ於ケル第三國外交及日支新關係條約締結ニ關係アル事務ニ付キ在支帝國外交官及領事官ニ對シ必要ニ應ジ指示ヲ與フルモノトス

(九) 中央政府ニ招聘セラルヘキ日本人顧問職員(軍事關係ノ者ヲ除ク)等ハ貴官之ヲ指導スルモノトス

(付記)

昭和十五年四月八日興亞院會議決定ニ至ル

審議ノ際ノ諒解

四月八日興亞院會議ニ於テ決定セル阿部特命全權大使ニ對スル指示ノ審議ニ際シ

一、指示ニ(一)ノ「其ノ實力ノ保有發展ニ致サシム云々」ニ關シ外務大臣ヨリ右ハ中央政府ヲ指導シテ重慶工作等ヲナサシメ之ニ依リ新政府ノ實力ヲ昂メルコトヲモ含ムモノナリヤトノ質問アリ其ノ通りナリトノ諒解ヲ得タリ

二、指示ニ(四)正式承認ノ時期ニ關シ外務大臣ノ質問ニ對シ鈴木政務部長ヨリ答辯アリ之ニ對シ外務大臣ヨリ只今ノ政務部長ノ説明ハ要スルニ

「原案ノ趣旨ハ帝國ノ中央政府ニ對スル正式承認ハ自

主の二決定スルモノトス

目下政府トシテハ概ネ日支新關係調整ニ關スル基本條約締結ノ方法ニ依リ正式承認ヲナス意向ナリ

但シ内外ノ情勢ニ依リ右時期以前ニ於テ正式承認ヲナスコトアルヘシ

トノ意味ナリト解シ差支ナキヤト念ヲ押シ政務部長之ヲ肯定セルヲ以テ大臣ヨリ原案ヲ右質問ノ趣旨ニ訂正方提議シタルモ必スシモ字句修正ノ要ナカルヘシトノ意向ナリシニ付大臣ヨリ「原案ノ意味ハ内外ノ情勢ニ依リ基本條約締結以前ニ於テ正式承認ヲナスコトアルヘキヲ豫想シ居ルモ正式承認ヲ條約締結後ニ爲スコトアルヘシトノ意味ヲ包含シ居ラサル主旨明確ナラハ異議ナシ」ト述ヘ一同右ニ異存ナク原案ヲ決定セリ

562

昭和15年4月11日

在アルゼンチン内山(岩太郎)公使より  
有田外務大臣宛(電報)

列強諸国による速やかな南京政府承認を促進  
すべき旨意見具申

ブエノスアイレス 4月11日後発  
本 省 4月12日前着

第一六二號(極秘、館長符號扱)

待望<sup>(1)</sup>ノ新中華民国政府カ目出度ク樹立セラレタルハ慶賀ニ耐エス今後同政權ノ育成竝ニ列國ニ依ル承認問題殊ニ對英米關係ノ清算ニ付テハ帝國政府ニ於テ既ニ充分御檢討濟ノコトト存セラルルモ承認問題ニ關聯シ御參考迄左ニ卑見上申ス

一、歐洲戰爭ハ今後益々激化永續ノ兆アルモ其ノ後ニ來ルヘキ國際勢力ノ異動竝ニ我國内情勢ノ現状ニ鑑ミ極東ノ事態ハ一日モ速ニ安定化ノ必要アルハ論ヲ俟タス

二、之カ爲ニハ第三國ノ干渉ヲ排除シ南京政府ノ基礎ヲ強固ニスルト共ニ重慶政府ヲ壞滅ニ導クコトヲ絶對ノ條件トス

三、右目的ヲ遂行セントセハ南京政權ハ滿洲國獨立ノ場合ノ如ク外國ノ承認ヲ遷延ニ委サシムルハ得策ナラス

四、即チ新政權ハ可成速ニ多數列強ノ承認ヲ求ムルコトニ依リ既成事實樹立安定ヲ促進シ一面我ニ對スル列強ノ壓力ヲ分割シ得ヘシ而シテ右承認ヲシテ急速且已ムヲ得サル

モノタラシメンカ爲ニハ左ノ手段ニ依ルヲ最モ有效適切ナリト信ス

五、一九二六、七年當時波斯政府ノ採リタル不平等條約撤廢ノ例ニ倣ヒ

(イ)南京政府ヲシテ一定條件ノ下ニ現存不平等條約ヲ一律廢棄セシム

(ロ)同政府ハ成ルヘク公正ナル國際觀念ヲ基調トシ模範的  
新通商條約案ヲ作成シ先ツ伊太利其ノ他ノ友國ト條約  
關係ヲ樹立シ(日本ノ場合モ特殊事項ハ特殊條約ニ讓  
リ一般通商關係ハ成ルヘク右基本條約案ニ依ルコトカ  
國際關係ヲ調整スルニ有利ナルヘシ)例ヘハ一年ノ期  
限ヲ附シテ各國ニ對シ之ト同種條約ノ締結方ヲ提唱ス  
ルコト

(ハ)此ノ要求ニ應セサル國ハ右期間後當然無條約國トシ關  
稅其ノ他ニ於テ條約國ト區別スルコト

(ニ)右手段ヲ用フレハ支那ト通商關係アル國ハ必ス之ト交  
渉ヲ開始スヘク我方ハ守勢ヲ維持シツツ最モ有力ナル  
攻勢ヲ採リ得ヘシ

(ホ)若シ米國ノ如キカ法律論ヲ楯ニ交渉ヲ拒否シ徒ニ抗議

ヲ續クルコトアリトスルモ南京政府ハ公正ナル代案ヲ  
具シテ交渉ヲ求メ居ルヲ以テ進ンテ彼ニ攻撃ヲ加工居  
ル次第ニモアラス從テ米トシテモ武力干涉ノ如キ重大  
決意ヲ爲ス切掛ケヲ得難ク支那政府ノ態度ハ世界ノ輿  
論ニ訴フルモ疚シキ所ナク米若シ之ヲ肯セサレハ潔ク  
東洋ヨリ引揚クルニ如カストノ態度ヲ執リ得ヘシ帝國  
ノ立場モ亦新支那ノ此ノ態度ヲ擁護スルニ於テ(ハ)對  
米日支協力ノ實ヲ擧ケ得ルノミナラス世界ニ對シテモ  
局面ヲ有利ニ展開シ得ヘシト存セラル



563

昭和15年4月13日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

蔣介石の対南京工作および国共關係の現況な

ど重慶政權の最近の動向につき報告

上海 4月13日後発  
本省 4月13日夜着

第七二一號

往電第七二〇號ノ外JK報告中(一)蔣介石ノ新中央政府ニ對  
スル破壊工作(二)重慶外交ノ新動向(三)國共關係今後ノ變化ニ

關スルモノ大要左ノ通り

一、新中央政府成立ニ先立チ蔣ハ顧孟餘ヲシテ陳公博ヲ通シ汪ニ對シ政府組織ノ當分延期方勸告セシ處汪ハ將來假令蔣側ト合作スルコトアリトスルモノ一應政府樹立ノ上ナラテハ蔣ヨリ瞞サルル虞レアリトシテ之ヲ承知セサリシ經緯アリ尙其ノ際蔣トシテハ其ノ場合陳ヲ汪ヨリ離脱セシムヘキ旨ヲ含メ置キタルモ陳汪兩者ノ因縁關係ノ方強ク之亦失敗ニ終リ遂ニ陳等ノ逮捕令發出ヲ見タル次第ナルカ蔣陳關係カ之ニ依リ絶縁セリト見ルハ早計ニテ今後モ何等カノ聯絡ヲ持續スヘキ一方兩陳モ蔣ノ意ヲ體シ梅思平樊仲雲等CC分子ヲ通シ破壞工作ヲ進ムルモノト見ラレ最近陳ホウカ(陳立夫ノ甥)祕密裡ニ來滬セル如キ周佛海等二兩陳ノ意嚮傳達ノ爲ト見ラル尙先般來滬中ノ吳開先ト丁默邨、李士群ノ間ニハ既ニ何等不可侵協定成立シ居ル如ク又周佛海カ汪ノ改組派ヲ排斥シ或ハ臨時維新系人物ヲ壓迫シ居ル事實モアル處右カ果シテ兩陳トノ了解ニ基クモノナルヤ疑問ナルモ客觀的情勢カ確カニ蔣ノ破壞工作ニ有利ナル點注目ニ價ス又香港杜月笙モ蔣ノ破壞工作ノ一役ヲ買ヒ居リ其ノ部下ヲ汪政權内ニ潛入セシメ

上海ノ上層金融界乃至地方教會關係巨頭連ノ汪トノ不合作ヲ策動シツツアル處一方蔣ハ「スチユアート」等ヲ通シ王克敏等ノ對汪反目ヲ策動シツツアルコトモ事實ナリ二、英米ノ對蔣援助ノ既ニ望ミ薄トナレル今日蔣ハ英國ノ對日妥協ト米國ノ對日禁輸不實行ヲ最モ恐レ居リ過日「クレイギー」ノ東京ニ於ケル演説ハ蔣ニ取り相當ノ煩悶ノ種トナリ居ル模様ナリ米國ニ對シテハ過般ノ太平洋學會ノ機ヲ利用シ顏惠慶及北大教授周鯨生等ヲ派遣對日禁輸ヲ策動セシメタルモ奏功セサリシヲ以テ最近宋美齡ノ派遣(胡適ノ代リトモ言ハル)ヲ考ヘ居ルモ美齡ハ恐ラク受ケサルヘシ斯クテ新中央政府成立ニ對シテモ英米佛等ニ其ノ不承認ヲ泣付ク等以外別ニ積極的援助ヲ得ラレサルニ鑑ミ蔣トシテハ蘇聯接近ヲ示唆シテ英米ヲ脅威スルト共ニ他面今後ハ重慶抗戰力ニ徹底<sup>(徹)</sup>的打撃ヲ與フヘキ日英ノ接近日蘇妥協ノ妨害ノ手ニ出ツヘシ

<sup>(2)</sup>從來ノ國共摩擦ハ主トシテ蔣ノ對日和平準備ニ原因スル處差當リ英米ノ斡旋干涉ニ依リ對日和平モ望ミナキ今日漫然ト中共側ヲ壓迫シ蘇側ノ御機嫌ヲ損スルハ不得策ナレハ重慶ノ對共產黨態度ハ必ス變化アルヘク宋慶齡ノ重

慶行ノ如キ前駐米大使説ノ外ニ國共關係改善ノ任務アリト見ラル乍併國共關係改善ニモ蔣側トシテハ差當リハ摩擦ノ減少ト共產黨ノ活動ニ多少ノ自由ヲ與フル程度ニ止メ陝甘寧邊區ノ特殊化ノ承認共產黨ノ憲政運動ノ主張ニ對シテハ斷シテ讓歩セサルト一方共產黨側トシテモ其ノ恐ルル重慶側ノ對日妥協望ミナク客觀的情勢ハ同黨ニ有利ニ展開シツツアルヲ以テ多少ノ讓歩ハ覺悟シ居ル様子ナリ而シテ蔣カ蘇聯ノ援助ヲ切望シ乍ラ中共側ト緊密ナル合作ヲ議シ得サルハ重慶部内ノ十中八九迄有産階級乃至徹底的反共產主義者ニシテ孔祥熙宋子文何應欽陳立夫陳果夫朱家驊等ハ勿論從來「シンパ」的立場ニ在リタル孫科迄カ最近中共ニ對スル態度頓ニ冷淡（孫ハ從來香港ニハ宋慶齡ヲ介シ共產黨葉劍英ト聯絡シ居リタルカ過般莫斯科ヨリ歸來後ハ葉ヨリノ面會申込ヲ再三拒絶シ一日宴會ニテ兩人カ偶然落合ヒタル際モ孫ハ葉ニ對シ共產黨ハ中國ノ利益ヲ重ンスヘク第三國際ノ手先トナラサルヲ希望スト述ヘタルコトアリ又從來香港ノ宋慶齡ノ主宰スルホシヨウ大同盟ノ補助金モ停止セル事實モアリ）トナリタル現實ヲ無視シ得サル爲ナリ一方共產黨ニ於テ

毛蔣政權ノ本質ハ良ク承知シ居リ國共合作ニ便乘シ軍事勢力ノ擴張ニ專念シ居ル状態ナリ要スルニ中共側眞ノ目的ハ單ナル表面的妥協ヤ國社黨乃至中國青年黨ノ如ク公開的合法地位ノ獲得ニアラス依然トシテ長期抗戰ノ「スローガン」ニ隱レ蔣ノ軍事力ヲ消耗セシメツ北支二軍事根據地ヲ建立シ換言スレハ支那ヲ赤露化セシメタル後窮極ニ於テ赤化政權ヲ樹立シ全支ノ赤化ヲ計ルニ在リ蓋シ右ハ中共カ第三國際ト不可分ノ關係ニ在ル以上不可避的任務ナルヘク蔣カ中共側ト徹底的ニ妥協シ得サル所以ハ茲ニ在リ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ暗送セリ

564 昭和15年4月15日 在南京松本(後一)大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

### 発足直後の南京政府内部の様子について

南京 4月15日後発  
本省 4月15日夜着

第二〇號(極秘)

新政府モ創立早々ノコトトテ今尙廳舎ノ修理及舎内ノ設備等ニ忙殺セラレ職員ノ配置モ未タ完了セサル爲落着キテ事務ヲ執ル迄ニハ至ラサルモ大體ノ模様ヲ觀ルニ維新政府當時ニ比シ新機關增加セルニ拘ラス財政ノ關係上各部ノ經費ハ極メテ切詰メラレ最高ハ財政部ノ月七萬元(入件費含ム)最低ハ詮敍部ノ二萬元ニシテ大體四萬元程度ナルカ維新政府職員ノ全部ヲ留任セシメタル外新ニ國民黨其ノ他加ハレル爲一人當ノ俸給額ハ減少シ事變前ノ俸給ニ戻ルノ已ムナキニ至リ之カ爲下級職員ハ早クモ生活難ヲ託チヨリ高キ地位ヲ獲得セントシテ奔走シツツアル實情ナリ職員ノ配置モ部長以下局科長ニ至ル迄論功行賞ノ意味ニテ地位ヲ與フルニ急ナリシ爲適材適所ノ人事ヲ行フコト能ハサリシ缺點アリ又各部トモ維新政府舊職員ト國民黨員及各黨各派ト入り混リ所謂寄合世帯ナル爲人的結束動モスレハ緊密ナラス之ニハ部長連モ手ヲ燒キ居ル模様ニテ今後相當ノ整理ヲ爲ササレハ事務ヲ軌道ニ上スコト困難ナルヘク此ノ點ハ政府幹部モ充分認識シ居ルヲ以テ何レ善後策ヲ講スルコトトナルヘシ

只部長連ハ任命早々ニテモアリ何レモ部内ノ整備ニ大童ノ

體ニテ極メテ緊張シ居ル爲新政府ラシキ清新ノ氣ヲ漂ハシツツアリ而モ未タ實際ノ事務ヲ執ルニ至ラサル爲幹部ノ間ニハ何等紛糾ヲ生スル餘地モナク一先ツ汪ノ下ニ於テ夫々政策ノ樹立等ニ努メツツアリ新政府ノ出來榮ニ付テハ汪派幹部モ大體豫想通りト爲シ居リ悲觀モ樂觀モナク要ハ今後果シテ新生ノ實ヲ擧ケ得ラルルヤ否ヤニ在リト觀察シ居ル模様ナリ陳公博ハ新政府ノ中堅幹部等ノ間ニハ(不明)ノ嫌アルモノナキニアラス之等ハ徹底的ニ肅清シテ廉潔政治ヲ行ハサレハ新政府ノ發展性ナシト洩ラシ周佛海ハ和平運動展開ノ爲上海其ノ他ノ方面ノ工作ニ努力シタキモ人材缺乏ノ爲思フ様ニ活動出來スト滯シ居リ梅思平ハ新政府ノ經濟工作ハ政府ノ基礎ヲ固メ人民ノ信望ヲ繫クモノナルヲ以テ日支間經濟問題ノ合理化及商工業ノ復興ニ依ル人民生活ノ保障ヲ與フルコト先決問題ニシテ此ノ點ニ失敗スレハ新政府ハ前途ノ希望ナシト稱シ居レリ右新政府ノ情勢御參考迄

565

昭和15年4月25日

在南京日高大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

阿部大使着任に際する汪兆銘との会見報告

第三六號(極秘)

南京 4月25日後発  
本省 4月25日夜着

阿部大使ハ四月二十四日國民政府ニ於テ本官及清水ヲ帶同汪主席代理ニ會見(褚外交部長同席)着任ノ挨拶ヲ述フルト共ニ貴大臣ヨリ與ヘラレタル訓令ノ内容ヲ説明シタル處汪ハ貴大使カスル任務ヲ以テ着任セラレタルコトハ國民政府トシテ極メテ歡迎スル所ニシテ外交當局ヲ始メトシ一同感奮スル次第ニシテ日支國交調整ニ付テハ充分ノ努力ヲ爲シ以テ期待ニ副フ覺悟ナリト述ヘ阿部大使ハ引續キ別室ニ於テ國民使節ヲ汪主席代理ニ紹介セリ尙訓令ノ寫ハ參考トシテ本官ヨリ外交部長ニ手交シ置キタリ  
興亞院ニ傳達アリタシ

566

昭和15年5月17日

在北京藤井大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

王克敏の辭職に伴う華北政務委員長の後任に  
王揖唐が意欲を表明について

第三八九號(外信、部外極秘、館長符號扱)

北京 5月17日後発  
本省 5月17日夜着

往電第三七九號末段ニ關シ

十五日森岡長官ハ王揖唐側近ノ野崎ヲシテ考試院長トシテ中南海ニ於ケル文官登庸試験ニ臨場(古來ノ習慣ニ依リ國家試験ニハ終了迄外出ハ勿論家族親戚等モ一切面會出來サルコトトナリ居レリ)中ノ揖唐ニ偶々南海公園散策中落合ヘル形ノ下ニ路傍會見ヲナサシメ王克敏辭任申出ニ伴フ後任院長ニ付揖唐ノ胸中ヲ打診セシメタル處去ル七日以來外部トノ接觸ヲ斷タレタル爲カ雜音入り居ラス素直ニ引受ノ意ヲ仄カシ且抱負トシテ(イ)曹汝霖トノ合作ヲ希望シ同人ヲシテ從來ノ如キ高等顧問ノ空位置ニ置カス適當ノ地位ヲ與ヘ昔時ノ聯立内閣ノ如キ形ト曹ヲシテ主トシテ經濟方面ヲ擔當セシムルコト(ロ)政務委員會内ニ防共委員會ヲ新設シ之ニ北支ノ特殊性ヲ持タシムル如ク措置シ日本トノ聯携ニ便セシムルコト(ハ)此ノ點南京方面ニ於テハ特ニ部外極秘ニ願度シ(ニ)閩錫山下ハ士官學校時代一年間同室セル親密ノ間柄ナルヲ利用シ此ノ方面ニ手當ヲ願度キコトノ三點ヲ開陳

シ尙中間ノ案タル内務督辦トシテ委員長ヲ代行スルコトニ對シテハ強ク不同意ヲ表明セル由ナルカ以上野崎ノ打診ノ結果ヲ聽取セル長官ハ正式又ハ代行ハ未決ノ儘揖唐推戴ヲ決意セルカ如シ(揖唐ノ考ノ筋ノ宜シキコト竝ニ北支軍ノ意嚮ニ依リタルモノト認メラル)右不取敢

尙野崎ノ内話ニ依レハ揖唐ナラハ現在ノ各督辦ハ其ノ儘留任スヘキモ假ニ靳雲鵬ヲ引出ストセハ最小限王時璟ノ辭任ハ動かサル所ニシテ其ノ他辭任者續出スヘキ形勢ニアル趣ナリ

南京總領事ヘ外信トシテ轉電セリ

567 昭和15年5月25日 有田外務大臣  
陳公博立法院院長 一會談

### 有田外相と陳公博立法院長との會談要旨

付記 昭和十五年五月二十四日付、清水(薰三)書記

官作成

陳公博と日本側各要路との會談要領

有田外務大臣、陳公博氏會談要旨

五月二十五日自午后二時四十分至午后六時  
於外務大臣官邸(清水書記官記)

一、先ツ陳公博ヨリ左ノ通り述フ

(一)新政府ノ狀況

新政府ハ阿部大使着任後今尙國交調整ノ交渉ヲ開始スルニ至ラサル爲政府部内ノモノ竝ニ一般國民モ種々疑惑ヲ懷カントスル傾向アリ一方新政府成立後民衆ノ生活改善ニ寄與スルトコロ極メテ少ク政府管轄下ノ物資ハ依然トシテ頗ル高値ニシテ例ヘハ米ノ如キ生産地ニ於テ十二圓ノモノカ南京上海ニ於テ四、五十圓ヲ唱ヘ其ノ他運輸課稅等ノ關係ニテ物資ノ流通渺々シカラス之カ爲民衆ハ漸ク新政府ノ價值ヲ疑ハントスルニ至レリ其ノ他地方ニハ特務機關及宣撫班ノ改名セル連絡員等アリテ各地方官廳ヲ指揮シ居ルヲ以テ中央政府ノ命令ハ下級官廳ニ及ハス又中央政府ノ官吏ト雖モ特務機關發給ノ證明書ナケレハ居住通行モ出來得サル狀態ニテ新中央政府ト維新政府トノ差異何處ニ在リヤトノ感ヲ深カラシムルモノアリ從テ速ニ國交調整ノ交渉ニ入ルト共ニ斯カル地方ノ問題ヲ出來得ル限り解決スルコトハ當面ノ急務ト思考ス支那側ニ

テハ固ヨリ日本ノ作戰ノ要求ハ之ヲ十分ニ承知シ居リ政府當局モ官民ニ對シ常ニ之カ認識ヲ教ヘツツアル状態ナルカ日本側ニテモ新政權ノ育成ノ爲ニ特ニ考慮セラルル様希望ス

### (二) 北支及蒙古ノ問題

北支政務委員會ハ日支協力ノ便ヲ圖ル爲設置セラレタルモノナルヘキ處事實ハ寧口委員會ヲ中心トシテ漸次北支ノ獨立ニ向ハントスル傾向ニアルハ明白カラス情報ニ依レハ米國等カ新政府ノ承認ヲ否認スル聲明ヲ發セルハ日本側カ北支ヲ獨占シ半永久的ニ軍隊ヲ駐屯セシメントノ日本側ノ肚ナリト認メタル結果ニ基ク由ナリ蒙古ニ於テハ昨年末ノ話合ニ依リ山西北部十三縣及察哈爾南部數縣ヲ蒙古ニ編入シタルカ今トナツテ是カ變更ヲ要求スル譯ニハ非サルモ私見トシテ言ヘハ古キ歴史ヲ有スル是等ノ地方ヲ俄カニ蒙古ニ含マシムルハ洵ニ不合理ニシテ一般ニ對スル感情上面白カラサルモノアリ尙北支蒙疆ニ於テハ公然「モルヒネ」ノ製造販賣等行ハレ居ル實情ニシテ斯ル状態ニテハ日支ノ協力合作ハ將來悲觀スヘキモノアリ尙昨年末日支現地當局間ニ話合ナレル條件ハ今更之ヲ

### (三) 重慶對策問題

批評スルハ手遅レナルモ吾人ノ觀察トシテ卒直ニ言ヘハ右條件ノ内容ハ戰勝者トシテノ立場ヨリスレハ極メテ輕ク日支永遠ノ關係ヲ取結フ點ヨリ見レハ極メテ重ク要スルニ何レニモ不徹底ナルモノナリ今後國交調整ノ交渉ヲナスニ當リ日本側ハ自發的ニ之ヲ緩和シ以テ支那國民ノ感情ヲ柔ラクルノ工夫ヲ凝スコト必要ナリト思考セラル

重慶工作ニ付テハ蔣介石個人ト其他ノ重慶政府要人トノ問題ヲ別個ニ考フル必要アリ吾人ノ見ル所ニテハ目下ノ所蔣個人カ和平ニ傾クコトハ絕對ニ見込ナク其他ノ分子ヲ獲得スル方向ニ工作ヲ進ムルコト可ナリト信ス而シテ是カ工作ヲナスニ當リテハ新政府ト日本トハ不斷ニ連絡ヲ保チ各個ニ之ニ當ルヲ避クルコト絕對必要ナリト考フ而シテ右工作ノ基礎ヲナスモノハ單ニ日本側ノ武力ヲ以テ重慶側ニ脅威ヲ與フルニ止マラス政治方面ニ於テ新政府ヲ育成シ日支ノ協力ニ依リ和平建設ノ希望ヲ與フルコト其ノ前提ナリ汪精衛モ今次ノ新政權樹立ヲ以テ決シテ能事終レリトセス全面的和平ニ進ム一段階トナシ政府當局一同其ノ氣持ニテ努力シ居ル次第ナリ

#### (四) 外交問題

新政府ノ外交方針ハ日本ノ外交方針ト一致セシメ彼此合同シテ其ノ方策ヲ進メントスル考ナル處日本側ノ外交方針ヲ窺フニ未タ歸一スル所ナキカ如ク例ヘハ歐洲大戰ニ對スル將來ノ見透シ又ハ英佛若クハ獨逸カ戰勝者トナリタル場合ノ各方面ニ及ホス影響之ニ對スル對策等ノ準備ノ有無ヲ承知セサル次第ナルカ結局歐洲大戰後其ノ影響ハ東洋ニモ及フモノト思料セラル今日ヨリ是カ對策ヲ考究スル必要アルヲ痛感シ居ル次第ナリ此點ニ關シ日本側ノ方針ヲ一先ツ伺ヘハ幸ナリ

右ニ對シ有田外務大臣ノ述ヘラレタル所左ノ如シ

一、日支問題ノ根本ニ關シ申述フヘシ

(一) 余ハ先年歐洲ニ於テ壤太利人「クーデン・ホーフ」伯ヲ知レルカ同氏ハ汎歐洲運動(パン・ユーロピアン・ムーヴメント)ニナルモノヲ起シ佛蘭西ノ「ブリアン」初メ英佛各國識者ノ支持ヲ受ケタリ、其ノ思想ハ要スルニ歐洲ノ平和ヲ確保スルニハ宜シク歐洲各國ノ聯合ヲ作り經濟其他ノ合作ヲ圖ラサルヘカラス而シテ世界ハ歐洲ト「ソヴィエト・ロシア」ト南北米ト英帝國ト極東トノ五單位

ニ之ヲ分チ各單位内ノ事ハ先ツ其單位ノ内テ解決スルコト最モ合理的ナリト主張シ「ブリアン」等モ右影響ヲ受ケテ同様ノ主張ヲナセルコトアリ余モ右ノ說ニハ贊成ニシテ今次事變ニ於テ日本カ所謂東亞新秩序ノ建設ヲ主張シ日滿支ノ互助連環關係ヲ樹立セントスルハ即チ東亞ノ聯合ヲ圖ラントスルニ外ナラス固ヨリ右東亞ヲ以テスル單位ノ中ニ含マルル各國家ハ獨立ヲ享有シ個性ヲ發揮シ相互ニ經濟上ニハ有無相通シ必要ニ應シテハ軍事上モ密接ニ連絡セントスルニアリ又東亞ノ單位カ決シテ他ノ單位ヲ排撃セントスルモノニ非ス先ツ單位ノ樹立ヲ圖リ然ル後他ノ單位トノ關係ヲ調整セントスルモノナリ是カ達成ニ當リテハ日支間ニハ各々長キ歴史アリ又過去ニ於テモ種々ノ感情ノ疎隔モアルヘク是等幾多ノ困難ト障碍トヲ突破スル必要アルヘキモ斯ルコトニハ失望セス兩國ノ識者ハ須ク兩國國民ノ感情ヲ融和シ是カ工作ニ努力スヘキモノニシテ新中央政府ニ於テモ右ハ同感ノコトナルヘシ

(二) 國交調整ノ問題ハ昨年末ノ話合ニ基キ成ルヘク速カニ開始スル方針ニテ條約ノ草案ヲ研究シ居リタル次第ナルカ

條約ノ形式内容等ノ檢討ニ當リ相當ノ時日ヲ要シタル爲今日迄交渉開始ニ至ラス

然レ共最近關係方面トノ打合セ著シク進展シタルニ依リ遠カラス阿部大使ニ訓令ヲ發シ交渉開始ノ段取トナル筈ニテ余個人トシテモ是カ促進方ニ努力シ居ル次第ナレハ此點安心セラレ度日本内地ニ於テモ同様是カ爲ニ種々ノ「デマ」等飛ヒ居ル模様ナルモ右ノ如キハ意ニ介スルヲ要セス尙阿部大使ノ外交顧問トシテ堀田大使ハ二十九日飛行機ニテ南京ニ伺フ筈ナリ

(三)新政府ノ施政ニ付テハ作戰途上ナル關係ニテ平素ト異ナリ種々ノ不便アルヘキコトハ固ヨリ豫想セラルル所ニシテ同情ニ堪エサルカ右ハ双方ノ努力ニ依リ漸次解決セララルヘシスル問題ニ付テハ忌憚ナク阿部大使ト相談セラレ度新政府カ其ノ立場ヲ明カニスル爲地方ノ問題ヲ是正シ行クコトハ一般國民ノ信賴ヲ得テ其ノ力ヲ増ス所以ナリ此ノ點ハ日本政府モ阿部大使ニ於テモ十分諒解シ居ル所ナリ

(四)華北ノ特殊化ニ付キ米國ノ得タリト稱スル情報カ全然事實無根ナルコト言フ俟タス日本ハ昨年春以來汪精衛氏ノ

和平運動ヲ支持シ從テ新中央政府ノ成立ニ對シ全幅ノ支援ヲ與ヘ相共ニ新東亞ノ建設ニ邁進セントスルノ方針ナルコトハ屢々中外ニ聲明セル所ニシテ右方針ハ何等變更ナク此ノ點ハ此ノ機會ニ再ヒ明ニシ置ク所ナリ日本カ華北ニ關心ヲ有スルコトハ地理上經濟上又ハ防共ノ必要等ヨリ當然ノコトニシテ此ノ意味ヨリ北支政務委員會ノ必要ヲ感じ居ル譯ナルカ此ノ地方ヲ他ト區別シ獨立又ハ半獨立ノ狀態ニ置カントスルカ如キハ何等考慮シ居ラス今指摘セラレタルコトハ若シ日支兩方ノ氣持カ融和シ相理解スルニ至ラハ形式問題ノ如キハ第二義的ノモノニシテ何等懸念スルヲ要セス余ハ兩國間友好ノ要諦ハ根本的ノ理解ト共同ノ理想ニ邁進スルコトニアリト信ス蒙古ノ問題ニ付テ意見ノアル所ハ記憶ニ留ムヘシ蒙古側ト北支側トノ聯絡不十分ナル爲治水工事等ニ支障ヲ來ス等ノコトハ面白カラススル經濟開發ノ問題ニ付テハ双方協力スヘキコト固ヨリ當然ナリ

(五)重慶對策ニ付蔣介石及其他ノ要人ニ對スル觀察ハ余モ同様ノ判斷ヲ下シ居レリ從テ今日政府ノ關係者ニハ香港等ニ於テ工作ヲナシ居ル者アルヲ聞カス假令斯ルコトヲナ

スト雖モ恐ラク成功セサルヘシ尙重慶政府切崩シノ爲新  
國民政府ト日本側ト話合ヲ遂ケ密接ナル連絡ノ上其ノ工  
作ヲ進ムルコトハ全ク同感ナリ此ノ點モ堪ヘス阿部大使  
ト連絡セラルルコトヲ希望ス

(六)日本ノ外交方針ハ第一二東亞ノ安定ヲ圖ルコトヲ以テ根  
本トシ是カ爲ニ日支ノ合作ヲ實現セントスルニアリ日支  
ノ合作ニ依リ東亞ノ經濟貿易ノ自給自足ヲ圖ルコトカ根  
本目的ナリ現在亞細亞ニ於テハ重工業ノ發達未タ十分ナ  
ラス從テ尙歐米ニ依存スル部門少ナカラサル次第ナル  
カ吾人ノ理想ハ亞細亞ニ於ケル重工業ノ獨立ヲ圖ルニア  
リ右經濟ノ樹立ヲ見サル以前ニ徒ニ歐米各國ト磨擦ヲ生  
スルコトハ却テ經濟ノ進展ヲ阻害スルモノナリト認メ此  
ノ點ニ付テ相當ノ注意ヲ拂フ必要アリ今次ノ歐洲大戰ニ  
不介入ノ方針ヲ執リタルコトモ其ノ意義全ク茲ニアリ即  
チ日本ハ東亞ノ自主的態勢ノ確立ニ全力ヲ盡シ何レノ側  
ニモ偏セサル立場ヲ執ラントスルモノニシテ世間ニハ  
往々ニシテ反英論親英論等ト稱セラルルハ一部ノ者ノ感  
情ヲ言ヒタルモノニ過キスシテ政府トシテハ全然不介入  
ノ方針ヲ執リ居ルモノナリ

三、歐洲大戰ノ見透シニ付テハ今俄カニ斷定ヲ下スコト困難  
ナルモ今次ノ戰亂ハ恐ラクハ急速ニ終結セサルヘシ急速  
ニ終結セサルトセハ前記生産擴充乃至東亞ノ自給經濟態  
勢ノ樹立ハ却ツテ進捗スヘク此ノ點ハ寧ロ吾々ニ取り有  
利ナリト判斷セラル而シテ假令短期間ニ終結スルトスル  
モ歐洲其後ノ情勢ハ決シテ根本的ニ調整セラレス各國ト  
モ極東ニ手ヲ延ハス暇ナカルヘク況ンヤ長期ニ亘ル戰爭  
ノ後假令何レノ側カ勝ツトスルモ實力ヲ以テ日本又ハ極  
東ニ臨ムコトハ容易ニ非サルヘシ獨逸カ勝利ヲ得タル場  
合モ同様ナルヘシ其際蘇聯ノ極東ニ對スル態度ニ對シテ  
ハ日支兩方トモ十分注意ヲ拂フ必要アルモ其時ニ至ラハ  
蘇聯ハ却ツテ獨逸ヲ警戒セサルヘカラサル状態トナリ積  
極的ニ極東ニ手ヲ伸ハスコトハ恐ラク不可能ナルヘシ要  
スルニ日本ハ先ヅ支那事變ノ解決ニ當リ生産ノ擴充ト實  
力ノ充實ヲ圖リ以テ他日ニ備ヘントスルモノナリ  
尙ホ假ニ獨逸カ勝利ヲ得タル場合如何ナル變化アリヤト  
言ヘハ余ノ見ル所ニテハ獨逸ハ北歐洲ニ其ノ勢力ヲ伸ハ  
シ伊太利ハ南歐洲乃至地中海ニ其ノ勢力ヲ伸ハスヘク其  
ノ他植民地ノ問題ハ阿弗利加力問題ノ中心トナルヘク南

洋植民地ハ大体ニ於テ大ナル變化ナシト判斷セラル最近帝國政府カ聲明セル蘭領東印度ノ現狀維持ニ付テモ獨逸ハ東印度ニ何等興味ナシトノ意思表示ヲナシ居リ戰爭カ如何ニ終結スルトモ大ナル變化ナキモノト豫想シ居ル次第ナリ

尙最後ニ附加ヘ度キハ日本ノ外交ハ固ヨリ東亞新秩序ノ建設ヲ其ノ根本義トシ日滿支ノ緊密ナル連絡ヲ圖ルコトヲ以テ其ノ方策トナシ結局ニ於テ英米佛等ノ歐米ノ勢力カ支那ヲ中心トシテ不平等ノ關係ヲ樹立シ居ル現狀ヲ是正スルコトニアルモ右東亞新秩序ノ建設ハ一大事業ニシテ固ヨリ一時ニ是カ達成ヲ所期スルコト能ハス是カ實行ニ當リテハ慎重ナラサルヘカラス從テ例ヘハ租界回收ノ如キ問題モ根本原則トシテハ是非カ回收ヲ圖ラサルヘカラサルモ其ノ時機方法等ニ付テハ慎重ニ考慮スル必要アリ一時ノ血氣ニ逸リテ實力回收ヲ圖ルカ如キハ決シテ當ヲ得タルモノニ非ス此ノ點モ篤ト考慮スル必要アリト信ス

三、外務大臣ノ回答ニ對シ陳ハ深甚ノ謝意ヲ述ヘ特ニ新シキ東亞ノ態勢ヲ整フル根本原則ニ付テハ非常ナル贊意ヲ表

シ斯ル運動ヲ促進スル爲兩國ニ於テ準備ニ着手シ度キ旨ヲ述ヘ又外交方針ニ付テモ大体日本ノ意ノアル所ヲ承知シタルニ付歸國ノ上ハ汪精衛以下當局ニ右ノ趣ヲ報告シ十分期待ニ添フ様致度シト述ヘタリ

(付記)

陳公博ノ各要路トノ會談要領

(昭五、五、二四 清水書記官記)

一、今回ノ新中央政府答禮使節一行ノ來朝ハ曩ニ阿部大使以下慶祝使節ヲ派遣セルニ對スル答禮ヲ其ノ使命トスルコト固ヨリナルモ一行出發當時ノ政府側ノ意向ヲ察知スルニ此ノ機會ニ我方朝野ノ新政府ニ對スル態度ヲ打診シ特ニ國交、調整、ニ關スル交渉ヲ促進セシムル様要望スルト共ニ最近頻リニ傳ヘラルル重慶トノ直接交渉ニ關シ我方當局ノ肚ヲ突止メントスル考ヲ有シ居ルモノナルコトハ大体誤リナシト信ス

二、答禮使節着京後二十三日午前陳公博褚民誼ハ近衛公ト懇談セルカ右懇談ニ於テハ陳公博ヨリ主トシテ日支間ノ根本問題ニ付意見ヲ吐露シ近衛公ハ寧口之カ聽役ニ廻レル

状態ナリ陳公博ハ今回ノ事變ノ勃發ハ決シテ偶然ニ非スシテ自分ハ既ニ事變前ヨリ斯克アルヘキヲ察知シ居リタリト述ヘ其ノ根本ノ原因トシテ支那側ニ於テ日本カ近代國家トシテ強盛ニ赴ケルヲ妬ミ而モ日本カ歐米ト共ニ支那ヲ壓迫スルニ對シテ憤慨ノ念ヲ懷キナカラ他面日本ハ曾テハ支那ノ文化ヲ採容レタル國ニシテ謂ハハ支那ノ弟子ナリトテ之ヲ輕蔑スル氣持アリ又日本側ニ於テハ支那ハ老大爲ス無シトシテ之ヲ輕蔑シナカラ他面曾テ世界ニ誇ル文化ノ歴史ヲ有スルコトニ想到シ心中之ヲ憚ルカ如キ氣持アリ此ノ兩國民ノ心理狀態ハ自ラ兩國ノ合作ヲ妨ケタルモノニシテ其ノ結果例ヘハ日本ノ所謂支那通ナルモノハ支那ノ缺點ヲ探スニ努メ支那ノ日本通ナルモノモ日本ノ正シキ認識ヲ得ント努力セスシテ日本ノ缺點ヲ暴露スルニ努メ日ヲ經ルニ從ヒ益々兩國ノ關係カ惡化セルカ如キハ斯ル兩國民ノ心理ニ基クモノト考ヘラル幸ニ今回ノ事變ニ依リ殊ニ近衛聲明ト汪精衛ノ第一回ノ通電ニ依リ兩國民共相互ニ認識ヲ改メ新ニ合作ヲ圖ラントスルニ至レルハ寧口幸トスヘキ所ナリ今ヤ新政權成立シテ日本トノ間ニ國交調整ノ交渉ヲ開始セントスルニ至レルカ

右調整ノ場合考慮スヘキハ

第一、支那ハ未タ全面的和平ノ域ニ至ラス新政權ハ右和平ヲ實現スル第一段階ニシテ國交調整モ之ヲ以テ全國民ニ和平ノ希望ヲ持タシムル重要ナル關係アルコトニ想到シ其ノ條件内容等ヲ十分檢討セサルヘカラサルコトナリ

第二、右調整ノ場合日支兩國民ノ民族性ニハ著シキ相違アルコトヲ考慮セサルヘカラス即チ日本人ハ極メテ几帳面ニシテ昨年十二月ノ現地當局會談ニ於テモ見ラレル通り或ル一ノ條件ヲ定メテ其ノ程度ヲ明瞭ニ規定セントスルニ對シ支那人ハ之ト異リ條文ハ條文事實ハ事實トシテ假令低キ程度ノ條件ニテモ感情如何ニ依ツテハヨリ多クノモノヲ與フルニ吝ナラス假令如何ナル條件ヲ定ムルモ之ヲ實行セザラントスレハ事實上之ヲ守ラサル國民ナリ此ノ兩民族性ノ相違ヲ十分ニ認識シテ徒ラニ條文ノ末節ニ走り和平運動ノ大局ヲ忘ルルコトナキ様希望セサルヲ得ス

トノ趣旨ヲ述ヘタリ。

三、近衛公ハ日支事變ノ勃發ノ一原因トシテ支那ノ歐米依存

即チ第三國カ日支ノ關係ヲ利用シタルコトヲ考フヘキニ非スヤト問ヒセルニ陳公博ハ第三國カ事變發生ヲ煽動シタルコトハ否ムヘカラサル事實ナルモ其ノ根本ヲ釋ヌレハ之亦日本ノ責任ナリト言フヲ妨ケス何トナレハ日本ハ從來東亞ノ中心勢力トシテ自主的ニ對支外交ヲ運營スルノ勇氣ト誠意トニ缺ケ事毎ニ歐米ニ追隨シテ支那ニ臨ムヲ常トシタル爲支那從來ノ外交ハ總テ先ツ歐米ニ之ヲ諮リ歐米ヲ納得セシメタル後日本ニ持出スヲ定石トセルモノナリ其ノ上歐米各國ハ本國ノ利益ニ左程損害ヲ與ヘサルモノハ成ル可ク支那ノ面子ヲ立テ支那ニ權利ヲ返還スルカ如キ方策ヲ以テ巧ミニ支那ノ民心ヲ繋クニ努メタルコトモ支那ヲシテ併セテ歐米依存ニ走ラシメタル原因ナリ例ヘハ英米其ノ他各國ノ團匪賠償金ノ返還「ソヴェト・ロシヤ」ノ不平等條約廢棄ノ聲明英吉利ノ租界返還等ノ如シ汪精衛氏ハ斯ル支那ノ外交方式ヲ極メテ不當ナリトシ其ノ外交部長時代ニハ極力日本トノ直接交渉ヲ主張シ躬ヲ以テ之ニ當リタル次第ナルカ大勢如何トモスヘカラス歐米ニ偏セル支那ノ外交ハ遂ニ之ヲ打破スルニ由無カリシナリ仍テ今回ノ事變ヲ契機トシ日本ニ希望スル

所ハ日本カ能ク東亞ノ盟主タルコトヲ自覺シ自主的の外交ヲ以テ支那ニ臨ミ歐米ニ先ンシテ支那ノ解放ヲ圖ルコトナリ斯ル日本ノ外交方針ニ依リ第三國ノ利用等ハ必ラス解消スルニ至ルヘシト答ヘタリ

四、尙陳公博ハ近衛公カ近衛聲明ノ主人公タルニ鑑ミ支那側ニ於テハ東亞新秩序建設ノ爲公カ必ス中心トナリテ其ノ達成ヲ圖ルヘキコトヲ期待シ居レリト述ヘタルニ對シ近衛公ハ近衛聲明ナルモノハ政府ノ聲明ナルト共ニ自分自身ノ理想ナルヲ以テ飽ク迄右理想ノ達成ニ努力スル考ナリト述ヘ陳公博褚民誼共大イニ氣ヲ強フシタル面持ニテ別レタリ

五、陳、褚ノ兩使節ハ二十三日午後總理、陸軍、海軍、大藏各大臣ト各々一時間前後懇談ヲ交ヘタルカ陳公博ノ爲シタル談話ハ大要左ノ四點ナリ

(一) 國交調整ニ關スル件

陳公博ハ各大臣ト懇談ノ際先ツ最初ニ本問題ヲ提出シ阿部大使著任後相當ノ日時ヲ經過セルニ拘ラス今尙國交調整ノ交渉ヲ開始セサル爲政府部内ノ者モ又一般國民モ新政府ニ對シテ漸ク懷疑ノ念ヲ起シ自分カ南京ヲ

出發スル當時モ右ノ如キ空氣ハ明ニ之ヲ看取シ得タル所ナルカ若シ此ノ儘荏苒ヲ過スニ於テハ結局新政府ハ一般ノ信賴ヲ失ヒ全面的和平實現ノ基礎ヲ失フニ至ル虞アリ此ノ際速ニ右交渉ヲ開始セラレンコトヲ希望ストテ相當強ク之ヲ要望スルト共ニ日本側ノ意向如何ト質問セリ右ニ對シ總理以下各大臣共日本側ハ目下著々右交渉ノ準備ヲ進メ居リ不遠交渉ニ入ル筈ナリ詳細ハ外務大臣ト懇談セラレ度シト大体同様ノ返答ヲ與ヘタリ

## (二)對重慶工作問題

陳公博ハ國交調整問題ニ次テ本問題ヲ提出シ最近日本側ニテハ重慶側ニ對シ別途ニ而モ新政府トハ獨立ニ何等話合ヲ爲サントスルヤノ噂アル處其ノ真相如何ト質問スル所アリ右ニ對シ總理大臣ハ近蘭聲明發出以來日本ノ事變處理ニ關スル方針ヲ述ヘ日本ハ新政府ト共ニ事變ノ解決ニ邁進セントスルモノニシテ之ヲ差措キ別ニ重慶ト和平ノ談判ヲ爲スカ如キ矛盾<sup>(矛盾)</sup>セル政策ヲ執ル筈ナシト答ヘ其ノ他ノ大臣モ大体同様ノ返答ヲ與ヘタルカ海軍大臣ハ政府ニ於テハ現在重慶ニ對スル直接交

渉ハ全然爲シ居ラス又民間ニ於テモ斯ル工作ヲ爲シ居ル事實ヲ知ラス恐ラクハ責任無キ者等カ勝手ニ斯ルコトヲ吹聴シ居ルニ非スヤト想像セラルル處何レニスルモ最近ハ世界各國共流言蜚語ノ多キコトナレハ斯ル噂ニ惑フコトナク當局間ノ誠意ニ信賴シテ新政府ノ建設ニ邁進セラルルコトヲ要望スト述ヘタリ

尙陳公博ハ對重慶工作ニ關シ日本側ニ於テ何等カ手ヲ打タントスル場合ニハ先ツ新政府ニ通告スルコト新政府ニ於テ對重慶工作ヲ行フ場合ニハ亦之ヲ豫メ日本側ニ通報スルコト若クハ兩者共同シテ對重慶工作ヲ進ムルコト望マシキ旨ヲ述ヘ若シ新政府又ハ日本單獨ニ對重慶工作ヲ行フトキハ却テ重慶ヲ切崩スコトヲ得サルノミナラス和平ニ對スル妨害トモナル處アリト述ヘタリ

總理大臣及陸軍大臣ハ重慶側最近ノ狀態特ニ蔣介石ノ立場等ニ對スル汪側ノ觀察ヲ質問シタルニ對シ陳公博ハ重慶政府ノ要人連ハ百分ノ九十以上心中和平ヲ希望シ居ルコトハ疑ナク殊ニ自分カ本年二月重慶ヨリ出て來レル友人ヨリ聞キ込ミタル處ニ依レハ許世英、于右

任、戴天仇ノ如キハ今ノ處日支和平ノ途ヲ發見スルヲ得ス但汪政權カ實現シ日支ノ間ニ和平ノ交渉進捗セハ之或ハ事變解決ノ一端トナルヤモ圖ラレスト述ヘタル趣ニシテ其ノ口吻ヨリ察スルニ彼等ハ汪政權ニ反對ナルニハ非ス汪政權カ如何ナル條件ヲ以テ日本ト國交ヲ調整スルヤヲ注目シ居ルモノト想像セラル、

之ニ反シテ蔣介石ハ全ク別個ノ問題ナリ、我々ハ蔣介石ト重慶政府トヲ別ノ問題ト考ヘ居レリ。自分ハ香港ニ居ル間一年間ニ亘リ蔣介石問題ヲ研究シタルカ最初蔣力和平ニ反對スルハ下野問題ニ絡ミ居ル爲ニ非スヤト思ヒ込ミ居リタルモ右ハ全ク無關係ニシテ蔣力和平ノ立場ヲ執リ得ザルハ寧ロ他二原因アリ其ノ一ハ彼ハ抗日ヲ以テ支那ノ統一ヲ圖リ其ノ途上ニアル者ナルヲ以テ今抗日ヲ捨ツルコトハ直チニ支那ノ統一ヲ破ルコトトナリ到底之ヲ爲シ得スト思ヒ居ルコトナリ

第二ハ共產黨トノ關係ナルカ蔣ハ過去十年間共產黨ノ肅清ヲ圖リ西安事件前ニ一段落トナリタルモ今回ノ事變ニ依リ勢力ヲ張リタル共產黨ニ對シ將來果シテ之ヲ肅清シ得ル自信アリヤ否ヤニ付蔣自身確乎タル見透シ

ナキモノノ如ク之亦蔣力和平ヲナシ得サル一原因ナリ要スルニ今日迄ノ狀況ニテハ蔣ニ對シテハ見込ナシト思惟シ居ル次第ナリ

陸軍大臣ハ新政府ハ蔣介石ヲ如何ニ取扱フ積リナリヤトノ質問ヲ發シタル處陳ハ汪精衛ハ極メテハツキリセラル態度ヲ有ス例ヘハ昨年「スチュワート」ノ使者カ汪ノ許ニ至リ蔣介石問題ニ付汪ノ意見ヲ求メタル時モ汪ハ蔣ニシテ和平ニ贊成シ出テ來ルニ於テハ蔣ヲ立テテ自分ハ之ヲ助クルモ差支ナク又蔣ニ於テ自分カ中心トナリテ政府ヲ組織セヨト言フナラハ自分カ政府ノ中心トナリ蔣ノ援助ヲ受クルコトモ差支ナシ又蔣モ下野シ自分モ下野シ孔祥熙、張群アタリカ中心トナリテ日本トノ全面的の和平ヲ議スルコトトナルニ於テハ自分ハ固ヨリ蔣ト共ニ下野スルヲ辭セスト語リタルコトアリ斯ノ如ク新政府側ハ全面的の和平ニ付極メテ明瞭ナル態度ヲ有シ居ル譯ナリ然ルニ蔣介石ハ之ニ反シ「スチュワート」カ蔣ニ對シ和平ヲ勸告シタルニ對シ「日本ヨリ先ツ支那ニ向ツテ媾和ノ申入ヲナスコトニ、米國カ仲介者トナリテ日支ノ間ニ話合ヲナスコト

ノ二條件ノ下ニ非サレハ日本トノ話合ニハ應シ難シト述ヘタル趣ナルカ右ハ明ニ蔣二和平ノ誠意ナキコトヲ示スモノナリト答ヘタリ

### (三) 華北及蒙疆ノ問題

陳ハ近ク阿部大使トノ間ニ開カルヘキ國交調整問題ハ昨年十二月現地當局間ニ取極メラレタル話合ヲ根據トスルコトハ汪精衛以下新政府側全部異存ナキ處ナルハ勿論ナルモ全然自分個人ノ意見トシテハ日本側ニ於テハ自發的ニ考慮セラルヘキ點相當存在シ居ルコトヲ注意致度シ其ノ第一ハ華北政務委員會ノ問題ナルカ元來華北政務委員會ノ組織ハ華北ニ於ケル日支ノ經濟合作ノ便宜ノ爲ニツクラレタルモノト思考シ居ル處其ノ後ノ狀態ヲ見ルニ華北ハ一般的ニ著シク特殊化セラレ政務委員會ハ殆ト獨立政府ノ如キ觀ヲ呈セントスル氣配アリ右ハ支那ノ爲ニハ固ヨリ日本ノ爲ニモ採ラサル處ナリ又蒙古聯合自治政府ハ晋北十三縣ヲ其ノ管轄下ニ入ルルコトニ話合ナリ居ルモ右地方ハ二千年來ノ歴史ヲ有シ滿洲等トハ全く異ナレル事情ニアリ之ヲ蒙古古ニ編入スルニ付テハ支那國民ニ對スル影響決シテ少カラ

ス況ヤ所謂蒙疆ニハ六百萬ノ漢人種ニ對シ僅カ二十萬ノ蒙古人ヲ有スルニ過キサルニ於テオヤ尤モ蒙古ヲ以テ防共ノ爲高度ノ自治區域ト爲スコトハ我々ノ固ヨリ反對セサル處ナリト申入ルル處アリタリ、右ニ對シ各大臣共斯ル問題ハ孰レ國交調整交渉ノ際阿部大使等ニ連絡セラルレハ可ナラムト輕ク應酬シ置ケリ

尙本件ニ關シ陳公博ハ華北及蒙疆地區ニ於ケル「モルヒネ」「ヘロイン」ヲ公然製造販賣シ甚タスキニ至リテハ張家口等ニ於テ質屋ニ於テ「モルヒネ」「ヘロイン」等ヲ取扱ヒ居ル事實ヲ述ヘ斯ルコトハ日支ノ合作ニ甚シク惡影響ヲ及ホスモノナリトテ日本側ノ注意ヲ喚起スル處アリタリ

### (四) 新政府ノ民心獲得問題

陳公博ハ各大臣ニ對シ國交調整ノ問題ト別個ニ極メテ小ナル問題ナルカト前提シ新政府樹立以來民衆生活ノ安定ノ爲ニ新政府ハ何等ノ施設ヲ爲シ得サル實狀ヲ訴ヘ日本側ノ考慮ヲ要望セリ其ノ例トシテ米ハ產地ニ於テ一ピクル約十二、三元ナルモノ南京、上海ニ於テ四、五十弗ノ相場トナリ居ル事實又南京ニ於テ新政府ノ職

員ハ市民證ヲ所持スルヲ要シ其ノ發給ハ軍特務機關ニ於テ之ヲ行ヒツツアル事實竝各地方ニ於ケル宣撫班ハ連絡員ト名稱ヲ改メ居ルモ依然トシテ地方政治ノ實權ヲ握リ、中央政府ノ政令ハ地方ニ徹底セサル憾ミアリ等ノ實狀ヲ述ヘテ新政府カ民衆ニ新ラシキ希望ヲ與ヘ得サル憾ミアル點ヲ指摘シ日本ノ援助方ヲ求ムル所アリタリ

六、以上ハ陳公博カ各大臣ト會談シタル際ニ提出セル問題ノ概要ナルカ此ノ外大藏大臣ニ對シテハ新中央銀行ノ設立方ニ付、成ル可ク速カニ成立スル様日本側ノ協力ヲ希望スル所アリ右ニ對シ大臣ハ中央銀行ノ樹立ニハ十分ナル研究ヲ爲シ鞏固ナル基礎ノ下ニ之ヲ開キ得ルニ至ラサレハ中央銀行トシテノ職能ヲ發揮シ得ス新通貨ヲシテ全國ニ流通セシムル爲ニハ相當鞏固ナル基礎ナカルヘカラス最近阿部大使ノ經濟顧問トシテ青木氏南京ニ赴キタルヲ以テ研究ノ結果其ノ報告ヲ俟チ出來ル限りノ援助ヲ與フルコトトスヘシト答ヘタリ

七、陸軍大臣ハ前記問題以外ニ左ノ三點ヲ強調セリ

(一)新政府ハ其ノ實力ヲ増加スル爲ニ先ツ政府自身ニ於テ

爲スヘキコトヲ十分爲スコトニ努力セラレ度シ

(二)國交調整ノ場合考慮スヘキコトハ日本ハ今尙作戰中ニアルコト及新政府ハ日本軍ノ占據セル地域内ニ成立シ居ルコトヲ認識スルヲ要ス陸軍ノ立場トシテハ自ら作戰ヲ以テ第一ト爲シ戰爭ニ勝ツコトヲ考フル必要アリ右ノ作戰ノ必要上種々ノ問題生スル次第ナルカ固ヨリ新政府ノ發展ノ爲出來ル限り作戰上ノ必要ヲ忍ビ新政府ニ協力スルコトニハ努力スヘキモ支那側ニ於テモ右ノ事態及軍力作戰ノ全責任ヲ持チ居ル事實ヲ篤ト認識シ國交調整トノ間ニ不一致ノ場合モ生スルコトナキヲ保セサルコトヲ考慮シ置クコトヲ要ス

(三)陸軍トシテハ蔣介石カ容共抗日政策ヲ捨テサル限り飽ク迄モ武力ヲ以テ之ヲ攻撃スルノ態勢ヲ續ク必要ニ依リテハ更ニ軍事行動ヲ積極化スル積リナリ

八、大藏大臣ヨリハ前記懇談ニ提出セラレタル問題以外ニ日本ノ經濟力ニ付歐洲大戰當時ノ各國トノ比較ヲ數字ニ基キテ説明シ日本ノ經濟力カ戰爭ノ遂行ハ固ヨリ新東亞ノ建設ニ十分餘裕アル旨ヲ述ヘ日支經濟合作ハ東亞一体トナリテ支那ノ富源ヲ開發シ日支兩國國民各々其ノ福利ヲ增

進スルヲ目標トスルモノニシテ日本ハ何等領土の野心ヲ有セサル次第ナル旨ヲ述ヘタリ

568 昭和15年5月27日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

南京政府に対する日本側の支援強化を在中國  
伊国大使要望について

南京 5月27日後発

本省 5月27日夜着

第一二八號(極秘)

二十四日上海ニ於テ伊國大使カ日高參事官ニ内話セル要點  
左ノ通り

日本ハ汪一派ヲシテ政府ヲ造ラシメタル以上之ヲ助ケ速ニ  
之ト話合ヲ附ケ日本側ノ決意ヲ中外ニ示シ且出來得ル限り  
汪ノ面目ヲ立テ遣ラハ民心ヲ把握シ重慶ニ動搖ヲ與ヘ外國  
ヲシテ新中央政府ニ重キヲ置カシムルニ至ルヘシ率直ニ言  
ヘハ新政府成立後モ一向目ニ見エタル進展無ク外國人ハ勿  
論支那人モ期待ニ反シタル感ヲ抱キ人氣ヲ失ヒツツアリ日  
本カ大局ニ着眼シテ小節ニ拘泥セス何等カ中央政府ノ自主

性ヲ示ス如キ事實ヲ示サルコト必要ナルヘシ

蔣ハ益々英米ノ手先トナリタル傾アリ佛ノ對支物資輸送ハ  
相當ノモノニテ滇越鐵道ニテ毎月二萬三千噸餘リ自動車ニ  
テ毎日七〇噸位ヲ運ヒ居レリ過般ノ爆撃ハ極メテ有效ニ行  
レ約三箇月間輸送杜絶セリ獨ノ出先外交官及商人ハ大局ヲ  
解セス小商人氣分ニテ重慶トノ商賣ノコト許リ考ヘ甚タ物  
足ラス現ニ同國外交官カ當地ヨリ承認尙早トノ意見ヲ電報  
セル事實モアリ

伊國ノ日支事變ニ對スル態度ハ變化無シ自分ハ日本及新政  
府トノ爲他國トノ間ニ出來得ル丈盡力スル積リナリ  
興亞院ニ轉報アリタシ  
北京、上海ヘ轉電セリ

569 昭和15年6月8日

在北京藤井大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

王克敏辭職に伴う華北政務委員長の後任に王  
揖唐決定について

北京 6月8日後発  
本省 6月8日夜着

第四四四號

王克敏ハ豫テ辭意ヲ有シ居リタルカ各方面ノ慰留モアリ實  
 現ヲ見ルニ至ラサリシ次第ナル處五月九日森岡連絡部長官  
 ニ對シ正式ニ辭意ヲ表明スルニ至リ長官ニ於テ關係方面ト  
 協議ノ結果已ムヲ得サルモノト認メ後任ニ王揖唐ヲ推擧ス  
 ル事ニ決定(後任委員長ニ關シテハ政務委員會側ニモ多少  
 ノ意見ノ喰違ヒアリタリ)六日南京ヨリ夫々正式ニ發表ヲ  
 見タリ尙政務委員中一、二辭任ヲ見ル模様ナルカ大體人事  
 ニハ變動ナク總テ現状維持ノ事トナルヤニ見ラル

南京大使、在支各總領事ニ轉電セリ

570 昭和15年6月12日 興亜院會議決定

「大使ニ對スル訓令案」

付記一 昭和十五年六月十二日

右決定の際の興亜院會議議事要旨

二 昭和十五年六月十三日

大使隨員に対する右決定の説明のための會議

要旨

三 昭和十五年六月十三日

右説明に際シ大使隨員に与えられた諒解

大使ニ對スル訓令案

昭和十五年六月十二日

興亜院會議決定

貴大使ハ左記ニ依リ新中央政府トノ間ニ日支新關係調整ニ  
 關スル條約締結ノ交渉ヲ開始セラレ度シ

記

- 一、帝國政府ハ新政府ノ承認ヲ條約締結ノ形式ニ於テ行フモ  
 ノナル處右條約ノ構成及其内容トシテ取極ムベキ事項ノ  
 範圍及緊要度ニ關シ交渉ノ基礎トシテ別紙第一「條約體  
 系概案」、別紙第二「日滿支共同宣言書要綱」、別紙第三  
 「日支間ノ新國交修復ニ關スル條約要綱」、及別紙第四  
 「附屬議定書要綱」ヲ決定セリ。而シテ「條約體系概案」  
 ニ掲ケラレタル諸取極中右以外ノモノニ就キテハ目下鈞  
 意審議中ニシテ引續キ決定ノ上送付セラルヘシ
- 二、支那ノ滿洲國承認ハ今回ノ條約締結前又ハ遅クトモ之ト  
 同時ニ必ス之ヲ實行セシムルヲ要ス。
- 三、而シテ承認ノ形式ニ付テハ我方トシテハ日滿支三國政府

カ主權及領土ノ相互尊重並ニ相互提携ノ精神ヲ共同ニ宣言スル別紙第二ノ如キ形式ニ依ルコト最モ適當ナルヘシト認ムル次第ナリ

三、新條約ハ帝國カ支那ニ於ケル抗日勢力ニ對シ大規模ナル戰爭行爲ヲ繼續シツツ我方占據地域内ニ於テ成立セル新政府ヲ相手トシ締結スルモノナル點ニ於テ通常交戰國間ニ於テ休戰後締結セラルル媾和條約トハ本質的ノ相違アリ、即チ新條約ハ事變ノ善後處置及今後永キニ渉ル日支關係ノ規準ヲ定ムルモノタルヲ要スル外、之ト同時ニ内國民ノ士氣ヲ振作シ事變完遂ニ對スル國民的結束ヲ確クシ、外交那人心ヲ把握シテ事變ノ解決ノ促進ニ資シ、且第三國ニ對シテハ帝國國策遂行ニ關スル不動ノ決意及其ノ具體的限界ヲ明示スルモノタルヲ要スル次第ナリ  
右ハ公表セラルヘキ諸取極ノ規定ニ關シ政府ノ特ニ意圖スル點ナリ

四、我國ノ支那ニ於ケル戰爭行爲ハ尙大規模ニ進行中ナルヲ以テ我方トシテ新政府ノ承認、新條約ノ締結ニ依リ聊モ戰爭行爲ニ累ヲ及ボスガ如キ拘束ヲ受クルコトヲ欲セザルハ勿論、新政府モ進ンデ事變解決ノ爲我方ト密接ニ協

力スベキモノト認ムルモノニシテ別紙第四「附屬議定書要綱」中ニモ此點ヲ明記シ誤解ナキヲ期シタリ

五、今回交渉が大體客年十二月三十日梅機關、汪側間ニ內約セラレタル「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ノ線ニ沿ヒテ行ハルコトトナルベキコトハ從來ノ經過殊ニ支那側ノ立場トシテ當然ニシテ政府ニ於テモ條約取極ノ立案ニ當リ努メテ此點ニ留意シタリ。而シテ交渉ノ開始ニ當リ支那側トシテハ先ヅ右「協議書類」全體ノ確認ヲ求メ來ルコトアルベキ處我方トシテハ貴大使ニ於テ我方モ亦大體「協議書類」ノ趣旨ニ準據シ交渉ヲ行フ意向ニシテ今回提示スベキ我方ノ案ガ大體「協議書類」ノ趣旨ニ合致セルモノナル旨及前記「條約體系概要」ニ含マレザル事項ニ關シテハ戰爭行爲繼續ニ伴フ特殊事態ノ存在ヲ考慮ニ入レツツ引續キ右「協議書類」ノ規定ノ趣旨ニ準據シ日支兩國協力シテ國交修復ノ爲之ガ具現ニ努ムベク又條約諸取極ヲ補足スル爲引續キ右趣旨ニ準據シ且必要ニ應ジ更ニ具體的事項ニ付協定ヲ折衝締結スベキ旨ヲ回答セラルルモ差支ナシ。又先方ニ於テ強テ主張スルニ於テハ「條約體系概要」ニ含マレザル事項中ノ或ルモノニ

付此際取極ヲナスコトモ考慮シ得ザルニハ非ズ。然レドモ其場合ニ於テモ我國トシテ戰爭行爲繼續中ナル現在ノ事態ニ於テ「協議書類(別冊)」ニ掲ゲラレタル事項ニ關シ將來ニ對シ拘束ヲ受クルガ如キ取極ヲ今直チニナスコトハ困難トスル處ナルニ付御含ミ置キ相成度シ

六、今回交渉ハ特ニ機微且重大ナルヲ以テ政府ト密接ナル聯絡ヲ保持シ交渉ノ經過ニ就テハ隨時報告セラレ度シ

機密ノ保持ニ就テハ重慶側及第三國側ノ策動等ニモ鑑ミ特ニ新政府側トモ充分打合セ萬全ヲ期セラレ度シ

七、新政府ガ帝國ト條約ヲ締結スルノ資格ノ點ニ關シテハ別ニ訓令セラレベシ

「別紙第一」

條約體系概要

一、日滿支共同宣言書

二、日支間關係條約

(一) 基本條約(公表)

昭和十五年六月十二日  
興亞院會議決定

「日支間ノ國交修復ニ關スル條約」

(二) 附屬議定書(公表)

- 〇〇 一、特殊事態ノ承認
- 〇〇 二、既成事實ノ承繼
- 〇〇 三、撤兵
- 〇〇 四、日本人ノ受ケタル損害補償及支那難民救濟

(三) 附屬經濟協定(公表)

- 〇〇 一、一般産業協力
- 〇〇 二、北支、蒙疆
- 〇〇 三、海南島
- 〇〇 四、揚子江下流地域
- 〇〇 五、合辦會社

(四) 附屬協定(秘密)

- 〇〇〇〇〇〇 一、外交提携
- 〇〇〇〇〇〇 二、顧問
- 〇〇〇〇〇〇 三、治安駐兵
- 〇〇〇〇〇〇 四、交通等ヘノ軍事的要求權
- 〇〇〇〇〇〇 五、駐屯ニ伴フ便宜供與
- 〇〇〇〇〇〇 六、航空、氣象、鐵道、海運、水運、通信

(五) 交換公文(秘密)

- 〇〇 一、北支政務委員會
  - 〇〇 二、蒙疆自治
  - 〇〇 三、揚子江下流地域
  - 〇〇 四、海南島省
  - 〇〇 五、廈門特別市
- (各個別的ノモノトナルヘシ)

備考

〇ヲ附シタルモノハ我方トシテ必ズ承認ニ當リ基本條約及共同宣言ト共ニ同時ニ取極ムルコト必要

卜認ムル事項

「別紙第二」

日滿支共同宣言書要綱(案)

昭和十五年六月十二日

興亞院會議決定

日本國政府、滿洲國政府及中華民國政府ハ三國ガ緊密ニ相提携シテ道義ニ立脚スル東亞ノ新秩序ヲ確立シ以テ永遠ノ平和ヲ保持センコトヲ希望シ左ノ如ク宣言ス

一、日本國、滿洲國及中華民國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重ス

二、日本國、滿洲國及中華民國ハ善隣友好ノ實ヲ舉クル爲施政ノ各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ス

註、本書ハ三國ノ全權委員之ニ署名シ發表スルモノトス

「別紙第三」

日支間ノ新國交修復ニ關スル條約要綱(案)

昭和十五年六月十二日

興亞院會議決定

日支兩國政府ハ兩國ガ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標トナシ、之ガ爲日支兩國間ノ新關係ヲ律スベキ基本條件トシテ次ノ各條ヲ協定セリ

第一條 兩國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ善隣友好ノ實ヲ舉クル爲各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ズルコトヲ約ス 兩國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ互リ相互ニ好誼ヲ破壞スルガ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁絶ス

兩國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス 第二條 兩國ハ協同シテ防共ニ當リ且共通ノ治安維持ニ關シ協力ス

日本ハ蒙疆並ニ北支ノ一定地域ニ所要ノ日本國軍ヲ駐屯シ又兩國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及其組織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス 日本ハ揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼並ニ之ニ關聯スル地點ニ艦船部隊ヲ駐留ス

第三條 兩國ハ平等互惠ノ精神ニ依リ且長短相補ヒ有無相通スルノ趣旨ニ基キ緊密ナル經濟上ノ提携ヲ行フ

兩國ハ支那領域内ニ於ケル資源殊ニ北支、蒙疆及海南島  
竝ニ附近ノ島嶼ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發  
ニ關シ緊密ニ協力ス、右資源ノ利用ニ關シ支那ハ日本國  
及日本國臣民ニ對シ特別ノ便宜ヲ提供ス

兩國ハ一般通商ヲ振興スルト共ニ兩國間ノ物資需給ヲ便  
宜且合理的ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講ズ、揚子江下  
流域ニ於ケル兩國ノ通商交易ノ増進及日本ト北支竝ニ  
蒙疆間ノ物資需給ノ合理化ニ關シテハ特ニ緊密ニ協力ス  
兩國ハ支那ニ於ケル産業、金融、交通、通信ノ復興、發  
達ニ關シ緊密ニ協力ス

第四條 日本ハ日支新關係ノ發展ニ照應シ漸次租界ノ還附、  
一治外法權ノ撤廢等ヲ行フ

支那ハ別ニ協定セララルル處ニ依リ日本國臣民ノ爲内地ヲ  
開放ス

第五條 兩國ハ本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事項ヲ  
別ニ協定ス

「別紙第四」

附屬議定書(公表)要綱(案)

昭和十五年六月十二日  
興亞院會議決定

第一條

中華民國政府ハ日本國ガ現ニ中華民國領域内ニ於テ遂行シ  
ツツアル戰爭行爲ヲ繼續スル期間右戰爭行爲遂行ニ伴フ特  
殊事態ノ存在スルコト及日本國ガ中華民國領域内ニ於テ右  
戰爭行爲ノ目的達成上必要ナル措置ヲトルコトヲ諒解シ右  
目的完遂ニ協力スルコトヲ約ス

右特殊事態ハ戰爭行爲繼續中ニ在リテモ日本國ノ右目的達  
成上之ヲ許ス限リ情勢ノ推移ニ應ジ條約及附屬諸取極ノ精  
神ニ基キ調整セラルベキモノトス

第二條

中華民國政府ハ臨時、維新政府其他地方政府ノ辨ジタル一  
切ノ政務ヲ其ノ儘承認スベク之等政府ノ辨ジタル諸般ノ現  
行事實ハ引續キ有效ナルコトヲ確認ス

右現行事實中本日調印セラレタル「日支間ノ新國交修復ニ  
關スル條約」及附屬日支間取極ノ規定ニ依リ調整セラルベ  
キモノニ付テハ將來事態ノ推移ニ應ジテ日支兩國間ノ協議  
ニ依リ逐次必要ナル調整ヲ計ルモノトス

### 第三條

日本國ハ抗日勢力ニ對スル軍事行動ヲ終了シタル時ハ中華  
民國ニ派遣セル約定以外ノ軍隊ノ撤去ヲ開始シ治安確立後  
二年以内ニ之ヲ完了スベク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治  
安ノ確立ヲ保障スルモノトス

### 第四條

中華民國政府ハ事變發生以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リ  
タル權利利益ノ損害ヲ補償スベキコトヲ約ス  
日本國政府ハ事變ノ爲生ジタル支那難民ノ救濟救済ニ就キ中華  
民國政府ニ協力スベキコトヲ約ス

### (付記一)

六月十二日興亞院會議議事覽

(會議後政務部長ノ談話ニ基キ筆記)

- 一、先ヅ政務部長ヨリ別紙(日支國交調整交渉ニ關スル件)ニ  
基キ全般的ノ説明ヲナシ次ニ訓令案及同別紙第一乃至第  
四ニ關シ説明セルニ
- 總理大臣ヨリ「阿部大使ヨリ種々ノ電報接到シ居ル處  
之ヲ如何ニ見ルベキヤ」トノ質問アリ

三、次テ訓令案ノ審議ニ入り

- 外務大臣ヨリ「第一項ニ條約締結ノ形式ニ於テ行フ、  
トノ字句ハ今後情勢ノ變化ニヨリテハ必ズシモ此形式  
ニヨラザルコトアルベキコトヲ排除スルモノニ非ズト  
諒解シテ可ナリヤ」トノ質問アリ
- 政務部長ヨリ「政府ガ四圍ノ情勢ヲ判斷シテ新ニ決意  
セラルルコトハ固ヨリ差支ナカルベシ」ト答フ
- 外務大臣ヨリ「訓令第二項ニ「滿洲國承認ハ今回ノ條

約締結前又ハ」云々トアル處締結前ニ之ヲ行ハシメン  
トノ意向アル次第ナリヤ」トノ質問アリ

政務部長ヨリ「政府トシテハ三國宣言案ヲ最モ適當ト  
考フルモ交渉ノ經過ニヨリテハ先ヅ支那ガ一方のニ承  
認スルコトモ考ヘラレ又條約ノ他ノ部分ニ付交渉成立  
セザル場合ニ三國宣言ノミヲ以テ承認スルコトモ考ヘ  
ラレザルニ非ズ。又文章トシテ「遅クモ同時」ノ意ヲ  
強ク言ヒ表ハス爲ニモ挿入セル字句ナリ」ト答フ

○總理大臣ヨリ「訓令第五項ノ意味如何」トノ質問アリ  
政務部長ヨリ「要スルニ「差支ナシ」迄ハ應酬振ナリ  
「先方ニ於テ」云々以下ハ實質的ノ規定ニシテ「體系  
概案」ノ枠以外ニ出ルコトモ考慮セラルルモ其場合ニ  
於テモ別冊ニ掲ゲラレタル事項ハ取極トスルベカラズ  
トノ訓令ノ意ナリ」ト説明ス

○外務大臣ヨリ「第五項ノ末段ハ將來モ我方ノ要求トシ  
テ「別冊」ヨリ増加スルコトナキモ今度ハ協定セズト  
ノ意味ナリヤ」ト質問アリ  
政務部長ヨリ「戰爭遂行中ハ之等事項ヲ公式ニ論議ス  
ベカラズ、トイフ事ニシテ其ノ内容ハ可ナルモ協定ス

ルコト出來ズ、トイフ如キ問題ニ非ズ」ト答ヘ  
陸軍大臣ヨリ「將來別冊ノ規定ヲ超エテ要求スルノ意  
志ハナシ。但シ今論議協定スルコトハ不可ナリトノ意  
味ナリ」ト述べ

外務大臣ヨリ「然ラバ此處ニ規定セル處ニヨリ將來  
「協議書類別冊」ノ内容ヲ逸脱シ又ハ紛亂スルコトア  
ルベシトノ意ニ非ズト考ヘ差支ナキヤ」ト質問シ  
政務部長ヨリ「然リ、之ニハ觸レズ、トイフコトナリ。  
此ノ意味ヲ隨員ニ傳ヘラルルモ差支ナシ」ト答フ

○海軍大臣ヨリ「第七項資格ノ點ハ如何」ト質問アリ  
政務部長ヨリ「目下人ヲ現地ニ派シテ支那側ノ意向ヲ  
調査セシメツツアリ。隨員側ハ汪ニ於テ主席ニナルコ  
トヲ簡單ニ行ハルベシト考ヘ居ルモ果シテ如何カト考  
フ」ト答フ

三、右質疑後原案通り決定セラレタリ

(欄外記入)

別紙

日支國交調整交渉ニ關スル件

一、本年一月八日閣議決定ノ「新政府樹立ニ關聯スル處理方

針」ニ於テ新中央政府ヲ相手トスル正式國交調整交渉開始ノ時期竝ニ國交調整條件ハ該政府ノ發育及内外ノ情勢ヲ見極メタル上追テ之ヲ決定スルモノトス

ト決定セラレアリ而シテ新政府樹立以來今日ニ至ル間其發育狀況ヲ詳察スルニ逐次其基礎ヲ堅メツツアルモ人的要素ニ於テ財力ニ於テ將タ亦行政能力ニ於テ未タ以テ中央政府トシテ條約履行ノ實體ヲ具備スルニ至ラス特ニ政治運営ノ基底力タル兵權ノ確立及軍力ノ點ニ至リテハ極メテ不充分ナリ之ヲ以テ該政府發育ノ現狀ヨリセハ未タ以テ必スシモ條約締結ノ段階ニ到達シアリト認ムルヲ得ス然レトモ飜テ内外ノ諸情勢ヲ考察スルニ歐洲戰亂ノ發展特ニ該戰亂ヲ廻ル獨伊ノ壓到的勝勢及之ニ原因スル重慶政權ノ抗戰意志ノ動搖ト其實力弱化作トハ速カニ條約締結ニ關スル交渉ヲ開始シ一ツハ以テ帝國不動ノ決意ヲ中外ニ宣明シ他ハ以テ全般的事變解決ノ促進ニ資スルノ要切ナルモノアリ依テ新政府ノ實力強化ハ今後引續キ之カ施策ヲ活潑ナラシムルコトトシ新政府ヲ相手トスル國交調整ヲ速カニ開始スルコトトセリ

三、本交渉カ昭和十三年十一月三十日御前會議決定ノ「日支

新關係調整方針」ヲ根帶トシ昭和十三年十二月三十日梅機關汪間ニ行ハレタル日支協議書類ニ準據シ行ハルヘキモノタルハ勿論ナルモ交渉開始ノ事情前項ノ如クナルヲ以テ交渉間ニ於テモ常ニ今後ニ於ケル世界政局ノ變轉ト事變全局ノ動向トニ則應シテ機宜ノ處斷ニ出テ得ルノ彈力性ヲ保持スルト共ニ帝國ノ事變遂行力ニ微動タモ來サルノ用意トヲ必要ト認メ條約要綱ノ立案取扱ニ當リ特ニ此點ニ留意シツツアリ

三、條約全般ニ關スル立案ハ一應之ヲ了シタルモ交渉開始ヲ急クノ必要ヨリシテ全般ニ亘リ審議決定ヲ爲スノ餘裕ナク爲メニ差當リ交渉開始ニ必要ナル部分ノミノ審議決定ニ止メ新政府承認時迄テニ必要ナル條項ニ就テハ追テ取急キ審議決定スルコトトセリ

(欄外記入)

一五、六、一二、興亞院會議ノ際政務部長ノ述べタル要旨

(付記二)

六月十三日隨員團ニ説明ノ爲ノ會議ノ議事覺

出席者

興亞院	鈴木	政務部長
〃	石川	政務部第一課長
〃	吉野	政務部第二課長
〃	政務部第一課	
〃	第二課	課員
外務省	田尻東亞局	第一課長
大藏省	榑田理財局	外事課長
陸軍省	河村軍務局	軍務課長
〃	石井	同課員
海軍省	大前軍務局	第一課員
大使隨員團	影佐	隨員
〃	犬養	隨員
〃	杉原	隨員
〃	藤井	隨員
〃	石原	隨員

一、訓令案ニ付鈴木部長ヨリ説明

針。(前回ノ案ヲ變更シタル理由—政府ノ交渉開始ヲ急グ方

一、現在ノ處テハ條約調印ノ形式ヲ以テ承認セントス。

二、「差支ナシ」迄ハ應酬振。次ノ「非ズ」迄ハ本質、ソ  
ノ次ノ「相成度シ」迄モ本質ニシテ前ノ項ヲ限定スル  
モノナリ。

七、ハ之カラ隨員トモ連絡シテ研究シタシ。

二、次テ質問ニ入り

杉原「第一項ノ規定ハ條約締結以外ノ形式ヲモ絶對ニ排  
除スルモノニハ非スト解シ差支ナキヤ」

部長「中央ニ於テ情況ニヨリ意志ヲ變更スルコト絶對ニ  
ナシトハ云ヘズ。但シ斯ル際ハ改メテ訓令アルヘキ筋  
合ナリ」

杉原「第一項ニ掲ケタル條約取極ハ概定ニシテ「體系概  
案」ニ掲ケラレサル事項ノ取極ノ如キモ必スシモ排斥  
スルモノニ非ズト解シ差支ナキヤ」

部長「然リ」

杉原「第二項ニ「締結前又ハ」トアルモ其ノ要旨ハ「遲  
クトモ同時」ニ重點アリト解シ差支ナキヤ」

部長「然リ、支那ガ先ツ自發的ニ單獨テ滿洲國承認ヲ行  
フモ差支ナキニ付「前二」トアル次第ナリ」

杉原「第五項ノ前段ノ規定ニ關シ、交渉全體ヲ「イニシ  
アチブ」ヲトツテ「リード」スル爲ニ「協議書類」全  
体ニツキ之ニ準據シ交渉スヘシトイフカ如キコトヲ我  
方ヨリ進ンデ云ヒ出シテモ差支ナキヤ。又「回答スル  
モ差支ナシ」トアルハ場合ニヨリ文書ヲ以テシテモ差  
支ナキ意ナリヤ。」

部長「然リ。然レドモ文書ヲ以テスルカ如キコトハナル  
ヘク避ケタシトイフ考ナリ。」

影佐「ソノ邊御趣旨ヲ諒解シ難シ。日本ガ協議書類ノ内  
容ヲ超ヘテ要求スル方針ナラバ別ナルモ協議書類ノ内  
容ハ可ナリトイフコトナラバ文書ヲ以テ確認スルモ差  
支ナキニ非スヤ。」

協議書類ノ内容ニ關シテハ支那トシテモ實ハ輕減ヲ欲  
スル規定モ多々アル次第ニテ交渉ニ當リ協議書類ヲ先  
ツ確認スルコトハ支那ニノミ有利ナリト解スルハ當ラ  
ズ。協議書類ノ確認ヲ不可トセラルルハ或ハ將來或事  
項ニツキ「プラス、アルファ」ヲ考ヘ居ラルルニ非ス  
ヤトモ思ハルル處如何。我々ハ確認ヲ澁ラルルハ「プ  
ラス、アルファ」ハナク、單ニ時機ノ問題ト諒解シ來

レリ。大使モ總理大臣以下カラ「プラス、アルファ」  
ハナシトノ確言ヲ得タル上ニテ御受ケシタル次第ニテ、  
此點ハ今般ノ訓令ニ依リ變更セラレタリトイフ事トナ  
ル」

部長「「プラス、アルファ」トイフ譯ニ非ズ。何トモキ  
メラレス、トイフ事ナリ。」

吉野「戰爭遂行中ハ決定出來ヌトイフ事ナリ」

影佐「ソレナラバ時機ノミノ問題トナル」

部長「單ナル時機ノ問題ニ非ズ」

杉原「回答セラレ差支ナシ、トノ點ニ掲ケアル「協議書  
類」ハ「別冊」モ含ム「協議書類」ト解シ差支ナキ  
ヤ」

部長「差支ナシ」

杉原「別冊ニ關シ取極ヲナスヘカラズトイフ事ハソレダ  
ケノ意味ニテ日本政府トシテ將來別冊ノ規定ヲ超越シ  
又ハウヤムヤニスル意志ハナシト解シ差支ナキヤ」  
部長「然リ。」

影佐「吉野課長ノ云フ如ク戰爭遂行中ハ決定出來ヌト云  
ヘバ之ハ時期ノ問題ナリ。而シテ支那側ニ於テ「別

冊」ヲ此際訓令ノ方針ノ如ク別扱トスルコトニ同意セサル場合ニハ訓令第一項ノ規定ニ顧ミ承認ハ當分ハ出來ヌトイフ事トナル。數年後トイフコトニナルベシ」

部長「交渉シテ見ナケレバ、分ラヌコトナリ」

影佐「要スルニ日本政府ノ腹トシテ別冊云々ニ藉口シテ承認ヲ遲ラサントノ意向アリテハ困ルトイフコトナリ」

部長「政府ノ意志トシテ斯ルコト絶対ニナシ」

影佐「諒承セリ」

(次テ藤井中佐ヨリ大使館ト中央トノ事務上ノ連絡ニ關シ發言アリタル後)

杉原「別紙第一「體系概要」ノ備考○ヲ附シタルモノノ範圍モ交渉ノ經過ニ依リ變ルコトアリ得ベシト考ヘテ可ナリヤ」

部長「政府トシテ現在ノ心持ハ同表ノ通りニシテ將來モアマリ變化ナカルベシ」

杉原「附屬議定書第二條ノ「政務」ト「辨シタル現行事實」トヲ區別スルコトノ意味如何。」

部長「行政的處斷ノ結果トシテ既成事實トナツタモノト

ノ兩方ヲ含ムモノナリ」

杉原「同第三條ハ非常ニ面倒ナル經緯アリテ決定ニ御苦心アリタルコトト思ハルルモ意味ハ明確ナラシメ置キタシ。右規定中「本期間」トハ如何ナル期間ナリヤ」

部長「二年以内、ナリ」

藤井「別冊」中海軍關係ノモノハ寧ろ直チニ取極トスルコト有利ナリト考ヘラルル處之モ何等協定セサル御方針ナリヤ」

石川「日本側ノ步調ガ亂レルカラ此際取極メザルコトトシタル次第ナリ。交渉ノ途中ニテ若シ差支ナキ方式アラバ中央ト連絡ノ上善處セントスルモノナリ」

大前「海軍トシテ軍事協定トイフカ如キコトハ陸軍トノ振り合ヒヲ保ツ意味ニテ困難ナルヘキモ別冊海軍關係事項中必要ナルモノヲ議事録等何等カ適當ノ形式ニテ取極メ置キタキ希望ナリ」

影佐「要スルニ我々ノ申ス處ハ協議書類全般ニ關シ交渉開始ニ當リ先ツ協議書類ノ「ライン」デ行カウ、トイフ話合ヒヲシタイトイフ趣旨ナリ」

部長「訓令ハ斯ルコトヲナルベク遣リタクナシトノ事ヲ

示スモノナリ。要スルニ交渉ニ先ンジ支那側ト文書ヲ以テ斯ルコトヲ取極ムルコトハ信ナキコトヲ示ス。相互間ニ信アレバ問題ナシ」

影佐「信ナキ故問題トナル次第ナリ」

藤井「外交交渉ノ手段トシテヤルノハ差支ナカルベシ。

議事録等ニ記録セラルルコトトナルハ致方ナカルベシ。」

田尻「正式ノ協定ニ近キ議事録ヲ條約締結前ニヤルコトハ不可ナリ」

影佐「結局今回ノ交渉ハ協議書類ヲ基礎トシテ案文ヲ均ラスコトニ終始スルコトトナルベシ。協議書類ノ字句ノ不明確ナルモノヲ明確ニスルコトハ出來ルモ其レ以上ノコトハ困難ナルヘシ」

(次テ隨員側ヨリ別紙<sup>編註</sup>「大使隨員ニ與ヘラレタル諒解」ヲ提出シ誤リナキヤヲ質問シ所要ノ訂正ヲ加ヘ大體承認セラレタリ)

其他打合セラレタル事項

○本件交渉ニ關スル發表ハ現地テ或ル程度ノコトハヤリ、中央ニテ發表スル場合ニハ外務省カ其事務ヲナスコト

○滿洲國關係ニツキテハ陸軍省ヨリ關東軍ト所要ノ聯絡ヲナスコト等

編註 訂正済の「大使隨員ニ與ヘラレタル諒解」は、第50文

書付記三として採録。

(付記三)

六月十三日興亞院ニ於ケル訓令内容ノ説明ニ際シ

打合上京中ノ大使隨員ニ與ヘラレタル諒解

一、訓令案第一項中「帝國政府ハ新政府ノ承認ヲ條約締結ノ形式ニ於テ行フモノナル處」トアルハ將來情勢ニ依リ條約締結以外ノ方法ニ依ル場合アルコトヲ絕對ニ排斥スル趣旨ニ非ス

二、訓令案第一項中交渉ノ基礎トシテ決定セラレ又引續キ決定送付セラルヘキ諸要綱ハ我方ノ腹案ニシテ之等ヲ其ノ儘交渉原案トナスヘシトノ意味ニ非ス彼我交渉ノ經過ニ依リ体系其ノ他ハ右諸要綱ノ趣旨ヲ体シ機宜處理シ差支ナシ但シ内容ニ關シ變更ヲ見ル場合ニハ請訓セラルヘキモノトス

571

昭和15年6月16日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

対重慶和平工作実施の前提として日本による

三、訓令案第二項中「支那ノ滿洲國承認ハ今回ノ條約締結前  
又ハ遅クトモ之ト同時ニ必ス之ヲ實行セシムルヲ要ス」  
トアルモ必スシモ前段ノ「今回ノ條約締結前」ニ重點ヲ  
置クノ趣旨ニ非ス

四、訓令案第五項中協議書類ノ取扱振ニ關シ

(イ) 萬已ムヲ得サレハ彼我交渉ニ入ルニ當リ先ツ話合ハ協  
議書類(別冊共)ノ線ニ沿ヒ行ハルヘキ旨彼我ノ間ニ明  
確ニスルコト及要スレハ之ヲ議事録程度ノ文書ヲ以テ  
行フコト差支ナシ

(ロ) 協議書類中別冊ニ關スルモノノ取扱ハ現下諸般ノ情勢  
ニ於ケル中央トシテノ内意ヲ傳ヘタルモノニシテ將來  
右別冊ノ規定ヲ逸脱シ又ハ之ヲ有耶無耶ニ葬リ去ラン  
トスルカ如キ趣旨ヲ含ムモノニ非ス從テ之カ取扱ハ今  
後ニ於ケル交渉ノ進捗狀況ヲ考慮シ改メテ指示ヲ待ツ  
儀ト心得ルモノトス



南京政府の正式承認が先決との周仏海見解に  
ついて

南京 6月16日後発  
本省 6月16日夜着

第一八八號(極秘)

特第三二號

十四日周佛海ハ他用ヲ以テ面會セル清水ニ對シ對重慶工作  
ニ關シ大要左ノ如キ意見ヲ洩セル趣ナリ

一、對重慶工作ニ付テハ政府部内ニ於テモ種々考慮シ居リ有  
效ナル手ヲ打チ度キ積リナルモ日本側ノ正式承認無キ今  
日徒ラニ重慶側ニ手ヲ出ストキハ汪ハ日本ヨリ見捨テラ  
レタル結果重慶側ニ縋リ付カントスル下心ナルヘシト憶  
測セラレ又斯ル意味ヲ宣傳スヘキコト必定ニシテ斯クテ  
ハ却テ逆效果ヲ現ハス虞アリヤモ(知レス)此ノ際日本側  
ヨリ重慶ニ手ヲ伸スコトモ同様ニシテ日本ハ國內ノ行詰  
リニ汪ノ力ノ足ラサル爲事變ノ解決ニ焦セリ愈音ヲ擧ケ  
來レリト早吞込シテ却テ日本ヲ攪弄スルニ至ルヘシ  
二、從テ對重慶工作ニ力ヲ注クニハ先ツ日本側ヨリ正式ノ承  
認ヲ得ルコト先決問題ニシテ一度新政府ノ承認ヲ見ハ支

那側モ日本側モ大膽ニ重慶工作ニ乗出スコトヲ得ル次第ナリ

三、日本側ニ於テハ政府承認ノ形式ヲ條約締結ニ依ラントスルモノノ如ク察セラルル處萬一條約締結交渉力長引クニ於テハ承認問題モ之ニ伴レテ遅レ何時迄モ重慶工作ニ乗出スコト出來サル状態ニ陥リ其ノ他各方面ヨリ觀テ面白カラサル事態ヲ惹起スル虞アリ此ノ點政府部内ノモノ一  
同憂慮シ居ル次第ナリ

四、重慶側最近ノ状態ハ相當動搖シ和平ノ空氣昂マリツツアル模様ナルモ汪主席初メ幹部一同ハ蔣介石ノミハ全ク望ミ無キモノト諦メ居レリ自分ノ見ル所ヲ以テスルモ蔣カ和平ニ乗り出ス機會ハ既ニ過キ去レリト言ハサルヘカラス

上海、北京、天津、青島、厦門、廣東、漢口、香港へ轉電セリ

572

昭和15年6月18日 興亜院會議決定

「新中央政府ノ動向ト之カ指導ニ關スル件」

昭和十五年六月十八日  
興亞院會議決定

新中央政府ノ動向ト之カ指導ニ關スル件

總裁

(宛)阿部大使

(通報)各連絡部長官及青島出張所長

(電文)

貴大使ヨリノ情報、訪日新政府要人ノ言動、其ノ他ヲ綜合スルニ新政府ハ現下其ノ活動ノ重點ヲ直接重慶政權ノ切り崩シニ置クコト微弱ニシテ却ツテ日支國交ノ調整就中帝國ノ行動制限乃至要求緩和ニヨル政治力ノ向上ニ指向シツツアルヤニ思考セラルル節アリ即チ『  
一、陳公博ハ在京中帝國ノ獨自的重慶工作ノ差シ控ヘ竝ニ北支蒙疆地區ノ政治的特殊性ノ緩和ヲ要望シ  
二、豫メ日本側ニ充分ナル連絡ヲ爲サスシテ  
(イ)周佛海ハ北支關餘ノ取扱ノ取極メヲ王克敏トノ間ニ交渉決定シ  
(ロ)中央銀行設立ニ關スル諸準備ヲ單獨ニテ進メ特ニ米國トノ間ニ深入リセル話合ヒヲ進メ

(ハ) 既成政府ノ辨シタル事項ヲ逐次否定スルニアラサルヤ  
ヲ印象セシムル如キ法令ヲ發布シ

三、楮民誼ハ東亞教育大會及體育大會ニ關シ北支就中蒙疆地區ノ特殊性ヲ輕視シテ中央集權的現象具現ニ焦リアルカ  
如キ言動ヲナシ

四、周佛海ハ對重慶工作ニ關連シ帝國ノ條約締結ニヨル新政府承認以外ノ急速承認ノ要望ヲ示唆スルト共ニ條約締結ニヨリ承認ヲ行ハントスル場合交渉延引又ハ暗礁乘リ上ケノ責任ヲ回避スルカ如キ言辭ヲナシアルカ如キ是ナリ

右ハ新政府ノ人的素質及其ノ能力ヨリスル必然的現象ナルヘキモ他方亦彼等カ現ニ大規模ノ戰爭繼續中ニシテ事變ノ解決カ一ツニ帝國國軍ノ戰果ニ依存スルコトヲ明識セサルノ結果ナリト察セラルルヲ以テ此點ニ關シ篤ト御指導アリ  
敍上ノ如キ支那側ノ動キヲ未然ニ封スルコトニ關シ重ねテ御配慮相煩度

編注 本文書は、昭和十五年六月十八日夜、米内興亜院総裁

より阿部中国派遣大使に宛てて發電された。

573

昭和15年6月19日

有田外務大臣より  
在英國重光大使、在独国米栖大使他宛  
(電報)

南京政府との条約交渉開始に関する情勢説明

本省 6月19日發

合第一三一〇號(極秘、館長符號扱)

往電合第五九四號ニ關シ

支那新中央政府ニ關スル最近ノ情勢大要左ノ通、御參考迄  
一、我方カ速ニ新政府ヲ承認シ其ノ方法トシテ條約締結ノ形式ニ依ラントスル方針竝ニ各般ノ方面ニ亘リ同政府ヲ助成シ事變解決ニ資セントスル方針ニハ何等變更ナキモ關係廳間ノ條約案ノ審議ニ當リ一部分面ニ於テハ新政府ト條約ヲ締結スルモ到底事變解決ニ寄與スルコトナシトノ見透シノ下ニ長期戰ニ對スル國內体制強化ノ爲寧口條約中ニ成ヘク多分ニ戰果ヲ盛り込マントノ底意強ク之カ爲條約ハ成ヘク合理的ノモノトシ之ニ依リ支那民心ノ把握重慶ノ崩壞及第三國外交ニ資セントスル主張ハ押サレ勝ニシテ右審議手間取りタルカ大体ニ於テ客年末成立セル日支國交調整ニ關スル協議書類ノ範圍ヲ甚タシク逸脱ス

ルコトナクシテ一應ノ成案ヲ得之ニ依リ阿部大使ヲシテ  
條約交渉ヲ開始セシムル段取トナレリ

二、右交渉ノ結果成立スヘキ條約カ戰果主義者ノ主張スルカ  
如キモノトナル場合ニ於テハ條約ノ締結及新政府ノ承認  
カ事變解決ニ資スルコト少カルヘキコト前述ノ如クナル  
ヲ以テ今後ノ交渉ハ右含ミノ下ニ行ハルヘキコト當然ナ  
ルカ他方新政府ニ於テ善政ヲ布クコトニ依リ尠クトモ南  
京上海方面ニ於ケル人心ノ把握ヲナスコトカ不可能ナル  
場合ニハ我方ノ新政府ニ對スル支持ハ跋行的トナリ從テ  
單ニ日本及一二ノ國カ承認ヲ與フルノミニテハ結局同政  
府ヲ中心トシ重慶ノ弱體化ヲ計リ以テ事變ヲ處理セムト  
スル我方既定方針ノ迅速ナル完遂ハ困難トナルヘキニ付  
我方ノ使命ハ此ノ點ニ於テモ極メテ重大ナルモノアリト  
考ヘ居レリ

三、重慶ニ於テハ英佛ノ頼リ難キヲ自覺シ來ルト共ニ米國ニ  
對シテモ次第二期待薄ノ感ヲ懷キツツアルカ如ク又蘇聯  
ニ對シテハ從來トモ物質的援助少ナキニ拘ラス共產黨及  
軍ノ勢力次第ニ擡頭シ來リ國共間ノ摩擦多キニ鑑ミ最近  
ノ傾向トシテ寧ろ獨逸ニ頼リ時局ノ解決ヲ圖リ引續キ共

産黨ヲ押ヘントノ氣風モ見エ來レルカ如キモ日本ニ對シ  
テハ飽迄抗戰ヲ主張シ居リ（一部野心家ニ於テ密ニ日本  
側トノ直接交渉ヲ企圖シ居ル者ナキニ非サルモ）對日和  
平ヲ口ニスル者愈々少クナレリトノ報道モアリ抗日陣營  
ニ亀裂ヲ認メ得サルモ重慶政權下ノ生活ハ相當困窮シ又  
軍需資材ノ供給モ十分ナラス何トカシテ時局ヲ速ニ終結  
センコトヲ望ミ而モ支那ノ面子ヲ失ハサランコトヲ惧レ  
歐洲大戰ニ藉口シ日支相争フノ愚ナルコトヲ口實トシ又  
憲政實施ヲ宣傳ノ主眼トシ民衆ノ注意ヲ事變ヨリ轉換セ  
ントスル傾向モナキニ非ス親獨氣分從來ヨリ強キ支那ノ  
コトナレハ今後歐洲戰局ノ發展ニツレ獨伊樞軸ニ頼ラン  
トスル氣風ハ強マルモノト判斷セラル

本電宛先 英、獨、米、香港、北京（大）、上海、天津、廣  
東、南京（總）

獨ヨリ蘇、伊、土へ轉電アリタシ

574

昭和15年7月26日 興亜院會議決定

「大使ニ對スル訓令案(甲)」

大使ニ對スル訓令案(甲)

昭和十五年七月二十六日

興亞院會議決定

一、六月十五日附往信機密第三四號訓令中、「ニ記載セラレタル如ク政府ハ「條約體系概要」ニ掲ゲラレタル諸取極案中右訓令ニ附屬セラレザリシモノニ付其後審議ヲ續ケ來リシ處七月二十六日興亞院會議ニ於テ左記各要綱ヲ決定セラレタルヲ以テ夫々別紙第一乃至第五トシテ茲ニ送付スルニ付右ニ基キ新政府ト交渉セラレ度シ

一、附屬協定要綱

一、蒙疆ノ自治ニ關スル交換公文要綱

二、華北政務委員會ニ關スル交換公文要綱

三、上海ニ於ケル日支協力ニ關スル交換公文要綱

四、海南島及附近ノ諸島嶼竝ニ厦門特別市ニ於ケル日支協

力事項ノ處理ニ關スル交換公文要綱

尙新政府承認ニ當リ締結スベキ取極ノ範圍ハ我方トシテ差當リ以上ヲ以テ打切りトナスノ意向ニシテ「條約體系概要」ハ此點修正ヲ見タルモノト諒解セラレ度シ

別紙第一

附屬協定(祕密)要綱

第一條

日支兩國政府ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スルガ如キ一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラザルベキコトヲ約ス

第二條

中華民國政府ハ日本國政府トノ間ニ協議決定セラルル所ニ依リ日支協力事項ニ關シ日本人顧問及職員ヲ招聘シ又ハ採用スベキコトヲ約ス

第三條

中華民國政府ハ中華民國ノ領域内ニ於ケル日本國軍ノ駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港灣及水路ニ付別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ日本國ガ軍事上必要トスル事項ニ關シ其ノ要求ニ應ズベキコトヲ約ス

但シ日本ハ平時ニ於テハ支那ノ行政權及管理權ヲ尊重スルモノトス

第四條

中華民國政府ハ中華民國ノ領域内ニ駐屯スル日本國軍ニ對シ駐屯ニ必要ナル諸般ノ便宜ヲ供與スベキコトヲ約ス

註

- 一、第三條ニ關シ、日本ノ航空及水路ニ對スル軍事上ノ要求權ハ當然氣象觀測ニ關スル要求權ヲ含ムモノナルコトヲ議事録ニ留ムルモノトス
- 二、第四條中「駐屯ニ必要ナル諸般ノ便宜ヲ供與ス」トハ例ヘバ兵營構築、演習、移動、給養、軍需整備及港灣施設等ニ關シ資材、勞力及土地ニ關スル利便ヲ供與スルコトヲモ含ムモノトス

別紙第二

蒙疆ノ自治ニ關スル祕密交換公文要綱

- (支那側ヨリ通告シ日本側之ヲ諒承スルノ形式トス)
- 一、蒙疆(内長城線以北ノ地域トス)ハ國防上及經濟上日滿支三國強度結合地帶タル特殊性ニ鑑ミ現状ニ基キ廣汎ナル自治權ヲ認メタル高度ノ防共自治區域トス
  - 二、中華民國政府ハ内蒙自治法ニ依リ蒙疆自治ノ權限ヲ規定スベク同法ノ制定ニ付テハ豫メ日本國政府ト協議スベシ

註

内蒙自治法ノ制定後將來ニ於ケル改正ニ關シテモ日本國政府ト協議スベキ旨議事録ニ留メ置クモノトス

別紙第三

華北政務委員會ニ關スル祕密交換公文要綱

- (支那側ヨリ通告シ日本側之ヲ諒承スルノ形式トス)
- 一、中華民國政府ハ中華民國臨時政府ノ解消ト共ニ北支ニ華北政務委員會ヲ設置シ同委員會ヲシテ中華民國臨時政府ノ辨ジタル政務ヲ其ノ儘繼承處理セシメ居ル處本日調印セラレタル「日支間ノ新國交修復ニ關スル條約」及附屬日支間諸取極ノ規定及精神ニ基キ内長城線以南ノ河北省山西省及山東省ノ地域ガ國防上及經濟上日支ノ緊密ナル合作地帶タルニ鑑ミ同地域ト日滿兩國トノ間ニ於ケル協力事項ニ關シテハ將來ニ亘リ同委員會ヲシテ之ヲ地方的ニ處理セシムル方針ナリ
  - 二、日支間ノ全面的平和克服後北支ニ於ケル日支協力事項中華北政務委員會ガ地方的ニ處理シ得ル事項ハ次ノ通トシ
  - 三、中華民國政府ハ日本國政府トノ協議ニ基ク法令ニ依リ之

ヲ規定ス

甲、防共及治安協力ニ關スル事項

(一) 日本軍駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理

(二) 日支防共、治安協力ニ關スル所要事項ノ處理

(三) 其ノ他日支軍事協力ニ關スル處理

但シ國防軍ニ關スル處理ハ中華民國政府ノ北支ニ特設

スル軍事處理機關ニ依ルモノトス又北支政務委員會<sup>(華北)</sup>ノ

保有スル綏靖部隊ノ兵力ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據

ルモノトス

乙、北支ニ於ケル經濟提携就中國防上必要ナル埋藏資源

ノ開發利用及日滿蒙疆及北支間ノ物資需給ニ關スル事

項

(一) 日本側ニ對シ資源就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開

發利用ニ關スル特別ノ便宜供與ニ關スル事項

(二) 日滿蒙疆及北支間物資需給ノ便宜且合理化ニ關スル

處理

(三) 日滿蒙疆及北支間ノ通貨及爲替ニ就テノ協力ニ關ス

ル處理

(四) 鐵道、航空、通信、主要海運ニ就テノ協力ニ關スル

處理

丙、日本人顧問及職員ノ招聘任用ニ關スル事項

丁、日滿トノ純粹ナル地方的處理ニ關スル交渉

三、華北政務委員會ハ中央政府ノ決定セル範圍内ニ於テ蒙疆

トノ地方的連絡ニ關スル處理ヲ行フコトヲ得

註

一、三、ノ甲、(一)乃至(三)防共及治安協力事項ノ定義(協議

書類)「祕密諒解事項(第八)ノ一」ヲ別ニ議事録ニ留

ムルモノトス

二、華北政務委員會ト中央政府トノ關係ニ關スル「協議

書類」「祕密諒解事項(第一)ノ第一、二記載セラレタル

事項ニシテ本交換公文要綱ニ掲記セザル事項ハ交渉

ニ當リ必要アラバ之ヲ議事録ニ留ムルモノトス

別紙第四

上海ニ於ケル日支協力ニ關スル機密交換公文要綱

(支那側ヨリ通告シ日本側之ヲ諒承スルノ形式トス)

中華民國政府ハ東亞ニ於ケル新秩序ノ建設上上海ノ占ムル

重要ナル地位ニ鑑ミ日本國政府トノ協力ニ依リ新上海ヲ建

設スベク左記各項ニ關シ別ニ協議決定セララル所ニ從ヒ提携ヲ具現セントス

一、日支兩國ハ上海ニ於テ貿易、金融、産業及交通等ニ關シ緊密ニ協力スルコト

二、日支兩國政府ハ上海ニ於テ思想、宣傳、防疫、警察ニ關シ緊密ニ協力スルコト

三、上海特別市ノ建設ニ關シ中華民國政府ハ同特別市ノ財源ニ付充分考慮シ建設ニ支障ナカラシムベク日本國政府ハ右建設ニ技術的協力ヲ爲スコト

四、上海特別市ノ對外交渉ニ關シテハ絶ヘズ日支間ニ緊密ナル連絡ヲ保チ協力スルコト

五、日本軍駐屯ニ伴フ事項中上海ニ於ケル地方的處理ニ付テハ上海特別市政府ヲシテ之ニ當ラシムルコト

別紙第五

海南島及附近ノ諸島嶼竝ニ廈門特別市ニ於ケル日支

協力事項ノ處理ニ關スル祕密交換公文要綱

(支那側ヨリ通告シ日本側之ヲ諒承スルノ形式トス)

中華民國政府ハ本日調印セラレタル「日支間ノ新國交修復

ニ關スル條約」及附屬日支間諸取極ニ於テ日支兩國ハ南支沿岸特定ノ島嶼竝ニ之ニ關聯スル地點ニ於テ軍事上特ニ緊密ニ協力スヘク且海南島及附近諸島嶼ニ於テ經濟上特ニ緊密ナル提携ヲ行フベキコト規定セラレタルニ鑑ミ左ノ如ク處置ス

一、海南島及附近ノ諸島嶼ヲ省域トスル一省ヲ設置ス

二、廈門島及其ノ附近ヲ市域トスル廈門特別市ヲ設置ス

三、第一項ノ省政府及廈門特別市政府ニ於テ日支軍事協力及經濟提携ニ關スル事項ニ付地方的ニ處理シ得ル如ク措置ス

註

一、軍事協力ニ關スル事項及經濟提携ニ關スル事項ノ說明〔協議書類〕祕密諒解事項(第八)ノ六、及五ノ二、ハ別ニ日支間ニ議事録ニ留メ置クモノトス

二、海南島及附近ノ諸島嶼トハ次ノ諸島嶼ヲ意味スルモノ

トス

海南島、西沙島、瀘州島(蛇洋洲ヲ含ム)南朋島(大護山、二護山、黃程山ヲ含ム)上川島、下川島(芥洲、雷珠ヲ含ム)、牛角山島、三灶島

三、厦門特別市ノ市域ハ我方トシテ概ネ左ノ通豫定ス

厦門島、鼓浪嶼、小金門島、金門島、浯嶼、崎嶼、坦嶼、海門島、及官潯南西方三七五高地ヨリ山梁ヲ傳ハ  
 リ泰安宮、龍溪嶺、天柱岩山ヲ經テ北溪江東橋北方ニ  
 到ル線以南迂河以北ノ地域

編注 本訓令案の概要は、昭和十五年七月二十八日着松岡外務大臣より阿部中国派遣大使宛電報第一六七号によつて阿部大使に伝えられた。

~~~~~

575 昭和15年7月26日 興亜院會議決定

「大使ニ對スル訓令案(乙)」

大使ニ對スル訓令案(乙)

昭和十五年七月二十六日  
 興 亞 院 會 議 決 定

條約ニ關スル貴方ノ新政府ニ對スル交渉ノ狀況ニ關シ最近  
 貴地ニ出張セル關係各廳係官ヨリ報告ニ接シタル處左記ノ  
 點ハ特ニ重要ナリト認メラルルヲ以テ處置相成度

記

一、揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼竝ニ之ニ關  
 聯スル地點ニ我方艦船部隊ヲ駐留スルノ件ニ關シ政府ハ  
 元來右ヲ以テ永久的ニシテ且第三國ニ對スル日支軍事協  
 力ヲモ含ムモノトシテ先般送付セル「日支間ノ新國交修  
 復ニ關スル條約要綱」第二條ノ規定ヲ立案決定シタル次  
 第ナルヲ以テ此點支那側トノ交渉ニ當リ明確ニナシ置カ  
 レ度シ、而シテ今日迄ノ交渉經過ヲ甚ダシク紛亂スルコ  
 トナク右目的ヲ達成センガ爲ニハ貴方提案「基本條約要  
 綱案」第五條ヲ次ノ如ク修正スルコト適當ナルベシト認  
 ム

「日本國ハ日支兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ  
 所要ノ日本國艦船部隊ヲ揚子江沿岸ニ於ケル特定地點及  
 華南沿岸ニ於ケル特定島嶼竝ニ之ニ關聯スル地點ニ駐留  
 セシメ日支兩國ハ軍事上緊密ニ協力スベシ」  
 二、基本條約ノ前文ハ東亞新秩序建設ノ共同目標ヲ明示セン  
 トスルモノナルガ「協議書類」ノ「日支新關係調整ニ關  
 スル基本原則」ハ右内容ノ骨子ヲ要約セルモノナルヲ以  
 テ右前文中ニ日支兩國ガ

(一) 互恵ヲ基調トスル一般提携

(二) 北支蒙疆ニ於ケル國防並經濟上ノ日支合作就中蒙疆地方ニ於ケル防共特殊地域ノ設定

(三) 揚子江下流地域ニ於ケル經濟合作

(四) 南支沿岸特定島嶼ニ於ケル軍事提携

ノ四項目ヲ具現スルノ意向アル旨ヲ補備修文スルコト前項記載ノ點トモ關聯シ適當ナルベシト認ム、此點ニ付テハ交渉ノ適當ナル時機ニ於テ適宜御措置相成度シ

編注 本訓令案の概要は、昭和十五年七月二十八日着松岡外務大臣より阿部中国派遣大使宛電報第一六七号によつて阿部大使に伝えられた。

~~~~~

576 昭和15年8月(6)日 松岡外務大臣より阿部中国派遣大使宛(電報)

日滿華共同宣言に関する予備交渉への参加を

満州国側希望について

付記 昭和十五年八月七日着松岡外務大臣より阿部

中国派遣大使宛電報第一七九号

右交渉への満州国代表の参加は認められないとのわが方見解について

本省 発

南京 8月6日後11時着

第一八〇號(極秘、館長符號扱)

滿大來第三一八號

外務局ノ内報ニ依レハ滿側ニ於テハ滿支國交開始ニ關シ左ノ通りノ意嚮ナル趣ニ關シ當方ニ於テ心得フヘキ點アラハ御回電アリタシ

一、日滿支共同宣言ノ署名ハ滿洲國ニ執リ重大盛事ナルニ鑑ミ全權委員ニハ總理級ノ人物ヲ選ヒ多數ノ隨員ヲ隨行セシムル筈ノ處對内對外的の面上上調印ニ先立チ豫備交渉ニ是非共參加シ度キ希望ナリ但シ右豫備交渉ノ參加ニハ在上海通商代表及在南京伊藤辦事處長ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

二、滿支國交樹立後ハ大使ヲ交換シタク右大使ノ交換及交換ノ時期ニ付テハ前記共同宣言署名ノ際滿側全權委員ヲシテ支那側ト協議了解ヲ遂ケシムルモノトス領事館開設ニ關スル具體的問題ハ大使館開設後大使ヲシテ處理セシム

尙蒙疆ニ關シテハ支那中央政府トノ交渉ニ於テハ之ニ觸レサルモノトス

(付記)

本省 発

南京 8月7日後4時着

第一七九號(極秘、館長符號扱)

滿大宛第三八八號

貴電第三一八號ニ關シ

一、御申越ノ趣了承但シ共同宣言案ニ關スル交渉未タ開始セラレ居ラサルニ付豫備交渉ノ終結ヲ俟チ調印其ノ他ノコトハ先方トモ聯絡ノ上措置スルコトト致シ度シ

二、右豫備交渉ニ滿側代表参加ノ件ニ關シテハ日支交渉ノ性質上支那側ノ滿洲國承認ノ問題ヲ本件共同宣言ノ形式ニ依リ片付ケントスルモノナルヲ以テ日支間ノ交渉ナル建前ヨリスルモ交渉其ノモノニハ滿側ヲ参加セシムルコトナク右宣言案ハ滿側ノ同意ヲ得ヘキコトヲ條件ト爲シ置キ豫備交渉終了後直ニ我方ヨリ正式ニ滿側ノ同意ヲ求ムル形式ニ依ルヲ適當トスル意見ナリ

冒頭貴電ト共ニ南京大使へ轉電セリ

577 昭和15年9月21日 松岡外務大臣より  
阿部中国派遣大使宛

現地にてイニシアルされた条約案に対するわが方政府方針が興亜院會議にて決定につき同方針貫徹方訓令

付記 昭和十五年九月二十日

右會議議事概要

亞一機密第一一八號

昭和十五年九月二十一日

外務大臣 松岡 洋右

在南京

特命全權大使 阿部 信行殿

日支新關係調整條約ノ締結交渉ニ關スル件

八月三十一日日華兩國交渉委員間ニ「イニシアル」ヲ了シタル日華滿共同宣言案竝ニ日華間基本條約案及附屬文書案ニ關シ九月二十日興亞院會議ニ於テ左記帝國政府方針決定相成タルニ付テハ新政府ト更ニ交渉セラレ帝國政府方針ノ

貫徹ヲ期セラレ度シ

記

一、日華滿共同宣言ノ冒頭ノ各政府名及各條項ノ國名、年號  
月日及各全權ノ署名ノ順序ハ日本語正文ニ付テハ日滿支  
ノ順ニ依ルコト

二、附屬議定書ニ關スル了解事項中第四、ヲ別紙第一ノ如ク  
修正スルコト

三、附屬祕密協定第二條及第三條ハ公表ノ場合ヲ考慮シ別個  
ノ祕密協定トスルコト、尙其ノ際右二個條カ基本協定ノ  
一部ヲナスモノナル旨ノ趣旨及祕密協定現地案第五條第  
二項公表ニ關スル規定ヲ之ニ加フルコト(別紙第二)

四、議事錄拔萃ノ第四、「日本國軍隊ノ撤去完了期」ヲ別紙  
第三ノ如ク修正シ且本議事錄ハ全般的平和克復ノ時又ハ  
其後二年以内ニ之ヲ公表スルコトヲ日支間ニ約束シ置ク  
コト

(別紙第一)

第四、中華民國政府ハ對外貿易ニ關シ統制ヲ必要トスル場  
合ハ自主的ニ之ヲ行フモノトス但シ事變繼續中ハ日本側ト

密ニ協議シ尙條約第六條ニ掲ケラレタル日華經濟提携ノ原  
則ト牴觸スルコトヲ得ス

(別紙第二)

祕密協定案

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ヲ署名スルニ  
當リ本條約ト一體ヲ爲スヘキモノトシテ兩國全權委員ハ左  
ノ通協定セリ

第一條

(附屬祕密協定現地妥結案第二條)

第二條

(同案第三條但未行ヲ削除ス)

第三條

兩國政府ハ兩國間ノ全般的平和克復ノ際又ハ其ノ以前ノ適  
當ノ時期ニ於テ協議ノ上本協定ヲ公表スルモノトス

第四條

本協定ハ條約ト同時ニ實施セラルヘシ  
右證據トシテ兩國全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ  
昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日 二於

テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

(別紙第三)

「本日ノ正式會議ニ於テ日本側交渉委員ハ附屬議定書第三條ノ規定ニ關聯シ左ノ通陳述セリ

附屬議定書第三條ノ趣旨ハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了セル後ニ於ケル中華民國ノ治安確立ヲ日本國軍撤去完了ノ前提條件トナスモノニシテ其確立ヲ見ル迄ハ約定以外ノ軍隊ノ全部ニ付撤去ヲ完了シ得サルモノナルモ如何ニ遅ルルモ治安確立ノ時期ヨリ二年以内ニハ之ヲ完了スルノ意ナリ

右ニ關シ中國側交渉委員ハ左ノ通陳述セリ

日本側交渉委員陳述中ノ「治安確立」トハ一般治安ノ確立換言スレハ戰爭狀態終了後ノ社會秩序カ能ク善隣友好的の和平狀態ニ恢復スルニ至レルヲ謂フ

更ニ右ニ關シ日本側交渉委員ハ左ノ通陳述セリ

日本側ハ治安不安定ニ名ヲ藉リテ故意ニ撤兵ヲ長引カシメントスル意志ヲ有スルモノニ非ス

最後ニ兩國交渉委員共ニ相手方ノ陳述ヲ諒承セル旨陳述

セリ」

(付記)

九月二十日興亞院會議々事概要

○政務部長ヨリ「交渉訓令内容案」ニ付説明セル後次ノ如キ趣旨ノ發言アリ

○外務大臣 「支那ヲ相手ニスル仕事ハ簡單ナルガヨシ、故ニ今回ノ妥結案ハ其儘呑ムコトトスルコト可然」

○總務長官 「問題ハ戰爭中ニヤル條約ノ事ナレバ苟モ軍ノ統帥ニ支障ヲ生スルカ如キ規定アリテハ不可ナリ、故ニ主トシテ統帥部ノ希望ニヨリ修正セントスルモノニシ

テ此希望ハ尊重スルコトトシタシ」

○外務大臣 「ソレナラバ可ナルモ修正要求ニ依リ新政府ヲ潰ス様ナコトアリテハ不可ナリ」

○政務部長 「今回ノ修正ニ依リ直チニ新政府ヲ潰スカ如キコトヲ考フル要ナシ、斯ル大方針ハ今後別個ニ政治的ナル根本的考慮ヨリ決定セラルルベシ今回ノ案ハ兎モ角大使ニ之ヲ訓令シ交渉セシメントスルダケノモノナリ。」

○大藏大臣 「議定書附屬ノ諒解事項ニ關シテハ之ヲ約定

シ公表スルコトニヨリ不安ヲ生スベシトノ説アルモ自分ハ斯ク考ヘズ、寧ロナルベク速カニ明確ナル限界ヲ一般ニ知ラス方ヨシト考ヘ居レリ」

○政務部長 「諒解事項ニ記サレタル諸點ハ既ニ「内約」ノ締結セラレタル頃ヨリ各方面ニ不安ナキ様手配シタルコトモアリ不必要ニ動搖ヲ來サザル様善處スルコトト致度シ」

○外務大臣 「「防共」ナル字句ハ對蘇國交調整ノ障害トナルヲ以テ此條約ヨリ取り去ルコトトシタシ」

○政務部長 「其ノ點ハ自分等トシテモ考慮シタル點ナリ、然レドモ之ハ慎重ヲ要スル點ナリ。防共ノ字句ハ 御前會議決定ノ中ニアリ又所謂「近衛三原則」ノ一ニモ防共アリ、之ヨリ數次ノ内閣ニ涉リ之ヲ堅持シ、南京政府モ反共ヲ以テ政策ノ中心トナシタリ。蒙疆北支駐兵ノ根據モ防共ニシテ又北支蒙疆ニ於ケル軍隊ハ防共ヲ以テ精神トナシ居レリ。之等ノ點ヲ考慮スルニ防共ノ字句ヲ修正スルコトハ容易ナラサル問題ト考フ」

○外務大臣 「ソノ通りナリ。自分モ蘇聯トハ國交斷絶ヲヤル方ヨシト思フ位ナリ。然レトモ現在ハ一時ノ權道ト

シテ蘇聯ト國交調整ヲ行フ要アリト考フルモノナリ」

○大藏大臣 「ナカナカ困難ナルベシ」

○陸軍大臣 「「防共」ノ規定ヲ存置スル必要ト日蘇國交調整上ノ都合ヨリ之ヲ修正スルヲ可トスル事情トハ慎重ニ考究ノ要アリ。又修正ヲナストセバ急速ニ決心シ處置スル要アリ」

○政務部長 「修正スルコトハ思想戰ノ立場ヨリ云ヘバ一歩退却ニシテ國內ノ思想部面及北支蒙疆ノ治安等ニ如何ニ響クヤヲ考フル要アリ」

○外務大臣 「防共ノ方針ハ絕對ニ緩メラレズ、日蘇國交ヲ調整セバ更ニ一層防共ヲ活潑ニヤル要アリ」

○總務長官 「日蘇國交調整ハ國內新體制等ニヨリ赤色系統ノ人々ガ表面ニ出テ活動スルノ傾向アリ、注意ヲ要ス」

○海軍大臣 「防共ノ規定ハ單簡ニハ抹殺シ得サルベシ」

○政務部長 「此問題ニ處スル三ノ方法アリ、一ハ日支間ノ條文ハ此ノ儘トシテ蘇聯ノ之ヨリ抱ク感覺ヲ是正スルノ外交手段ヲトルコトニハ「共同防共」ヲ「共同防衛」ト改メテ祕密協定ニヨリ支那トノ間ニ防共ヲ約束スルコ

ト三八「防共」ヲ抹殺スル場合ニ我方ガ思想戰ニ敗退シタル爲スル處置ヲトリタル譯ニアラザルコトヲ明カニスル様赤色退治ニ一層力ヲ注グコトナリ」

○陸軍大臣 「出來レバ防共ノ規定ハ此ノ儘デ行キタシ。

外務大臣ハ此ノ規定アルガ爲ニ日蘇國交調整ニ非常ナル障害ヲナスモノト考フルヤ」

○外務大臣 「斯ル規定ガ無キ方遣リ易シトイフダケノ事ナリ。自分ガ削除ヲ可トスル意見ヲ述ヘタルハ事務當局ノ意見ニシテ事務的ニ見レバ斯ル主張トナル譯ナリ。然レドモ此ノ規定アリトテ大シタコトハナカルベシ」

○陸軍大臣 「然ラバ此ノ儘トシタシ」

○海軍大臣 「同感ナリ」

○外務大臣 「此ノ儘進メル方良シ、ソノ方ガ却ツテ日蘇國交調整モヤリヨシ、明確ニスル方ガ可ナリ」

○陸軍大臣 「此ノ條約ハ此ノ案ニ依リ支那側ト交渉シ、ソノ結果纏リタル上ハ何等ノ策ヲ施スコトナク樞密院ニ送ルコトトスルコト可然、樞密院ノ審議ハ何時頃ニナル見込ナリヤ」

○政務部長 「交渉ハ今月一杯ニテ終了シ來月上旬ニハ樞

密院ニテ審議ノ運ビトナルヘシ」

○陸軍大臣 「急イデ取運ブコトト致度シ」

○總理大臣 「ソノ様ニ急ク必要モナカルベシ」

○陸軍大臣 「ソレハ締結ニ先立ち獨ニ對シ手ヲ打チ又蘇聯ニ手ヲ打チ其ノ結果ヲ見タル後ニ本條約ニ關スル方針ヲ最後のニ決定セントノ御意志ナリヤ」

○總理大臣 「大體ソノ通りナリ」

○外務大臣 「本條約ハ本條約トシテ急ク方ガヨシ、ソレガ重慶ニ對スル壓力トモナリ對蘇調整ノ手ニモナル譯ナリ」

○政務部長 「特ニ急ガズ又遅クセズ普通ノ速度ニテヤルコトト致度シ。尙防共ノ問題ハ蘇聯トノ國交調整ノ話ヲ進メドウシテモ之ガ邪魔ナラバ之ハ獨トノ關係ヲモ考ヘ修正スルコトトシタシ。故ニ樞密院ニ懸ル迄餘裕ヲトツテオク様才願ヒ致ス方良ロシカルベシ、ソノ時迄ニ如何ナル情勢ニ如何ナル手アリヤヲ事務當局ニ於テモ研究シ置クコトトスベシ」

(終)

昭和15年9月28日

阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

## 南京政府の最近の実情につき報告

付記 昭和十五年十月十日、作成者不明

南京政府の実情に関する梅思平および周仏海  
の内話

南京 9月28日後発

本省 9月28日夜着

## 第三九五號

特第六九號(興亞院經由)

國民政府成立以來其ノ施政ノ見ルヘキモノナシトテ本邦ニ於テ種種ノ批判アル模様ナル處政府主腦部ハ我カ軍占領地域内ニ於テハ日本側ノ信賴ト協力ナクシテハ手モ足モ出ヌコトハ充分承知シ居リ我カ支持ヲ得テ中央政府タルノ面目ヲ立テツツ善政ヲ布キ民心ヲ引付ケ其ノ背景ヲ以テ重慶ニ働キカケルコトヲ所期シ此ノ意味ニ於テ今次條約ノ調印並ニ承認ノ事實ニ依リ日本側ノ絶對的支持ヲ立證シ得ルモノトシテ之ニ期待ヲ繫キ部下ノ焦慮ヲ抑ヘ居ル次第ニアリ過日陳公博ハ本使ニ對シ國民政府ノ強化及部内ノ結束ニ苦心

シ居ル内情ヲ述ヘ中央及地方ニ於ケル日本軍官ノ援助ヲ懇請スル處アリ又最近周佛海ハ二千六百年式典參列者其ノ他各種代表者派遣手續等ニ關聯シ隨員ニ對シ國民政府カ事實上維新政府同様若クハ以下ノ取扱ヲ受クル様ナラハ寧ロ日本側ヨリ此ノ點ニ關シ明白ナル態度ノ表示ヲ求メ之ニ基キ去就ヲ決スヘシトスル當面内ノ意見相當強ク荏苒之ヲ放置セハ憂慮スヘキ事態ヲ惹起スル懼ナシトセスト内話セル次第モアリ當方トシテハ彼等ニ對シ現實ノ事態ニ即シ時局解決上我方ト協力スル態度ヲ事實ニ於テ示唆スルコトノ必要ヲ説クト共ニ條約問題ノ前途ニ危懼ヲ抱カシメサル様並ニ軍事上差支ヘナキ限り民生撫宣其ノ他人心把握上必要ナル政府ノ政策ヲ實施シ得ル様關係方面ト協力シ努力シツツアリ最近ノ實情御參考迄

(付記)

國民政府ノ現状ニ關スル梅思平及周佛海ノ内話要旨

(昭和一五、一〇、一〇)

本件ニ關シ十月十日影佐少將來談ノ要旨

一、梅思平ノ談(十月三日)

現在ハ戦争ノ眞最中ナルヲ以テ日本軍側トシテモ國民政府ニ對シ種々注文ハアルヘキモ今少シク國民政府ヲシテ積極的ニ仕事ヲサセテ下サルナラハ國民政府トシテモ民心把握上非常ニ好都合ナリト存ス、自分モ汪兆銘ノ陣營ニ投シ國民政府ヲ樹立セル當時ハ中央政府トシテノ國民政府ニ關シ相當理想的ノ考ヲ有シタルモ還都以來今日迄ノ體驗ニ依レハ事變中ニ於テハ結局出來ヌモノハ出來ヌコトヲ會得セリ然ルニ鐵道部、農鑛部、交通部等ノ役人連中ニハ是等所管ノ事項ヲ單ナル經濟問題トシテ取扱フモノ多ク事變中ニ於テハ政治問題ト經濟問題トガ切離シ得サルコトヲ充分了解セス、從テ何モヤラシテ貫ヘヌ國民政府ノ現狀ニ於テ不眞面目ナモノハ益々「サボタージュ」氣分トナリ眞面目ナモノハ現狀ニ慊ラス進退ヲ考慮シテ居ルモノモ少カラサル處右ハ洵ニ無理カラヌコトト思ハル。自分ハ今日迄ノ經驗ニ依リ此ノ現狀ヲ打開スル爲ニハ經濟方面ニ何トカ新生面ヲ開キ日支ノ協力ニ依ル新シキ經濟利益ノ創生ヲ計ルコト必要ナリト考ヘ居レリ。是カ爲從來日支經濟協議會ノ設立ニハ反對シ來レルモ此ノ種日支間ノ經濟協議會ヲ設立スルコトハ現狀ヲ打開ス

ル上ノ息拔トシテ結構ナルヘシト考フルニ至レリ

國民政府ト軍トノ關係ヲ考察スルニ軍ハ軍票維持等ノ爲占領地域ニ於テドシドシ統制ヲ加ヘ國民政府ハ恰モ此ノ統制ヲ抑制スル機關ノ如キ外觀ヲ呈シ居ル處軍ノ經濟統制ノヤリ方ニハ旨味ノナキ點多々アリ經濟問題ハ權力ヲ以テ抑フルダケニテハ駄目ニテ軍ノ統制ニ當リテハ例ヘハ支那ノ古キ「ギルド」ノ制度等ヲ利用スル等支那民心ノ動向ニ注意ヲ拂フコト必要ナリ。今日ノ軍ノヤリ方ニテハ結局占領地外ノ民衆ノ方ガヨリ安居樂業ニシテ一般人心カ却テ蔣介石ヲ謳歌スルカ如キ現狀ニアリテハ重慶ノ切崩シハ不可能ナリ。就テハ此際軍、興亞院、國民政府等ノ代表ヨリ成ルーツノ連絡機關ヲ設置シ日支相互ニ自分ノ軍隊、自分ノ政府ト云フヤウナ氣持デ問題ヲ處理シ行クコト肝要ニシテ戰爭目的達成ノ爲ニハ支那ノ實情トノ調和ヲ圖ルコト適當ト考ヘ居レリ。

### 二、周佛海ノ談話

先般日本ノ憲兵伍長カ江蘇省政府建設廳長ヲ呼付ケ三國同盟成立ニ對スル所感ヲ求メ又省主席ニ對シテモ同様ノ所感ヲ訊問シタル由ナルカ日本側ヨリ見レハ省長、建設

廳長等ハ憲兵ノ伍長位カモ知レサルモ斯ノ如キヤリ方ハ  
余リニ酷過ギルト思ハル。地方ノ人民ハ軍ノヤリ方ニ對  
シ斯ノ如キ狀態方持續スルニ於テハ日支ノ提携ハ到底駄  
目ダトノ感想ヲ懷キ居リ國民政府トシテモ左様ノ感想ヲ  
懷カサルヲ得サル現狀ナリ。先般周作民ニ面會セル際同  
人ヨリ國民政府成立後日本側ノ國民政府ニ對スル態度ヲ  
話シテ吳レト頼マレタルガ、自分(周佛海)ハ洵ニ返答ニ  
窮シタル次第ニテ當初ハ立派ナ政府ヲ作ル積リニテ出馬  
シタルカスノ如キ現狀ニテハ中央政府モ存在ノ意義ナシ  
ト悲觀セサルヲ得ス。維新政府ノ當時ハ事ノ善惡ハ別ト  
シ日本側ハ兎ニモ角ニモ維新政府ニ仕事ヲヤラシテ吳レ  
タルガ今日ハ國民政府ノスル事爲ス事唯止メルバカリナ  
リ。自分ノ得居ル諸般ノ情報ヲ綜合スルニ重慶ニ於ケル  
抗日分子ハ支那全土ヲ失フモ自由ヲ得度シト豪語シ居リ、  
國民政府ノ現狀ニ於テハ斯ル連中ト理論鬭爭ヲナスモ到  
底勝目ナシ、自分ハ飯ヲ食フ爲ニ出馬セルモノニ非ス何  
トカシテ全面和平ヲ招來センカ爲ニ努力シ居ルモノニテ  
豫テヨリ全面和平成立ノ後ハ死ヲ覺悟シテ居ル次第ナル  
カ國民政府ノ現狀ヲ考フルトキハ夜モ眠ラレヌ氣持ナリ

579 昭和15年10月1日 阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 条約交渉妥結について

南京 10月1日後発  
本省 10月1日夜着

第四〇四號(至急、極祕、館長符號扱)

東亞局長へ日高參事官ヨリ

九月二十一日附第三次訓令接到後連日支那側トノ間ニ會議  
ヲ行ヒ銳意訓令ノ趣旨ノ貫徹ニ努メタル結果一日漸ク左ノ  
通り妥決ニ到達セリ

一、共同宣言案中ノ國名順序ノ件ハ先方應諾ス

二、諒解事項第四八八月三十一日「イニシアル」濟案文(以

下原案ト稱ス)ノ末尾「又事變繼續中ニ於テハ右統制ニ

付日本國側ト協議スヘキモノトス」ヲ附加ス

三、祕密協定第二條、第三條ヲ單行協定トスル件先方應諾但

シ表題ヲ區別ノ便宜ノ爲附屬祕密協約トシ(從テ第三條、

第四條及末文ノ「本協定」ヲ「本協約」トス)前文ヲ

「…署名スルニ當リ兩國全權委員ハ右條約ト一體ヲ爲ス

ヘキモノトシテ左ノ諸條ヲ協定セリ」トス

(欄外記入)

四、議事録第四ニ付テハ第一項ヲ「兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了セル後ニ於ケル中華民國ノ治安ノ確立ハ日本國軍隊撤去完了ノ前提條件ヲ爲スモノナルヲ以テ日本國軍隊ハ治安確立ヲ見ル迄ハ撤去ヲ完了シ得サルハ勿論ナルノミナラス治安確立スルヤ即時日本國軍隊(日本國中華民國間基本關係ニ對スル條約及兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ除ク)ノ全部ノ撤去ヲ完了セシメントスルモ事實上其ノ不可能ナルコト明白ナリ(以下原案通り)」トシ末項ヲ「最後ニ兩國交渉委員ハ互ニ相手方ノ陳述ヲ了承セル旨陳述シ且本議事録ハ全般的平和克服ノ時又ハ其ノ後二年以内ニ是ヲ公表スルコトニ意見一致セリ」トス

支那側ニ於テハ「イニシアル」ヲ了シタル案文ニ對シ日本側ヨリ再ヒ修正ヲ持込マレタルニ當惑シ殊ニ前記三及四、ノ修正ニ付テハ先方幹部會ニ於テモ激論アリタル模様ニテ修正ニ多大ノ難色アリタルモ百方説得ノ結果漸クニシテ前記ノ所迄漕キ付ケタル次第ニテ是以上ヲ望ムハ絕對ニ不可能ト認メラルルノミナラス右妥結案ニ依ル訓令内容ノ實質ハ略貫徹セルモノト思考セララルルニ付本妥結案ニ依リ中央御

意見ヲ纏メラルル様御努力方切望ニ堪エス本官近日上京ノ上詳シク御説明申上クヘキモ右不取敢

(欄外記入)

仍テ日本國軍隊ノ全部的撤去ハ實際問題トシテ治安確立ノ時期ヨリ多少遅クルルコトナルベキモ如何ニ遅クルルトモ二年以内ニハ之ノ完了スベシ



580 昭和15年10月2日

阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

条約交渉妥結に関する阿部大使の報告

南京 10月2日前発  
本省 10月2日前着

第四〇五號(至急、極秘、館長符號扱)

特第七三號

本使曩ニ六月十二日及七月二十六日興亞院會議決定ニ基ク訓令ヲ受ケ日支新國交調整ニ關スル條約締結ノ交渉ニ當リ去ル八月三十一日ヲ以テ妥結ニ到達シタル次第ハ當時報告ノ通りナリ然ル處今般九月二十一日附訓令ヲ以テ再應之カ

修正ヲ命セララルルニ至リタルハ本使ノ責任トシテ恐懼措ク  
能ハサル所ナリ

仍テ進退ヲモ相伺フヘキ處之カ爲益々條約ノ締結ヲ遲延セ  
シメ信ヲ中外ニ失フノ結果ヲ來スノ惧レ鮮カラサルヲ以テ  
敢テ交渉ヲ繼續シタル結果漸ク本一日ヲ以テ妥結ニ到達セ  
リ右ハ大體訓令ノ線ニ沿ヒ居ル處撤兵完了期ニ關スル部分  
ニ付先方ハ多大ノ難色ヲ示シ結局多少字句ヲ改メ漸ク之ヲ  
受諾セシメ得タル次第ニシテ右妥結案ニテモ訓令ノ實質ハ  
略々盡シ居ルモノト思考セラレ各般ノ情勢上之以上ヲ望ム  
コトハ絕對不可能ト認メラル右報告ス  
尙日高參事官ヲ派遣シテ詳細報告セシム

581 昭和15年11月9日 在南京日高大使館參事官より  
松本條約局長宛

### 日滿華共同宣言案の三國間協議に関する日高

#### 參事官報告

日滿華共同宣言案ニ關スル今次三國委員下協議ノ模様ニ關  
シテハ累次電報報告竝ニ「クーリエ」携行ノ議事録記載ノ  
通ナルカ右ニテ委細盡シ難キニ付補足旁々右下協議ノ内情

貴官御參考迄左ノ通

#### 一、日滿内協議

滿側ノ希望モアリ三國下協議開催ノ前日日滿間ノミニテ  
内協議ヲ行ヒタルカ(本官、韋長官モ出席)其ノ際本官ヨ  
リ滿側ニ對シ從來ノ日華間ノ交渉經緯ヲ説明シタルニ對  
シ滿側ヨリ種々質問出テタルカ右質問中ニハ議事録掲載  
ノモノ以外ニ左ノ如キ事項ニ關スルモノアリ之等ニ付テ  
ハ當方ヨリ左ノ通應酬スルト共三國間下協議ノ議場ニ  
於テハ之ニ關スル質問ヲ爲スヲ差控フルコトニ打合セタ  
リ

#### (イ) 滿華間基本條約

本宣言ハ滿華間ニ日華基本條約ニ對應スル基本條約ヲ  
締結スルコトヲ妨ケサルモノナリヤトノ問ニ對シ條文  
ノ解釋トシテハ別ニ之ヲ排除スルモノニ非サル旨答ヘ  
置キタリ

#### (ロ) 主權及領土ノ尊重

宣言案第一項ノ主權及領土ノ尊重ハ殊更之ヲ規定スル  
必要アリヤトノ質問ニ對シ日滿間ニハ必要ナカルヘキ  
モ中國ノ參加スル三國間ノ宣言ナルヲ以テ之ヲ規定ス

ルノ意義アル次第ナル旨竝ニ本宣言ハ中國ノ滿洲國承認ヲ意味スルモノナレハ主權及領土ノ尊重ヲ規定スルハ主權國家トシテノ滿洲國ノ地位ヲ確定スルノ意義ヲモ有スルモノナル旨應酬セリ

(ハ)宣言案第二項ノ漢文ノ構成

第二項ノ構成ハ日本文ト漢文トノ間ニ差異アリ漢文ハ日本文ノ逆トナリ居リ要點力違フ如キ感ヲ與フルニ非スヤトノ質問アリ此ノ點ニ付テハ中國側ノ意見ヲモ徵スルノ要アリタルヲ以テ第一回下協議終了後三國事務當局參集研究ノ結果漢文原案通ニテ差支ナシトノ結論ヲ得タリ

(ニ)今次下協議ノ議事範圍

共同宣言署名ノ時期、形式等ハ今次下協議ノ議ニ上セテ差支ナキヤトノ問ニ對シ今回ハ共同宣言案其ノモノノ内容ニ付テノミ討議スルコトトシタキ旨述ヘタリ  
尙滿側ハ今回來寧ノ機ニ於テ承認後ノ滿華間大使交換ニ付中國側ノ意向ヲ打診シタキ希望ヲ有シタルヲ以テ右打診ハ汪主席訪問ノ際爲スヲ適當トスヘキ旨「サジエスト」シタルカ徐、周兩次長ニ對シ滿側ハ直チニ大

使任命ノ用意アル旨ヲ述ヘタルニ對シ兩次長ヨリ中國側モ同様ノ考ナル旨竝建物等ニ關シ便宜供與アリ度キ旨ヲ述ヘタル由ナリ尙汪主席ハ本件ニ付明答ヲ避ケタル趣ナリ

二、國名順序及政府呼稱問題

共同宣言案中ノ國名、年號等ノ順序ハ日本文「テキスト」及漢文中中國側「テキスト」ニ付テハ既ニ日華間交渉ニ於テ決定濟ナリシモ滿側「テキスト」ニ付テハ未決定ナリシヲ以テ下協議開催前滿側及中國側トモ打合セノ上「滿、華、日」ノ順序ト爲スコトトセリ右ニ依リ日、滿、華共夫々一度宛第一位、第二位、第三位ノ順序ヲ與ヘラルルコトトナリタリ

政府ノ呼稱ニ付テハ日華間交渉ニ於テ日本文「テキスト」ニ於テハ「大日本帝國政府」(滿、華ニハ「大」ヲ附セス)漢文中中國側「テキスト」ニ於テハ「大中華民國政府」(大日本帝國政府)(滿ニハ「大」ヲ附セス)ト爲スコトニ決定シ居リタル處下協議前日ニ至リ中國側ヨリ滿側「テキスト」ニ於テモ「大中華民國政府」ト爲スヘキコトヲ主張シ來リタルカ斯克テハ滿側ヨリ「大滿洲

帝國政府」ト爲スヘシトノ要求ヲ誘發スルコトナルヘキ  
點ヲ指摘シ之ヲ撤回セシメタリ

三、中國側委員ノ不在

褚外交部長廣東旅行中ノ故ヲ以テ滿側委員ハ豫定ヲ變更  
シ一週間遲レテ來寧シタルニ拘ラス褚部長未タ歸來セス  
徐代部長中國側委員ニ當リタル爲滿側ハ當初多少不滿ノ  
色アリタルモ其ノ後徐代部長以下中國側ノ誠意ヲ以テノ  
應待、汪主席訪問ノ際ノ厚遇等ニ依リ不滿モ解消シ且ツ  
滿側委員出發直前飛行場ニ於テ褚部長ノ歸來セルニ遇ヒ  
談合ノ機會ヲ得満足シテ當地ヲ出發セル模様ナリ

要之今次下協議ハ圓滿且友好的空氣ノ間ニ終始シ滿側ニ  
於テハ中國側ノ態度ニ多少ナリトモ冷カナル所ナキヤヲ  
慮レタル模様ナキニアラサリシモ事實ハ右ニ反シ將來滿  
華兩國國交ノ爲ニモ極メテ好影響アルヘシト認メラル

尙汪主席訪問ノ際ノ會談錄(甲號)、一行滯寧中ノ行事「プ  
ログラム」(乙號)及韋長官主催宴會ニ於ケル徐代部長挨拶  
(丙號)御參考迄添附ス

昭和十五年十一月九日

在中華民國(南京)

大日本帝國大使館

日高參事官

外務省

松本條約局長殿

甲號

汪主席訪問談話記錄(劉試補記)

一、日時 十一月八日午後五時ヨリ約十分

二、場所 汪主席公館

三、訪問者 韋長官、尾形參事官、丁理事官、德田祕書官、

劉試補

一、陪席者 徐次長、周常務次長

韋長官 今回余ハ本國政府ノ命ヲ承ケ中國側及日本側委員

トノ間ニ日滿華三國共同宣言案下協議ヲナス爲南京ニ來

リタル次第ナリ

貴國側各關係方面ヨリ多大ナル便宜ヲ供與サレ依テ今日  
ノ如キ三國國交調整ノ基礎タルヘキ共同宣言案モ「イニ  
シアル」ヲ了シ無事任務ヲ終了スルヲ得タリ茲ニ謝意ヲ

表ス

汪主席 貴委員カ遠路遙々ト滿洲ヨリ南京ニ來ラレ今回ノ意義アル下協議ニ參加セラレタルハ誠ニ御苦勞ニ存ス我々ハ過去ニ於テ同胞タリシガ今後モ同胞ノ關係ヲ繼續セザルベカラズ同胞ノ間ニ遠慮ノ要ナシ

韋長官 共同宣言案モ圓滿安結シタルニヨリ我方トシテハ貴國トノ間ニ一日モ早く使節ノ交換ガ實現サレンコトヲ希望ス

汪主席 (右長官ノ發言ニ對シ「ソウソウ」ト漠然タル意思表示アリ次テ)

會議ノ模様ハ逐次報告ヲ受ケ又議事録ヲモ讀ミ居リ會議ノ席上ニ於ケル貴委員ノ質問ヲヨク知り居ルカ右質問ノ内容ハ非常ニ充實シ居リ感服セリ尙日高徐兩委員ノ之ニ對スル説明モ又至極結構ニシテ殊ニ共同宣言案カ原案通リ一字モ修正サルコトナク會議ヲ通過シタルコトハ何ヨリモ結構ナルコトナリ

今後我々ハ更ニ「イニシアル」濟ノ共同宣言案ノ趣旨ヲシテ具体化セシムル要アリ

目下ノ世界政局ハ混沌タルモノニシテ此ノ混沌ノ眞最中ニ在ル我ガ東亞全体ハ一定シタル方針ト一定シタル進ム

ベキ方向ヲ定メ以テ我々ハ少クトモ東亞ヲ保全セザルベカラズ吾人ハ日本ハ東亞ニ於ケル先進國タルコトヲ認ムベク我々ハ日本ヨリ數十年モ遅レ居ルニヨリ我々ハ日本ニ學ビ且之ニ追付キ以テ東亞合作ノ一致團結ヲ圖ラザルベカラズト確信ス

我々ハ全面的和平ヲ實現サセ東亞全体ヲシテ一定シタル方針ヲ持タセ又一定シタル方向ヲ決定シ置クコトハ我國民ノ幸福デアリ我東亞ノ幸福デアリ將又全世界ノ幸福タルコトト確信スルモノナリ

最後ニ滿洲國皇帝陛下及張國務總理ノ近況ニ關シ種々質問アリ之ニ對シ韋長官ヨリ簡易ナル回答アリタリ



582 昭和15年11月28日 阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪兆銘の国民政府主席就任について

南 京 11月28日後発  
本 省 11月28日夜着

第五五三號(至急)

特第一〇五號

汪精衛二十八日本使來訪ノ際國民政府主席問題ニ關シ今次ノ日支條約締結ニ當リ自分カ代理主席ノ名義ニテハ面白カラストノ意見アルコトハ從來承知シ居リ政府部内ニモ種々ノ議論アリタル次第ナルカ本日ノ中央政治委員會會議ニ於テ今日ニ到リ依然代理主席ノ名稱ヲ用フルハ面白カラス自分カ正式主席ニ就任スヘキ旨滿場一致ヲ以テ可決セラレ梁鴻志、溫宗堯等特ニ強ク之ヲ主張セルニ依リ自分モ考慮ノ結果之ヲ受クルコトニ決意セリ抑々代理主席ヨリ正式主席ニ變ルニハ一應蔣介石ニ宛テ最後ノ電報ヲ寄セ其ノ反省ナキ場合之ヲ決行スル心組ナリシカ委員會ニ於ケル意見ニテハ假令蔣ニ電報スルモ到底満足ナル返事ヲ爲ス筈モ無ク殊ニ條約締結差迫レル今日斯カル無用ノ手續ヲ執ルコトハ徒ニ時日ヲ遷延セシムルニ過キササルヲ以テ直ニ正式主席就任ヲ可トスルノ論強ク自分モ之ヲ諒トシテ直ニ就任方承諾セル次第ナリト述ヘタリ



583 昭和15年11月30日 調印

### 日華基本條約

#### 日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ以テ東亞ニ於ケル恆久ノ平和ヲ確立シ之ヲ核心トシテ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ希望シ之ガ爲兩國間ノ關係ヲ律スル基本的原則ヲ訂立セント欲シ左ノ通協定セリ

#### 第一條

兩國政府ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ政治、經濟、文化等各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ズベシ  
兩國政府ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ互リ相互ニ兩國間ノ好誼ヲ破壞スルガ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁絶スルコトヲ約ス

#### 第二條

兩國政府ハ文化ノ融合、創造及發展ニ付緊密ニ協力スベシ

#### 第三條

兩國政府ハ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシムル一切ノ共產主義的破壊工作ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス

兩國政府ハ前項ノ目的ヲ達成スル爲各其ノ領域内ニ於ケル共產分子及組織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報、宣傳等ニ付緊密ニ協力スベシ

日本國ハ兩國共同シテ防共ヲ實行スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ所要ノ軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一定地域ニ駐屯セシムベシ

#### 第四條

兩國政府ハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ガ別ニ定ムル所ニ依リ撤去ヲ完了スルニ至ル迄共通ノ治安維持ニ付緊密ニ協力スルコトヲ約ス

共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ニ於ケル日本國軍隊ノ駐屯地域其ノ他ニ關シテハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ據ル

#### 第五條

中華民國政府ハ日本國ガ従前ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ其ノ艦船部隊ヲ中華民國領域内ニ於ケル特定地

域ニ駐留セシメ得ルコトヲ承認スベシ

#### 第六條

兩國政府ハ長短相補ヒ有無相通スルノ趣旨ニ基キ且平等互惠ノ原則ニ依リ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フベシ

中華民國政府ハ華北及蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ヲ開發スルコトヲ約諾ス中華民國政府ハ其ノ他ノ地域ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シ日本國及日本國臣民ニ對シ必要ナル便宜ヲ提供スベシ

前項ノ資源ノ利用ニ關シテハ中華民國ノ需要ヲ考慮シ中華民國政府ハ日本國及日本國臣民ニ對シ積極的ニ充分ナル便宜ヲ提供スルモノトス

兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ及兩國間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講ズベシ兩國政府ハ揚子江下流地域ニ於ケル通商交易ノ増進竝ニ日本國ト華北及蒙疆トノ間ニ於ケル物資需給ノ合理化ニ付テハ特ニ緊密ニ協力スベシ

日本國政府ハ中華民國ニ於ケル産業、金融、交通、通信等ノ復興發達ニ付兩國間ノ協議ニ依リ中華民國ニ對シ必要ナ

ル援助乃至協力ヲ爲スベシ

### 第七條

本條約ニ基ク日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於テ日本國ノ有スル治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スベク中華民國政府ハ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スベシ

### 第八條

兩國政府ハ本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル具體的事項ニ關シ更ニ約定ヲ締結スルモノトス

### 第九條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ  
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘(印)

## 附屬議定書

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

### 第一條

中華民國政府ハ日本國ガ中華民國領域内ニ於テ現ニ遂行シツツアル戰爭行爲ヲ繼續スル期間中右戰爭行爲遂行ニ伴フ特殊事態ノ存在スルコト及日本國ガ右戰爭行爲ノ目的達成上必要ナル措置ヲ執ルコトヲ諒解シ之ニ應ジ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

前項ノ特殊事態ハ戰爭行爲繼續中ト雖モ戰爭行爲ノ目的達成上支障ナキ限り情勢ノ推移ニ應ジ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ調整セラルベキモノトス

### 第二條

從前中華民國臨時政府、中華民國維新政府等ノ辨ジタル事項ハ中華民國政府ニ依リ繼承セラレ差當リ現狀ヲ維持セラレタルモノナルニ依リ右事項ノ中調整ヲ要スルモノニシテ未ダ調整セラレザルモノハ事態之ヲ許スニ伴ヒ兩國間ノ協議ニ依リ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ速ニ調整セラルベキモノトス

### 第三條

兩國間ノ全般の平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ日本國軍隊ハ本日署名セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約及兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ除キ撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年以内ニ之ヲ完了スベク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確立ヲ保障スルモノトス

第四條

中華民國政府ハ事變發生以來中華民國ニ於テ事變ニ因リ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スベシ

日本國政府ハ事變ノ爲生ジタル中華民國難民ノ救濟ニ付中華民國政府ニ協力スベシ

第五條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十

日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘(印)

附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ右條約附屬議定書第一條及第二條ノ規定ニ關聯シ兩國全權委員間ニ左ノ了解成立セリ

第一 中華民國ニ於ケル各種徵稅機關ニシテ目下軍事上ノ必要ニ依リ特異ナル狀態ニ在ルモノニ付テハ中華民國ノ財政獨立尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之ガ調整ヲ計ルモノトス

第二 目下日本國軍ニ於テ管理中ノ公營、私營ノ工場、鑛山及商店ハ敵性ヲ有スルモノ及軍事上ノ必要等已ムヲ得ザル特殊ノ事情ニ在ルモノヲ除キ合理的方法ニ依リ速ニ之ヲ中華民國側ニ移管スル爲必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

第三 日華合辦事業ニシテ固有資産ノ評價、出資比率其ノ他ニ付修正ヲ要スルモノアルニ於テハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ之ガ是正ノ措置ヲ講ズルモノトス

第四 中華民國政府ハ對外貿易ニ關シ統制ヲ必要トスル場合ハ自主的ニ之ヲ行フモノトス但シ條約第六條ニ掲ゲラレタル日華經濟提携ノ原則ト牴觸スルコトヲ得ズ又事變繼續中ニ於テハ右統制ニ付日本國側ト協議スベキモノトス

第五 中華民國ニ於ケル交通、通信ニ關スル事項ニシテ調整ヲ要スルモノニ付テハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ事態之ヲ許ス限リ速ニ之ガ調整ヲ計ルモノトス  
昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行(印)  
中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘(印)

#### 附屬祕密協約

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ右條約ト一體ヲ成スベキモノトシテ左ノ諸條ヲ協定セリ

#### 第一條

條約第五條ノ規定ニ基キ日本國ハ所要ノ艦船部隊ヲ揚子江沿岸特定地點竝ニ華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ駐留セシムベク日本國艦船ハ中華民國領域内ノ港灣水域ニ自由ニ出入、碇泊シ得ルモノトス

日本國及中華民國ハ兩國共通ノ利益確保ノ爲支那海ノ交通路ヲ維持シ其ノ安全ヲ擁護スルコトヲ必要ト認メ條約第五

條ノ規定ニ基キ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ協力ヲ行フコトヲ約ス

#### 第二條

中華民國政府ハ厦門及海南島竝ニ其ノ附近ノ諸島嶼ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ガ開發生産ヲ計ルコトヲ約諾ス右資源ノ利用ニ關シテハ中華民國ノ需要ヲ考慮シ中華民國政府ハ日本國及日本國臣民ニ對シ積極的ニ充分ナル便宜ヲ提供シ特ニ日本國ノ國防上ノ要求ヲ充足スルモノトス

#### 第三條

兩國政府ハ兩國間ノ全般的平和克復ノ際又ハ其ノ以前ノ適當ノ時期ニ於テ協議ノ上本協約ヲ公表スルモノトス

#### 第四條

本協約ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ  
右證據トシテ兩國全權委員ハ本協約ニ署名調印セリ  
昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行 印

5 日華基本条約の締結

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘 印

附屬祕密協定

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國共通ノ利益ヲ増進シ東亞ニ於ケル平和ヲ確保スル爲相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スルガ如キ一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラザルコトヲ約ス

第二條

中華民國政府ハ中華民國領域内ニ駐屯スル日本國軍隊ノ駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港灣及水路等ニ付兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ日本國ノ軍事上ノ必要事項ニ關シ其ノ要求ニ應ズルコトヲ約ス但シ平時ニ於ケル中華民國ノ行政權及管理權ハ尊重セラルベキモノトス  
中華民國政府ハ前項ノ日本國軍隊ニ對シ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ駐屯ニ必要ナル諸般ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第三條

兩國政府ハ必要ノ場合協議ノ上本協定ノ條項ノ全部又ハ一部ニ付公表スルノ措置ヲ執ルモノトス

第四條

本協定ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行 印

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘 印

祕密交換公文(甲)

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

第一

蒙疆(內長城線(含マズ)以北ノ地域トス)ハ前記條約ノ規定ニ基キ國防上及經濟上華日兩國ノ強度結合地帶タル特

## 第二

殊性ヲ有スルモノナルニ鑑ミ現狀ニ基キ廣汎ナル自治權ヲ認メタル高度ノ防共自治區域ト爲スモノトス  
中華民國政府ハ蒙疆ノ自治ニ關スル法令ニ依リ蒙疆自治ノ權限ヲ規定スベク右法令ノ制定ニ付テハ豫メ日本國政府ト協議スルモノトス

一 中華民國政府ハ前記條約及附屬文書ノ規定スルガ如ク華北(內長城線(含ム)以南ノ河北省及山西省竝ニ山東省ノ地域)ガ國防上及經濟上華日間ノ緊密ナル合作地帶タルニ鑑ミ華北ニ華北政務委員會ヲ設置シ同委員會ヲシテ中華民國臨時政府ノ辨シタル事項ヲ繼承處理セシメ居ル處右委員會ノ權限構成ハ兩國間ノ全般の平和克復後左記ニノ條項ヲ具現シ得ルヲ以テ限度トシ之ヲ目途トシテ速ニ調整整理セラルベキモノトス

二 兩國間ノ全般の平和克復後華北ニ於ケル華日協力事項中華北政務委員會ガ地方的ニ處理シ得ル事項ハ左ノ通トシ右ニ關シテハ中華民國政府ハ日本國政府トノ協議ニ基ク法令ニ依リ之ヲ規定スルモノトス

甲 防共及治安協力ニ關スル事項

(一) 日本國軍隊駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理  
(二) 華日間ノ防共及治安協力ニ關スル所要事項ノ處理  
(三) 其ノ他華日軍事協力ニ關スル處理

但シ國防軍ニ關スル處理ハ中華民國政府ノ華北ニ特設スル軍事處理機關ニ依ルモノトス又華北政務委員會ノ保有スル綏靖部隊ノ兵力ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ルモノトス

乙 華北ニ於ケル經濟提携就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發利用竝ニ日本國、滿洲國、蒙疆及華北間ノ物資需給ニ關スル事項

(一) 日本國及日本國臣民ニ對シ資源就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發利用ニ關スル便宜供與ニ關スル事項

(二) 日本國、滿洲國、蒙疆及華北間ノ物資需給ノ便宜且合理化ニ關スル處理

(三) 日本國、滿洲國、蒙疆及華北間ノ通貨及爲替ニ付テノ協力ニ關スル處理

(四) 鐵道、航空、通信、主要海運ニ付テノ協力ニ關スル處理

丙 日本人顧問及職員ノ招聘採用ニ關スル事項

丁 前記甲、乙及丙ニ掲ケラレサル事項ニ付テノ日本

國及滿洲國トノ純粹ナル地方的處理ニ關スル交渉

三 華北政務委員會ハ中華民國政府ノ決定スル範圍内ニ

於テ蒙疆トノ地方的連絡ニ關スル處理ヲ行フコトヲ得

ルモノトス

四 華北政務委員會カ前記二及三ニ掲ケラレタル事項ヲ

處理シタル場合ハ隨時之ヲ中華民國政府ニ報告スルモ

ノトス

### 第三

中華民國政府ハ前記條約及附屬文書ノ規定ニ基キ揚子江

下流地域ニ於テ經濟上華日間ノ緊密ナル合作ヲ具現スル

コトトナリタルニ鑑ミ且右ニ關聯シ華日協力ノ實現上特

ニ上海ノ占ムル重要ナル地位ニ鑑ミ日本國政府ト協力シ

テ新上海ヲ建設スヘク左記各項ニ關シ別ニ協議決定セラ

ルル所ニ從ヒ華日間ノ提携ヲ具現スルモノトス

一 兩國ハ揚子江下流地域特ニ上海ニ於テ貿易、金融、

産業及交通等ニ關シ緊密ニ協力スルコト

華日經濟協議會ヲ設置スルコト

二 兩國ハ上海ニ於テ思想、教育、宣傳、衛生、警察及

文化事業ニ關シ緊密ニ協力スルコト

三 上海特別市ノ建設ニ關シ中華民國政府ハ同特別市ノ

財源ニ付充分考慮シ建設ニ支障ナカラシムヘク日本國

政府ハ右建設ニ付技術的協力ヲ爲スコト

四 上海特別市ノ對外交渉ニ關シテハ絕エズ兩國間ニ緊

密ナル連絡ヲ保チ協力スルコト

五 日本國軍隊駐屯ニ伴フ事項中上海ニ於ケル地方的處

理ニ付テハ上海特別市政府ヲシテ之ニ當ラシムルコト

### 第四

中華民國政府ハ前記條約及附屬文書ノ規定ニ基キ華南沿

岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ於テ兩國間ノ緊密ナル

軍事上ノ合作及經濟上ノ提携ヲ具現スルコトトナリタル

ニ鑑ミ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ依リ現狀ニ從

ヒ左ノ措置ヲ執ルモノトス

一 海南島及附近ノ諸島嶼ヲ省域トスル一省ヲ設クルコ

ト

二 廈門島及其ノ附近ヲ市域トスル廈門特別市ヲ設クル

コト

三 前記諸地域ニ於ケル華日協力事項中軍事協力及經濟提携ニ關スル事項ニ付圓滑ニ地方的處理ヲ行ヒ得ル如ク措置スルコト

第五

中華民國政府ハ日本國政府トノ間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ華日協力事項ニ關シ日本人技術顧問及軍事顧問ヲ招聘シ竝ニ日本人職員ヲ採用スルモノトス

前項ノ顧問ノ職權及服務規程ハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國政府ニ於テ之ヲ定ムヘク又前項ノ職員ノ任務ハ中華民國法令ノ定ムル所ニ據ルモノトス  
本官ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國二十九年十一月三十日

大中華民國國民政府行政院院長

汪 兆 銘 印

大日本帝國特命全權大使

阿部 信行閣下

(往 翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候

(以下來翰譯文ノ內容)

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十五年十一月三十日南京ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

阿部 信行 印

中華民國國民政府行政院院長

汪 兆 銘 閣下

祕密交換公文(乙)

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ右條約附屬議定書第一條ノ規定ニ關聯シ日本國ガ中華民國領域内ニ於テ現ニ遂行シツツアル戰爭行爲ヲ繼續スル期間中中華民國政府ハ右日本國ノ戰爭行爲ノ目的完遂ニ付積極的ニ協力スベキ旨本官ト閣下トノ間ニ了解成立致候

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國二十九年十一月三十日

大中華民國國民政府行政院院長

汪 兆 銘 印

大日本帝國特命全權大使

阿部 信行閣下

(往 翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成  
敬承致候

(以下來翰譯文ノ内容)

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十五年十一月三十日南京ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

阿部 信行 印

中華民國國民政府行政院院長

汪 兆 銘 閣下

584 昭和15年11月30日 調印

日滿華共同宣言

日滿華共同宣言

大日本帝國政府

滿洲帝國政府及

中華民國國民政府ハ

三國相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク  
新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相  
提携シ以テ東亞ニ於ケル恆久的の平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核  
心トシテ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ希望シ左ノ通宣  
言ス

一 日本國、滿洲國及中華民國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ  
尊重ス

二 日本國、滿洲國及中華民國ハ互恵ヲ基調トスル三國間  
ノ一般提携就中善隣友好、共同防共、經濟提携ノ實ヲ舉

グベク之ガ爲各般ニ互リ必要ナル一切ノ手段ヲ講ズ

三 日本國、滿洲國及中華民國ハ本宣言ノ趣旨ニ基キ速ニ

約定ヲ締結ス

昭和十五年十一月三十日即チ康德七年十一月三十日、中華  
民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行(印)

滿洲 帝國 參議 臧 式 毅(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘(印)



585 昭和15年11月30日

日華基本條約および日滿華共同宣言成立に關する日本政府公表

付記一 昭和十五年十一月三十日

日華基本條約および日滿華共同宣言成立に關する情報部長談話

二 昭和十五年十二月一日付

日華基本條約成立に對するハル米國務長官の聲明

日華基本條約並日滿華共同宣言ニ關スル帝國政府公表

(昭和十五年十一月三十日午後一時)

本十一月三十日南京ニ於テ日華兩國全權ハ兩國基本關係ニ

關スル條約、同附屬議定書並ニ附屬議定書ニ關スル兩國全權委員間了解事項ニ調印シ次イテ日滿華三國全權ハ日滿華共同宣言ニ調印ヲ了セリ以上ヲ以テ帝國政府ハ汪精衛氏ヲ首班トスル中華民國國民政府ヲ正式ニ承認シ中華民國國民政府ハ滿洲國ヲ承認シ滿洲國政府ハ中華民國國民政府ヲ承認セル次第ナリ。

關係文書ノ内容ハ左記ノ通ナリ。(以下省略)

(付記一)

日華間基本條約及日滿華共同宣言ニ關スル

須磨情報部長談

(昭和十五年十一月三十日午後一時)

本日南京ニ於テ午前十時阿部大使ト汪行政院長(汪氏ハ二十九日國民政府主席ニ就任シタルモ條約締結ニ關スル交渉及調印ハ行政院長ノ資格ニ於テ爲シタル次第ナリ)トノ間ニ日華間ノ基本關係ニ關スル條約及附屬諸取極カ調印セラレ、之ニ依リ日本ハ新國民政府ヲ中國ニ於ケル正當政府トシテ正式ニ承認シタ譯テアルカ引續キ午後零時阿部大使、臧式毅全權及行政院長トノ間ニ日滿華共同宣言ノ調印ヲ見

ルニ至リ滿洲國ハ汪精衛氏ヲ首班トスル國民政府ヲ承認シ、國民政府ハ滿洲國ヲ承認シ茲ニ三國相提携シテ東亞新秩序建設ニ邁進スヘキ基礎ノ確立ヲ見タコトハ慶賀ニ堪ヘナイ所テアル。

今次事變發生以來皇軍ノ進出ニ伴ヒ中國各地ニ治安維持會ノ發生ヲ見、ソレ等ハ漸次臨時、維新ノ兩政府ニ吸引結集セラレ新中國建設ノ機運ハ漸次成熟シツツアツタカ果然汪精衛氏ヲ領導者トスル和平救國運動ノ擡頭ヲ見ルニ至ツタ。本運動ハ日本ト提携シテ新東亞ヲ建設スル目的トシ是カ爲共産主義、抗日運動ヲ排除シ、日華提携ノ更生國民黨政權ヲ樹立スルコトトナリ昭和十三年十二月遂ニ汪氏ノ重慶脱出トナツテ世界ノ表面ニ現レ出タノテアル(十二月十八日)、次テ東亞新秩序建設ニ關スル近衛内閣總理大臣ノ談話(十二月二十二日)ニ對應セル汪氏ノ和平反共宣言(十二月三十日)トナリ其後汪氏ハ河内ヨリ上海ニ到着(昭和十四年五月八日)同地ニ和平運動ノ根據ヲ置クコトトナツタカ、續イテ同年五月三十一日東京ヲ訪レ、當時平沼總理及近衛前總理トモ會見ノ上和平運動ニ對スル日本側ノ決意ヲ知り、愈々本格的運動ニ乗出スコトトナリ、八月二十八日中國國

民黨第六次全國代表大會(六全大會)ヲ上海ニ招集シ、日華關係ヲ根本的ニ調整シ國交ヲ恢復スルコト及國民黨ノ機構ヲ改正シテ汪氏ヲ黨中央執行委員會主席トスルコト等ヲ可決シ歪曲セラレタル三民主義ニ對シテ純正解釋ヲ下シタノテアル。茲ニ於テ和平救國運動ハ一轉シテ和平建國運動トナリ純正國民黨ハ從來ノ以黨治國ノ主張ヲ拋棄シ各黨各派無黨無派ノ人士ト協力シテ新中央政府樹立ノ工作ニ乗出シタノテアル。

新中央政府樹立ノ工作ハ廳テ九月十九日ヨリ三日間南京ニ於ケル汪精衛、王克敏、梁鴻志三氏間ノ所謂三巨頭會談トナリ昭和十五年ニ入ルヤ一月二十三日ノ青島會談(汪精衛、王克敏、梁鴻志三氏)二月十二日汪氏ト各黨各派、社會上重望アル人士トノ會談ヲ以テ中央政府樹立大綱、政綱等ニ關スル意見ノ一致ヲ見遂ニ三月二十日新中央政府樹立ノ根本ヲ定ム可キ中央政治會議ノ開催トナツタノテアル。同會議ニハ國民黨十名、臨時政府、維新政府各五名、蒙古聯合自治政府、國家社會黨、中國青年黨各二名其他社會上重望アル者四名、合計三十名ノ議員出席シ、日華關係調整案、中央政府樹立大綱案、國民政府政綱、中央政治委員會組織

條例等ノ十二重要案件可決セラレ、二十五日閉會、同三十一日南京ニ於テ國民政府還都典禮舉行セラレ、主席代理汪精衛氏還都宣言ヲ發シ茲ニ國民政府ハ東亞新秩序建設ノ分擔者トシテ歴史的第一歩ヲ踏ミ出スコトトナツタノテアル。

他方中央政府樹立工作ト併行シテ日華國交調整ノ交渉ハ之ト不可分ニ遂行セラレ來ツタカ昭和十四年八月末ノ國民黨六全大會以後ハ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ三大原則ヲ基調トシテ愈々急調ニ展開セラレ十二月三十日上海ニ於テ兩國工作者間ニ國交調整ニ關スル基本觀念ノ一致ヲ見タノテアル。

而シテ昭和十五年三月三十日新中央政府成立ヲ見ルヤ帝國政府ハ四月一日阿部信行氏ヲ特命全權大使ニ任命、二十三日南京着任後、日華國交修復ニ關スル準備ハ着々辦理セラレ、七月五日阿部大使、汪主席代理以下出席ノ下ニ第一回正式會議開カレ、汪氏ヨリ會議ニ對スル中國側ノ期待ヲ表明シ、之ニ對シ、阿部大使ヨリ交渉ニ對スル我方ノ見解ヲ披瀝シタ。爾後時ヲ閱スルコト約二箇月、八月二十八日迄ノ間ニ正式會議ヲ開クコト十五回、彼我雙方ノ互讓ト言ハシヨリ寧口東亞新秩序建設ヘノ熱情ハ能ク錯雜セル論點ヲ

超克シ八月二十八日ノ第十五回正式會議ヲ以テ條約案文ハ一應ノ決定ヲ見、同三十一日兩國委員ノ間ニ「イニシアル」カ行ハレタ、次テ「イニシアル」ヲ經タル案文ニ付兩國各々國內の檢討ヲ重ネタル結果、局部的ニ其ノ修正ノ必要ヲ認メ九月下旬再折衝ノ上右修正ニ關スル意見ノ妥結ヲ見、十月一日兩國委員間ニ「イニシアル」カ行ハレタノテアル。

他方帝國ニ對シ常ニ全面的支持ヲ吝マナカツタ滿洲國トモ、日滿華共同宣言案ニ付折衝カ行ハレテ居ツタカ十一月上旬南京ニ於テ滿洲國委員外務局長官韋煥章氏ヲ迎ヘ十一月八日右三國委員間ノ「イニシアル」カ行ハレルニ至ツタ。是ヨリ曩阿部大使ハ十月二十七日歸朝、同月二十九日近衛總理大臣ト會見シテ一切ノ復命ヲ了シ條約案ハ十一月十三日ノ御前會議ヲ經テ樞密院ノ御諮詢ニ付セラレ、十一月二十七日同院ノ本會議ニ於テ可決セラレ本日茲ニ調印ヲ了シタ次第テアル。

(付記二)

日華基本條約成立ニ對スル「ハル」長官ノ否認聲明

國務卿「ハル」ハ昨日―三十日―午後曩ニ日本支持下ノ南京政府ニ對スル遺責ヲ再度聲明シタカ、ソノ條約調印ヲ批評シテ曰ク本年三月發表シタトコロノ聲明ハ日本カ正式ニ南京ヲ承認シタ事ニヨツテ變更スルモノデナイ云々（ユーピー・ニューヨーク）一日電）

586 昭和15年12月

日華基本条約の交渉経緯に関する阿部大使復命報告書の抜粋

昭和十五年十二月

日華條約締結ニ關スル復命報告書

特命全權大使 阿部 信行

不肖曩ニ特命全權大使トシテ特ニ中華民國ニ派遣セラレ日華間ノ新關係調整ニ關スル條約締結方ノ命ヲ受ケ爾來之ガ締結ノ交渉ニ從事セル處去ル十一月三十日ヲ以テ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約及附屬文書竝ニ日滿華共同宣言ニ署名調印ヲ了セリ  
右復命報告ス委細別紙報告書ノ通

昭和十五年十二月十七日

中華民國派遣特命全權大使 阿部 信行

外務大臣 松岡 洋右殿

(別紙)

昭和十五年十二月

日華條約締結ニ關スル報告書

特命全權大使 阿部 信行

日華條約締結ニ關スル報告書目次

緒言

第一章 中華民國派遣特命全權大使ノ任命ト隨員團ノ構成

第二章 條約交渉開始前ノ経緯

第一節 條約交渉開始前ノ中國側内情

第二節 第一次訓令ノ受領ト交渉開始準備

第三章 條約交渉経緯概要

第一節 七月中ニ於ケル交渉経緯、第二次訓令ノ受領

第二節 八月中ニ於ケル交渉経緯

第三節 日華交渉通觀

第四節 條約案文ニ對スル「イニシアル」ノ終了

第五節 第三次訓令ノ受領ト案文ノ字句形式ノ修正

第六節 日華交渉ト滿洲國トノ關係

第七節 日滿華三國委員下協議

第四章 條約ノ調印

第一節 調印準備ト汪兆銘ノ正式主席就任

第二節 調印式

第三節 條約ノ調印ト今後ノ對支施策管見

附錄第一(別冊) 昭和十五年十一月三十日調印ノ日華間

條約及日滿華共同宣言

附錄第二(別冊) 條約交渉會議記錄

第三章 條約交渉經緯概要

條約交渉ノ經緯ノ詳細ハ附錄「日支條約交渉會議記錄」ニ之ヲ譲リ本章ニ於テハ右經緯ノ概要ヲ期ヲ分チテ敘述セシトス

第一節 七月中ニ於ケル交渉經緯、第二次訓令ノ受領

七月五日午前十時ヨリ寧遠樓ニ於テ第一回正式會議ヲ開催シ汪院長開會ノ挨拶ヲ述ベ次デ本使ヨリ挨拶ヲ述ベタリ(會議記錄參照)本使ハ其ノ挨拶中ニ於テ今次條約交渉ニ關

スル我方ノ根本の見解ヲ披瀝シ置クヲ必要ト認メ右根本の見解トシテ(一)所謂近衛聲明ヲ兩國國交調整ノ基本觀念トスベキコト(二)今次交渉ノ實質の基礎ハ之ヲ客年末ノ「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ニ求ムベキコト及(三)今回ノ條約ハ戰爭行為爲繼續中ニ於テ締結セラルル條約トシテノ特殊性ヲ具備スベキモノナルコトノ三點ヲ強調セリ中國側ニ於テモ右見解ニハ完全ナル同意ヲ表示シ殊ニ右(二)ノ點ハ中國側ニ安堵ヲ與ヘタルモノノ如ク交渉開始劈頭ニ於ケル双方根本の見解ノ一致ハ爾後ノ交渉ノ進展ヲ圓滑ナラシムルノ效果アリタリト思料セラル右挨拶ノ後日高委員ヨリ日支双方祕書局ニ於テ事前ニ折衝セル今次會議ノ構成其ノ他ニ關スル打合ヲ披露シ楮委員之ニ同意ヲ表シ同日ノ會議ヲ終了セリ

翌七月六日午前十時ヨリ第二回正式會議ヲ開催シ我方ヨリ十六項目ニ亘ル「日本側提案要項」ヲ提出シ同時ニ「基本條約要綱案」ヲ提出セリ(會議記錄參照)日高委員ヨリ右提案要項ハ日支間新國交調整ノ最初ノ條約タル今次條約中ニ掲ゲ置クヲ適當ト認メタル事項ヲ客年末ノ協議書類ヨリ抽出シテ掲記セルモノナル旨竝ニ右十六項目ヲ分チテ如何ナ

ル形式ノ文書ニ纏メ規定スベキヤノ點ニ關シテハ日支間ノ恆久的關係ヲ律スベキ基本的原則的事項ヲ基本條約ニ、稍過渡的ノ意義ヲ有スル重要事項ヲ附屬議定書ニ、同ジク重要事項ナルモ發表スルヲ適當トセザル事項ヲ附屬祕密協定ニ夫々規定スルヲ適當トスル旨ノ説明ヲ行ヒ中國側研究ヲ約シテ散會セリ

爾後七月中ニ於テ第三回(九日)第四回(十五日)第五回(十九日)第六回(二十二日)第七回(二十六日)及第八回(三十一日)ノ各正式會議ヲ開催シ(會議記錄參照)其ノ間頻繁ニ非公式會談ヲ行ヒタリ第三回正式會議(七月九日)ニ於テハ基本條約前文(東亞新秩序建設ノ共同目標ニ關スル件)、同第一條(主權及領土ノ尊重並ニ善隣友好互助敦睦ニ關スル件、好誼破壞ノ措置及原因ノ撤廢禁絶ニ關スル件)同第二條(文化協力ニ關スル件)同第三條第一項及第二項(共同防共ニ關スル件)ノ妥結ヲ見タリ第四回正式會議(七月十五日)ニ於テ我方ヨリ附屬議定書要綱案ヲ提出シ第五回正式會議(七月十九日)ニ於テ議定書第四條(日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害補償並ニ中華民國難民ノ救濟ニ關スル件)ノ規定ニ付意見一致ヲ見第六回第七回正式會議(七月二十二日

及二十六日)ニ於テ基本條約第六條第一項(一般經濟提携ニ關スル件)同第三項(資源ノ利用ニ關スル件)同第四項(通商ノ振興及物資需給ノ合理化ニ關スル件)同第五項(產業、金融、交通、通信等ノ復興、發達ニ付テノ協力ニ關スル件)及基本條約第七條(租界還付及治外法權撤廢並ニ内地開放ニ關スル件)ニ付妥結ニ到達シ七月中最後ノ會議タル第八回正式會議(七月三十一日)ニ於テ基本條約第四條(共通ノ治安維持ニ關スル件)及同第五條(艦船部隊ノ駐留ニ關スル件)ノ兩規定ニ付妥結ヲ見ルニ至レリ

然レ共防共駐兵ノ期間(基本條約第三條第三項)資源開發協力ノ地域的範圍(同第六條第二項)戰爭目的の完遂ニ對スル協力(議定書第一條)既成政權ノ所辨事項ノ承繼(同第二條)日本國軍隊ノ撤兵(同第三條)ノ諸案件ニ付テハ未ダ妥結ヲ見ルニ至ラズ之ガ討議ヲ八月ニ繰越スコトナレリ

一方七月二十七日附ヲ以テ條約交渉ニ關スル第二次訓令發セラレ「大使ニ對スル訓令(甲)」(別紙第三號)ニ於テ附屬祕密協定及交換公文ノ内容ニ關スル指示ヲ受ケ同時ニ「大使ニ對スル訓令(乙)」ニ於テ從來ノ交渉狀況ニ關スル中央御意向ノ指示ニ接シタリ仍テ隨員ヲシテ右第二次訓令ノ趣

旨ヲ體シ爾後ノ交渉ニ對スル對策ヲ鍊ラシムル所アリ斯クテ交渉第一月ヲ終了セリ

## 第二節 八月中ニ於ケル交渉經緯

八月中ニ於テ第九回(二日)第十回(九日)第十一回(十四日)第十二回(十七日)第十三回(二十一日)第十四回(二十四日)第十五回(二十八日)及第十六回(三十一日)合計八回ノ正式會議及其ノ間更ニ頻繁ナル非公式會議ヲ開催セリ(會議記錄參照)此ノ期間ニ於テハ正式會議ニ於ケル議論ノ紛糾ヲ避ケ議事ノ進行ヲ速カナラシムル爲重要案件ニ付テハ正式會議上程前小人數ノ非公式會談ニ於テ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂グルコトトセリ右非公式會談ハ時トシテ深刻ナル討論ニ終始セルコトアリシモ概シテ友好的の雰圍氣ノ裡ニ妥結ヲ收ムルノ效果ヲ擧グルヲ得タリ

第九回正式會議(八月二日)ニ於テハ附屬議定書第二條(既成ノ政權ノ辨ジタル事項ノ承繼及其ノ調整ニ關スル件)ニ付妥結ヲ見次デ我方ヨリ附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間ノ了解事項案(會議記錄參照)ヲ提出セリ右ノ了解事項案ハ第七回正式會議(七月二十六日)ニ於テ附屬議定書ノ追加條項トシテ中國側ノ提出シ來レル十項目中我方ノ受諾シ得

ベキモノヲ撰ビテ形式ヲ了解事項ト爲シタルモノナリ第十回正式會議ハ七日開催ノ豫定ナリシモ非公式會談ニ於ケル重要案件ノ審議纏ラザル爲十日ニ延期開催セラレ同日ノ會議ニ於テモ何等妥結ノ步ヲ進ムルコトナカリキ八月初旬ヨリ中旬ニ至ル期間ハ實ニ今次交渉ノ最大難關ニ逢着セル期間ニシテ重要案件ニ付日支双方互ニ自己ノ主張ヲ固守シテ讓ラズ時恰モ南京ノ暑熱酷烈ヲ極メ日支双方ノ交渉關係者ノ苦心絶大ナルモノアリタリ

第十一回正式會議(八月十四日)ニ於テ了解事項第二(軍管理工場等ノ移管)同第四(對外貿易ノ統制)ニ付意見一致ヲ見次デ我方ヨリ附屬祕密協定要綱案(會議記錄參照)ヲ提出シタルガ同案ニ付テハ事前ニ非公式會談ニ於テ審議ヲ盡シタルヲ以テ即日第一條(外交上ノ相互提携ニ關スル件)第四條第一項(鐵道、航空、通信、主要港灣及水路ニ付テノ軍事上ノ必要事項處理ニ關スル件)第五條第一項(祕密協定ノ條項ノ公表措置ニ關スル件)ノ妥結ヲ見タリ

第十二回正式會議(八月十七日)ニ於テハ了解事項第一(中國徵稅機關ノ特異狀態調整)同第三(日華合辦事業ノ資產評價、出資比率等ノ修正)祕密協定第二條(艦船部隊ノ駐留及

之ニ關聯スル軍事上ノ協力ニ關スル件)同第四條第二項及同第五條第二項ニ付意見一致ヲ見同日更ニ我方ヨリ「條約ト協議書類ノ關係」ニ關スル議事録案(議事録第一)、蒙疆、華北、上海、海南島及廈門ニ關スル秘密交換公文案竝ニ日本人顧問ニ關スル秘密交換公文案(後日兩交換公文ヲ合一シテ交換公文(甲)トナル、附録會議記錄參照)ヲ提出セリ第十三回正式會議(八月二十一日)ニ於テハ我方ヨリ基本條約、附屬議定書、附屬秘密協定ノ各々ニ付實施期日ノ規定及末文ノ案竝ニ基本條約第八條トシテ具體的約定ノ締結ニ關スル規定ノ案ヲ提出シ夫々妥結ヲ見タル外懸案ノ基本條約第三條第三項(防共駐兵ノ期間)及議事録第一ニ付意見一致シ尙同日ノ會議ニ於テ我方ヨリ日華滿共同宣言案(會議記錄參照)「條約作成ノ基礎原則」ニ關スル議事録案(議事録第二)及戰爭行爲ノ目的完遂ニ對スル協力ニ關スル秘密交換公文案(交換公文(乙))ヲ提出セリ

第十四回正式會議(八月二十四日)ニ於テハ幾多ノ重要規定ニ付妥結ヲ見交渉毛漸ク峠ヲ越シタル觀アリ即チ同日ノ會議ニ於テ基本條約第六條第二項(資源ノ開發ニ關スル件)議定書第三條(撤兵ニ關スル件)了解事項第五(交通、通信ニ

關スル事項ノ調整)秘密協定第三條(海南島其ノ他華南沿岸特定島嶼ニ於ケル資源ノ開發利用ニ關スル件)交換公文(甲)及(乙)、議事録第二ニ付意見一致ヲ見ルニ至レリ尙同會議ニ於テ我方ヨリ「今次條約ト最惠國約款トノ關係」ニ關スル議事録案(議事録第三)「日本國軍隊ノ撤去完了期」ニ關スル議事録案(議事録第四)及協議書類合ニ關スル覺書案ヲ提出シ(會議記錄參照)右ノ中議事録第三及覺書案ニ付テハ即日妥結ヲ見タリ

八月二十八日第十五回正式會議ヲ開催シ日華滿共同宣言案ノ字句修正ニ付意見一致シタル外附屬議定書第一條(事變繼續中ノ特殊事態及其ノ調整竝ニ戰爭目的完遂ニ對スル協力ニ關スル件)及議事録第四ノ妥結ヲ見更ニ我方ヨリ「條約第八條ノ約定」ニ關スル議事録案(議事録第五)ヲ提出シ直ニ之ヲ決定斯クテ第十五回正式會議ヲ以テ條約及附屬文書ノ全案文ニ付完全ナル妥結ヲ見タリ

### 第三節 日華交渉通觀

二ヶ月ニ亘ル日華條約交渉ノ經緯ヲ通觀スルニ交渉劈頭ニ於テ今次交渉ノ本質ニ關スル双方ノ根本的見解ノ一致ヲ見且交渉繼續中日華兩國交渉委員ハ今次條約締結本來ノ趣旨

ニ鑑ミ常ニ對手方ニ臨ムニ深キ同情ト理解トヲ以テシ虚心坦懷折衝ニ努メタリト雖モ交渉個々ノ段階ニ於テ難關ニ逢着スルコト一再ニ止マラス妥結ニ長時日ヲ要シタルコトアルモ右ハ交渉内容ノ重要性ニ鑑ミ又當然ノ次第ナルベシ今次交渉ヲ通ジ最モ妥結ニ困難ヲ來セル主要案件ハ防共駐兵、治安維持協力、艦船部隊ノ駐留、資源ノ開發利用、戰爭行為繼續中ノ特殊事態、既成政權ノ處辨事項ノ承繼、日本國軍隊ノ撤兵等ニ關スル事項ナリキ之等ノ事項ハ何レモ客年末ノ「日支新關係調整ニ關スル協議書類」中ニ於テ一應ノ解決ヲ與ヘラレ居ルモノナリト雖モ今次交渉ハ之ヲ國家間ノ正式約定トシテ規定セントスルモノナルヲ以テ右事項ニ付テノ地域的又ハ時間的範圍ノ問題ニ關シ或ハ右事項ニ關スル規定ノ表現方法ニ關シ兩國交渉委員間ニ深刻ナル論爭ヲ惹起シタルハ蓋シ已ムヲ得ザリシ次第ナリ更ニ日華双方ノ立場ニ於テ對蹠的ノモノアリシコトモ亦率直ニ之ヲ認メザルベカラズ即チ我方ハ無賠償無割讓ノ大乗の見地ニ立チタリト雖モ第一ニ戰爭行為繼續中ニ在ル我方トシテハ戰爭目的完遂ノ爲ノ絶對的要求ヲ有シ第二ニ東亞新秩序ノ建設ニ今次事變ノ至上意義ヲ求ムル我方トシテハ

右秩序建設ノ爲必須トスル軍事的及經濟的手段ノ確保ニ關スル強キ要請アリ右我方ノ立場ニ對シ中國側トシテハ第一ニ中國ノ主權獨立ノ尊重ヲ絶對的條件ト爲シ從テ第二日華間ニ於ケル凡ユル提携協力ハ平等互惠ノ地步ニ於テノミ行ハザルベカラズトノ制約アリ右ハ中國一般民衆ニ對スル立場ヲ考慮シ重慶政權ニ反省ヲ促サントスル新政府側トシテハ當然ノ主張ナルベキモ我方ノ實質的要請ニ對シ先方ノ主張ハ常ニ二形式、面子ノ上ニアリ即チ我ハ實質ヲ求メ彼ハ形式ヲ糊塗セントス是實ニ今次交渉ニ於ケル彼我ノ立場ヲ對蹠的ナラシメタル最大原因ナリ

然リト雖モ今次交渉ニ於テ双方當事者ガ究極ノ目的ヲ一ニシ前記ノ如ク互ニ對手方ニ對シ深キ同情ト理解トヲ以テ臨ミ爲ニ會議カ常ニ和氣霽々タル雰圍氣ノ裡ニ終始シ圓滿ナル妥結ニ到達シタルノ事實ハ以テ日華兩國間ノ將來ノ緊密ナル提携關係ヲトスルニ足ルモノト謂フベシ

#### 第四節 條約案文ニ對スル「イニシアル」ノ終了

八月二十八日第十五回正式會議ヲ以テ交渉ハ實質的妥結ニ到達シタルニ依リ同日迄ノ交渉成果ヲ一應確認スル意味ニ於テ案文ノ「イニシアル」ヲ行フコトニ日華双方ノ意見一

致シ八月三十一日午後四時ヨリ第十六回正式會議ヲ開催シ先ツ双方ノ首席交渉委員タル日高參事官及楮外交部長ニ於テ左ノ文書ノ日華兩案文ニ付「イニシアル」ヲ行ヒタリ

一、日華滿共同宣言案

二、日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約案

三、附屬議定書案

四、附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項案

五、附屬祕密協定案

六、祕密交換公文(甲)案

七、祕密交換公文(乙)案

八、議事錄拔萃案

九、協議書類照合ニ關スル覺書案

次テ午後五時本使及汪院長議場ニ着席シ先ツ本使挨拶ヲ述ヘ汪院長次ニ挨拶ヲ述ヘタリ(會議記錄參照)本使ハ其ノ挨拶中ニ於テ條約及附屬文書ノ案文ハ本使ノ裁量ニ依リ取纏メタルモノニシテ我方トシテハ先ツ國內手續上之ヲ本國政府ニ報告シ其ノ承認ヲ經ルノ要アリ從テ本國政府ニ於テ檢討ノ結果我方ヨリ右案文ニ付更ニ修正意見ヲ申出ツルコトアリ得ヘキ旨明確ニ留保シタルニ對シ汪院長モ亦其ノ挨拶

中ニ於テハ今次締結セラルヘキ條約及附屬文書ハ中國側ニ於テモ法定ノ手續ニ依リ法定機關ノ議決ヲ經テ始メテ政府ニ於テ之ヲ承認シ得ル次第ナルヲ以テ其ノ間或ハ多少ノ修正ヲ加ヘラルルヲ免レサルヘキ旨述ヘタリ

第五節 第三次訓令ノ受領ト案文ノ字句形式ノ修正

九月初旬松本參事官以下ノ隨員ヲシテ前記「イニシアル」濟ノ案文ヲ携行上京セシメ審サニ交渉ノ經緯ト成果ヲ中央ニ報告セシムル所アリ中央ニ於テハ更ニ關係當局ノ慎重檢討ヲ經九月二十一日附ヲ以テ本使ニ對シ第三次訓令(別紙第五號)ヲ發セラレタリ

仍テ本使ハ隨員ヲシテ右訓令ノ趣旨ヲ體シ修正案ヲ起草セシメ九月二十八日非公式會談ニ於テ之ヲ中國側ニ呈示セシメタル處右修正ハ案文ノ内容實質ニ重大變更ヲ加フルモノニ非スシテ單ニ其ノ字句形式ニ付輕微ノ變更ヲ加フルニ止マルモノナリシヲ以テ中國側モ容易ニ之ヲ應諾セリ

十月一日外交部ニ於テ日高參事官及楮外交部長ノ問ニ更メテ右修正即チ(一)日華滿共同宣言案中國名等ノ順序ヲ日、滿、華ト改ム(二)了解事項第四、中ノ字句ノ修正(三)附屬祕密協定第二條及第三條ヲ切離シテ別個ニ祕密協約案ヲ作成ス(四)右

(三)ニ伴フ祕密協定ノ修正及(五)議事錄拔萃第四、「日本國軍隊ノ撤去完了期」中ノ字句ノ修正ヲ内容トスル修正案ニ「イニシアル」ヲ行ヒタリ

#### 第六節 日華交渉ト滿洲國トノ關係

中華民國ニ依ル滿洲國ノ承認ノ問題ハ今次交渉ヲ通シ最モ機微ナルモノノ一ナリキ蓋シ今次事變ハ滿洲事變ノ繼續トモ見ルヲ得ヘク帝國ニトリテハ滿洲國問題ノ解決ヲ伴ハサル事變ノ解決ハアリ得サル次第ニシテ一方中國側ヨリ見レハ從來滿洲國ノ獨立ハ中國ノ失地ト看做サレ失地恢復ノ要求ニ基ク抗日意識ノ宣揚ハ事變勃發ノ直接ノ動因トナリ現ニ重慶政權ハ依然失地恢復ノ呼號ヲ繼續シ居ル現狀ナルヲ以テナリ

此ノ現狀ニ於テ新國民政府力敢然滿洲國承認ノ態度ニ一決セルハ大英斷ト謂ハサルヘカラス

仍テ今次交渉ニ於テハ我方ヨリハ最初ノ提案要項中ノ一項目トシテ「滿洲國ノ承認措置ニ關スル件」ヲ掲クルニ止メ同國ヲ承認スル主體ハ中國ナルヲ以テ本件ノ具體的取扱振ノ如何ハ中國側ノ自由ナル發案ニ俟タントスルノ態度ニ出テタリ七月二十日非公式會談ニ於テ日本側ヨリ中國側ノ本

件取扱振ニ關スル意見ヲ求メタルニ中國側ハ未タ審議シ居ラスト前提シ周佛海委員ノ個人ノ意見トシテ交換公文程度ノモノニテ取扱フハ如何ト述ヘ双方研究方ヲ約シ散會セリ然レ共本件ヲ荏苒放置スルハ許サレサルヲ以テ八月六日非公式會談ニ於テ我方ヨリ三國共同宣言要綱案ヲ提出シ更ニ本章第二節所述ノ如ク同二十一日第十三回正式會議ニ於テ正式ニ之ヲ提案シ同二十八日第十五回正式會議ニ於テ本宣言案ニ付妥結ヲ見タリ

本宣言發出ノ時期ニ關シテハ當初中國側ハ體面上ノ考慮ヨリ日華間條約署名ノ後日最少限度其ノ翌日ヲ希望セルニ對シ日本側同日ヲ主張シ又本宣言署名者ニ付テハ中國ハ日華間條約署名者ト別人ト爲スヲ希望シ日本側ハ同一人ト爲スヘキヲ主張シ結局右二點ニ付テハ後日篤ト協議スルコトトシ不取敢宣言案文ノ内容其ノモノヲ決定スルニ止メ置キタルモノナリ

尙第十六回正式會議ニ於ケル挨拶中ニ於テ本使ハ日華滿共同宣言案ニ付テハ第三ノ當事國タル滿洲國ノ同意ヲ條件トスルモノナル旨ノ留保ヲ行ヘリ

#### 第七節 日滿華三國委員下協議

日滿華共同宣言案ニ付テノ日華間交渉妥結ノ經緯ハ前節所述ノ通ナルガ右經緯及妥結セル宣言案ノ内容ハ帝國政府ヨリ滿洲國政府ニ通報セラレ滿洲國政府ニ於テハ同宣言署名ノ爲全權委員ヲ派遣スルニ先チ日滿華三國間ノ下協議ノ爲委員ヲ派遣スルニ決定シ韋外務局長官ヲ右下協議ノ爲ノ委員ニ任命セリ

韋長官ハ十一月五日尾形外務局參事官以下五名ノ隨員ト共ニ南京ニ到着シ十一月六日日本大使館ニ於テ日本側委員日高參事官以下ノ隨員ト内協議ヲ遂ゲ翌七日午前十一時ヨリ國民政府内寧遠樓ニ於テ開催セラレタル日滿華三國下協議ニ臨ミタリ

中國側ハ褚外交部長十月末ヨリ要務ノ爲廣東ニ出張シ未ダ歸來セザリシ爲徐外交部政務次長代部長トシテ中國側委員ノ任ニ當レリ七日第一回下協議ニ於テ先ヅ徐委員開會ノ挨拶ヲ述べ右挨拶中ニ於テ徐委員ハ滿洲國ハ元中華民國ノ領土ノ一部ナリシモ歐亞陸路交通ノ要衝ヲ扼シ共產主義國家ト相隣接セルガ故ニ其ノ地位施設ハ常ニ世界ノ注目スル所トナリ同國ガ赤化ヲ防止シ邊境ヲ鞏固ニスル爲政治的體制ヲ變更シ以テ其ノ自由生存ノ能力ヲ増大スルコトハ中國側

トシテモ之ヲ希望スルモノナル旨竝ニ中華民國ノ外交政策ハ由來獨立自由平等互助ヲ以テ其ノ原則トナシ來リタル處今ヤ滿洲國ガ獨立自由ノ精神ヲ發揮シ能ク新國家ヲ創造シ然モ情勢上中日兩國ト平等互助ノ必要ヲ有スルニ至リ中華民國政府ハ之ニ對シ自ラ同情ヲ表シ今後相互ニ誠意ヲ以テ協同シ永久ニ提携スベク過去三百年間互ニ痛癢ヲ同ジウシ甘苦ヲ共ニシタル尊キ歴史の結合ハ決シテ今日政治形式上ノ變更ニ依リ聊モ疎遠トナルモノニ非ズ更ニ進ンデ兩國ノ凡ユル力ヲ聯合シ東亞ノ秩序ヲ安定シ中日滿三國ヲ共存共榮ニ導カザルベカラズト信ズル旨述べタルガ右ハ滿洲國ニ對スル新國民政府側ノ見解ヲ端的ニ表明セルモノトシテ注目ニ値スベシ

次デ日高委員ヨリ宣言案ノ説明ヲ爲シタル處韋委員ハ滿側ハ宣言案ノ趣旨ニハ完全ニ同意ナルモ字句ノ點ニ付質問シタシト前提シ數個ノ質問ヲ爲シ(會議記錄參照)之ニ對シ日高、徐兩委員ヨリ交々説明シ韋委員宣言案ノ字句モ明瞭ニ理解セリトテ直ニ宣言案受諾ノ意ヲ表シタリ尙其ノ際日高委員ヨリ三國委員間ニ妥結ヲ見タル本宣言案ハ三國政府ノ夫々承認ヲ經テ初メテ確定スルモノナル旨及本宣言ハ名ハ

宣言ナルモ實質上ハ完全ナル國際約定ナル旨述べタルニ徐、  
韋兩委員共ニ日高委員ノ見解ニ同意セリ

十一月七日午前十一時第二回日滿華下協議ヲ開催前回ニ於  
テ討議ヲ盡シタルヲ以テ直ニ三國委員ニ於テ宣言案ニ「イ  
ニシアル」ヲ施シタル後韋委員立チテ本宣言案妥結ノ意義  
ヲ強調スルト共ニ中華民國政府ガ其ノ高邁ナル理念ニ基キ  
滿洲國成立ノ意義ニ共感シ其ノ自由生存ヲ尊重シ此ノ基礎  
ノ下ニ誠意合作永久提携ノ關係ヲ設定スルニ至リシコトハ  
滿洲國ニトリテハ勿論東亞ノ恆久的平和ノ爲衷心歡迎スル  
モノナル旨ノ挨拶ヲ述べ散會セリ

日滿華三國下協議ハ斯クテ終了セルガ中國側褚部長ノ不在  
ハ當初滿側ニ多少ノ不滿ヲ與ヘタルガ其ノ後徐代部長以下  
中國側ノ誠意ヲ以テノ應待、汪代理主席訪問ノ際ノ厚遇等  
ニ依リ不滿モ解消シ三國下協議モ友好的零圍氣零ノ間ニ終始  
シ圓滿妥結ヲ見タルハ將來ニ於ケル滿華兩國間ノ國交ノ爲  
好影響アルモノト認メラル

#### 第四章 條約ノ調印

##### 第一節 調印準備ト汪兆銘ノ正式主席就任

前記第三次訓令ニ基ク條約案文ノ修正交渉妥結ニ到達セル

ヲ機會ニ從來ノ交渉經緯ヲ親シク中央要路ニ報告シ旁々紀  
元二千六百年紀念式典ニ參列ノ爲十月下旬本使南京ヲ出發  
歸朝ノ途ニ就キタリ中央ニ於テハ既ニ關係當局ニ於ケル條  
約案ノ審議進行シ條約締結ニ關スル國內手續ヲ準備中ナリ  
シカ十一月十三日畏クモ御前ニ於テ政府大本營聯絡會議開  
カレ條約案ノ可決ヲ見十五日閣議ヲ經即日奏後樞密院ニ  
廻附セラレ二十日二十一日兩日ノ樞密院審查委員會ニ於テ  
可決セラルルノ運ヒニ至レリ

仍テ本使ハ二十六日急遽南京ニ歸任シ隨員ヲシテ外交部及  
滿洲國通商代表部トノ間ニ調印手筈ニ關シ打合セテ遂ケシ  
メ右打合ノ結果左ノ通決定ヲ見タリ

一、調印日時 十一月三十日午前十時ヨリ日華間條約ノ署名  
調印ヲ行ヒ同日午前十二時ヨリ日滿華共同宣言ノ署名調  
印ヲ行フ

二、調印者 日華條約ハ本使及汪院長、日滿華共同宣言ハ本  
使、臧全權、汪院長トス

三、調印地及場所 調印地ハ南京トシ場所ハ國民政府内大禮  
堂トス

四、條約ノ發表 日華間條約及日滿華共同宣言共十一月三十

## 5 日華基本条約の締結

日午後一時發表ス

中國側ニ於テハ二十八日行政院會議及中央政治委員會ノ聯席會議ヲ開催條約案ヲ通過シ翌二十九日立法院會議ニ上程之ヲ可決セリ兩日ノ會議ニ附議セラレタルハ基本條約、附屬議定書、了解事項及日滿華共同宣言案ノ四文書ノミナリシ趣ニシテ會議ノ席上ニ、三質問出テタルモ大ナル波瀾ヲ見スシテ通過シ陳立法院長ハ條約案上程ニ當リ審議ヲ許スモ修正ヲ許サストノ斷乎タル態度ヲ以テ會議ニ臨ミタル趣ナリ

尙汪兆銘ハ二十八日中央政治委員會ニ於テ國民政府ノ正式主席ニ推選セラレ翌二十九日午前八時ヨリ主席就任式ヲ舉行セリ中華民國ニ於ケル條約ノ締結權ハ國民政府自體ニ存シ主席ハ單ナル代表權ヲ行使スルニ過キス且國際法上ノ見地ヨリスルモ汪兆銘カ代理主席タルト正式主席タルトハ國民政府ノ締結スル條約ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及スモノニ非スト雖モ右ハ法律論タルニ止リ政治的ニ之ヲ見レハ汪兆銘カ日本ニ敵對スル林森主席ノ代理トシテ條約締結ノ衝ニ當ルハ奇異ノ感アルヲ免レス國民政府部内ニ於テモ此ノ際汪カ正式主席ニ就任シ責任ノ歸趨ヲ明確ニシ内外ニ對シ旗旒

ヲ鮮明ニススヘシトノ主張有力トナリ前記ノ如ク正式主席就任ヲ見タルモノナリ

前記ノ打合せニ基キ南京ニ於ケル調印準備ハ着々ト整ヒ調印本書モ二十八日東京ヨリ到着シタルモ共同宣言ノ署名ニ當ルヘキ滿洲國全權臧參議府議長及滿側隨員ハ天候ノ都合ニテ來寧遲延シ漸ク二十九日午後ニ至リ着寧セリ

### 第二節 調印式

<sup>(一)</sup>十二月二十七日樞密院本會議ニ於テ條約案可決セラレ翌二十八日御裁可ヲ得同日夜ニ至リ本使ニ對スル署名方ノ訓令電報ニ接シ翌二十九日松本條約局長携行ノ署名方ニ關スル外務大臣ノ指令ヲ入手セリ仍テ訓令ニ從ヒ翌十一月三十日午前十時國民政府大禮堂ノ調印式場ニ赴キ本使汪行政院長ト共ニ左ノ條約及附屬文書ニ署名調印ヲ了シ竝ニ公文ノ交換ヲ遂ケタリ

一、日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約

二、附屬議定書

三、附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

四、附屬祕密協約

五、附屬祕密協定

六、秘密交換公文(甲)

七、秘密交換公文(乙)

尙調印式二際シ本使汪行政院長ト共ニ議事錄拔瘁<sup>家カ</sup>ニ署名シ又調印式二先チ九時三十分日高參事官及褚外交部長ノ間ニ協議書類照合ニ關スル覺書ノ署名ヲ行ヒタリ

右調印終了後汪院長別紙第六號ノ如キ挨拶ヲ述ヘ之ニ對シ本使別紙第七號ノ通挨拶ヲ述ヘタリ

同日午前十二時再ヒ大禮堂ニ赴キ本使、臧全權、汪院長ノ間ニ日滿華共同宣言ノ署名調印ヲ了シタリ右共同宣言調印式場ニ於ケル汪院長、本使、臧全權ノ挨拶夫々別紙第八號、第九號、第十號ノ通

同日午後二時本使ハ今次條約及共同宣言ニ關シ別紙第十一號ノ通談話ヲ發表セリ

第三節 條約ノ調印ト今後ノ對支施策管見

斯クテ本使ノ有スル重要任務ノ一タル日華間ノ國交調整ニ關スル條約ノ締結ハ滯リナク結了ヲ見タル處茲ニ聊カ條約締結ニ際シテノ所感ヲ述ベ併セテ今後ノ對支施策ニ關スル所見ヲ開陳シテ本報告ヲ終ラントス

今次條約ノ調印ハ支那事變解決ノ上ニ於テ固ヨリ一ノ重要

ナル段階ヲ劃スルモノナリト雖モ右ハ飽ク迄新ナル段階ノ出發點ヲ爲スモノニ過ギズシテ今次條約締結ノ目的ヲ達成センガ爲ニハ今後更ニ長期ニ亘リ日華兩當事國ノ努力ニ俟ツモノ鮮カラザルハ言フ俟タザル所ナリトス

然リト雖モ今回ノ條約締結ノ直接ノ效果トシテ擧グベキモノアルハ亦之ヲ否ムベカラズ蓋シ中國側ヨリ見レバ前述ノ如ク新國民政府ノ成立以來汪主席以下政府部内ノ擧ゲテ待望セルハ日華間ノ國交調整ニ關スル基準ノ速カナル確定ニシテ然モ同國トシテハ其ノ施政各般ノ方針ノ決定ハ其ノ前提トシテ右基準ノ確定ナクシテハ之ヲ爲シ得ザル所ナルヲ以テナリ國民政府ハ今日迄其ノ不利ナル環境ニモ拘ラズ短時日ノ中ニ克ク行政ノ機構ヲ整備シ其ノ財政ヲ健實ナル基礎ニ置キ我方ノ協力ノ下ニ經濟、產業、文化ノ各般ニ亘リ着々トシテ業蹟ヲ擧ゲ來リタルハ事實ナリト雖モ日華間ノ國交調整ニ關スル基準ノ未ダ確定セザル間ハ同國施政ノ全般ヲ通ジ明確ナル方針ノ缺如ニ基ク不安定ノ感アリシヲ否ムベカラズ

然ルニ今回ノ條約調印ニ依リ新政府トシテハ其ノ内政外交ヲ通ジ今後確固タル方針ト一定ノ計畫ノ下ニ施政ノ運用ヲ

行フヲ得ルコトナリタル次第ニシテ此ノ意味ニ於テ條約ノ調印ハ新政府ニ對シ大ナル激勵ト鼓舞ヲ與ヘタルモノト認メラル是條約調印ノ中國政治ニ與ヘタル直接ノ效果ナリ一方帝國トシテモ今次條約ハ單ニ在支帝國官憲及居留民ニ對シテノミナラズ一般國民ニ對シ事變處理方途ニ付明確ナル準繩ヲ示シタルモノト謂フヲ得ベク右ハ今後ノ我對支施策ノ遂行ヲ容易ナラシムルノ效果アルモノト認ムルヲ得ベシ

今次條約締結ノ目的達成ノ爲ニハ將來更ニ長期ニ亘ル努力ヲ要スベキコト前述ノ通ナル處條約ノ締結後ニ於ケル我對支施策遂行ノ上ニ於テ左ノ諸點ニ付テハ特ニ我方トシテ注意ヲ要スルモノト認メラル

一、惟フニ今次條約ハ之ニ依リ新國民政府ヲ中華民國ニ於ケル唯一ノ正當政府トシテ承認シ同時ニ東亞新秩序建設ノ責務ヲ同政府ニ分擔セシメントスルモノナルヲ以テ今後ニ於ケル我對支施策ノ最重要眼目ハ右共同責務ノ分擔者タル國民政府其ノ者ノ地位ヲ育成強化スルコトニ在ルコト多言ヲ要セザルベシ而シテ國民政府ノ地位ノ強化ハ中國民心ノ把握ニ基ク同政府ノ政治力ノ培養強化ニ俟タザ

ルベカラズ固ヨリ新國民政府ハ帝國軍隊ノ作戰地域内ニ存在スルモノナルヲ以テ當分ノ間同政府ノ活動分野ニハ自ラ一定ノ制約アルヲ免レザルベキモ同政府ノ地位強化ノ爲ニハ我方トシテ作戰上ノ支障ナキ限り新政府側ノ創意ト積極的活動ニ對シ最大限度ノ機會ヲ與フルノ準備ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ今次條約締結ノ道義的目標ニ鑑ミ苟クモ利己的ニ流ルル要求ハ我方トシテ嚴ニ之ヲ自制スルノ用意ナカルベカラズ世上往々新政府ヲ以テ帝國ノ傀儡視シ之ヲ以テ我方ノ一方的要求ノ實現ノ具ト爲サントノ論アル處斯クノ如キハ内自ラ欺クト共ニ外中國側ノ帝國ニ對スル信賴ヲ裏切ルモノニシテ事變處理ニ關スル我方本然ノ目的達成ニ支障ヲ來サシムルモノト謂ハザルベカラズ此ノ點ニ關シテハ今後ノ對支施策遂行上特ニ周到ノ注意ヲ拂フノ要アリト認メラル

二、今後ノ對支施策中ノ最重要分野ハ占領地域ニ於ケル經濟ノ運營ニ在リ蓋シ占領地域ニ於ケル經濟施策ノ適否ハ直接我方ノ作戰進行ニ至大ノ影響ヲ及ボスノミナラズ中國ニ於ケル一般治安ノ維持乃至民心ノ把握其ノ他各般ノ見地ヨリシテ我事變處理方策ノ成否ヲ決スル重大問題ナル

ヲ以テナリ新政府承認後ニ於テハ右問題ノ重要性ハ益々大キヲ加フル次第ニシテ特ニ占領地域ニ於ケル物資ノ流通、非占領地域及第三國方面ヨリノ物資ノ吸收、中國民族資本ノ利用及第三國資本ノ活用等ニ付テハ日華兩國協力シテ大局の見地ヨリ適切ナル具体方策ノ運用ヲ行フコト最モ必要ナリト認メラル

三、最後ニ國民政府承認後其ノ對蹠的存在タル重慶政權ニ對スル施策ノ如何ハ直接今次事變ノ全面的解決ニ觸ルル重要問題ナリ而シテ今次新政府ノ承認ト對重慶工作トハ本質上互ニ矛盾スルモノニ非ズシテ却テ兩者相輔翼スルノ關係ニ在ルモノト認メラルルモ今日遽カニ重慶政權ノ翻意合流ヲ求ムルコトハ未ダ猶客觀情勢ノ熟セザルモノアリ蓋シ重慶政權ガ既ニ實質上一地方政權ニ墮シツツモ依然抗戰ヲ繼續スル所以ノモノハ其ノ背後ニ從來ヨリ同政權ト深キ因縁ニ依リ結バルル第三國勢力ノ伏在スルアルニ依ルモノニシテ重慶政權ノ處理ハ結局帝國ト右背後勢力トノ關係ノ調整ヲ其ノ前提條件トスルモノナルヲ以テナリ仍テ對重慶施策ノ考慮ハ深く右裏面ニ對スル洞察ナクシテ之ヲ行フヘカラザルモノト思惟セラル

右ノ見地ヨリセバ我對支施策ハ結局ニ於テ帝國ノ世界政策トノ關聯ニ於テ之ヲ考慮スルヲ要スルモノト謂ハザルベカラズ支那事變處理方策ヲ對支施策ト對第三國施策トニ岐タバ前者ハ事變處理ノ内苞ヲ後者ハ其ノ外核ヲ構成スルモノト見ルヲ得ベク先ゾ外核工作ニ重點ヲ置クハ一見迂遠ナルガ如シト雖モ今日ノ客觀情勢ヨリ見レバ右ハ却テ捷徑ニシテ此ノ意味ニ於テ目下ノ我外交施策ノ焦點ヲ對第三國就中對「ソヴィエト」聯邦及對米關係ノ調整ニ置クハ事變ノ全面的解決ノ見地ヨリ見ルモ極メテ緊要事ナリト思料セラル

#### 附記

日華條約締結ノ任務終了ヲ期トシ右復命報告ノ爲本使十二月十六日歸朝シ同月十八日參內拜謁仰付ケラレ本報告書ノ要領ニ依リ謹ンテ闕下ニ復命奏上セル處畏クモ本使ニ對シ左ノ通優渥ナル勅語ヲ賜リタリ

卿曩ニ國民政府ノ成立ニ方リ特ニ特命全權大使トシテ中華民國ニ使シ今茲ニ其ノ復命ヲ聽ク卿愼重克ク謀リ精勵事ニ從ヒ以テ其ノ任ヲ竭セリ  
朕深ク其ノ勞ヲ嘉ス

編  
注

本文書は、「日華條約締結ニ關スル復命報告書」の第三章および第四章の本文を抜粋採録し、別紙はすべて省略した。

